令和元年度

事 業 報 告 書

公益財団法人しまね自然と環境財団

島根県立三瓶自然館サヒメル

三 瓶 小 豆 原 埋 没 林 公 園

三 瓶 山 北 の 原 キ ャ ン プ 場

しまねエコライフサポートセンター

はじめに

昨年末、中国湖北省武漢で始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行は瞬く間に世界中に感染が拡大し、日本国内では一万人を超える感染者と五百人あまりの死者を出すという事態となっています。県内でも松江市、出雲市で20人を超える感染者が出ています。島根県立三瓶自然館は令和2年4月16日に半年以上にわたる改装工事を経てリニューアルオープンの予定でしたが、県からの指示により4月10日から三瓶小豆原埋没林公園、北の原キャンプ場(4月18日から閉鎖)を含めて休館となっています。

三瓶自然館は昨年度後半に平成14年の新館等増設工事以来となる大がかりな工事が行われ、特に本館1階、2階は平成3年の開館以降使用してきた展示システムを一新し、新たな知見を随所に取り入れた展示内容となりました。三瓶小豆原埋没林公園では念願のガイダンス棟が新設され、これまで展示説明を展示棟内通路で行っていたものを数十人収容可能なガイダンス棟の新設により埋没林の形成過程や地下10数mでの展示技術などをじっくりと研修することが可能となりました。リニューアルオープンを目前に控えた時期でのやむを得ない閉館であり、たいへん残念ではありますが再開時に向けた衛生対策の強化を図っているところであります。

さて、5月1日には新しい天皇陛下がご即位され元号も「令和」に改まった昨年は、即位の日をはさんだゴールデンウィークは最大10連休という超大型のものになりました。当財団が運営する各施設でもたくさんの来訪者で大変な賑わいとなりました。しかしながら、三瓶エリアの隣接する観光施設の長期にわたる故障休業や改装工事による休館の影響や、盆に来襲した台風10号の影響、11月からの自然館の工事閉館などの複数の要因が重なったため、昨年に引き続き入館者が10万人を下回るという残念な年となりました。

このような1年ではありましたが、しまね自然と環境財団が管理運営している中心的施設の三瓶自然館は国立公園三瓶山をフィールドに、自然に親しむ場の提供とともに展示や普及啓発、資料収集、調査研究などを進め、引き続き多くの方にご利用いただきました。

春の企画展は「旅するいのち～島根と世界をつなぐ生きものたち～」をテーマに遙か彼方まで旅する生きものの中から、島根にも来る鳥や虫、海の動物・植物などを展示・紹介しました。

夏の特別企画展では、アポロ11号による人類初の月面着陸から50年に当たることから、月をテーマとした「ボーっと眺めてたら叱られる！今こそ知りたい月のなぞ」を開催しました。アポロ15号が持ち帰った「月の石」やアポロ船内宇宙服などを始めとした科学的側面に加え、月にちなんだ物語など文化的側面の紹介も行いました。

このような企画展や野外観察、ドーム映像、天体観察会などを通じて当館に足を運んでいただいた県内外の小中学生を中心とする皆さんには、博物館を楽しみながら自然科学に親しんでいただけたものと思っています

また、三瓶小豆原埋没林公園では、県により展示中の杉巨木の安定した保存のための表面処理が29年度から始まっており、加えて地下水位の安定化に向けた検討や展示等外の埋没木の保存対策ついても検討されているところです。

さらに、北の原キャンプ場は、「豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場」となるよう管理運営に心がけ、令和元年度も引き続き多くの利用者に来場いただくことができました。

松江事務所で進めている環境保全活動事業では、引き続き県民一人ひとりに地球温暖化問題やエネルギー問題などの諸課題に対する関心を高めてもらうよう取り組んでいます。また、エコライフの情報の発信や環境保全団体への活動支援を通じて、地域の環境保全活動を担うボランティアが自主的、主体的に活動できるよう引き続き支援を行ってきているところです。

これからも引き続き、創意工夫しながら運営に取り組みスキルアップを図り、皆様から期待され応援いただける施設・団体となるよう職員一同努めて参ります。

そして新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息し、ここ三瓶に再びたくさんの皆様に足を運んでいただける日が一日でも早く訪れることを心から祈念するばかりです。

令和2年4月

公益財団法人しまね自然と環境財団

理事長　**廣澤卓嗣**

目　　次

Ⅰ．運営方針、管理運営の体制

1　財団の目的 ……1

2　財団の事業 ……1

3　運営方針 ……1

4　財団の管理する施設の概要 ……2

5　組織 ……4

Ⅱ．三瓶自然館及び附属施設運営事業（三瓶自然館等運営事業）

1　三瓶自然館 ……6

2　三瓶小豆原埋没林公園 ……31

3　施設利用許可業務 ……34

4　施設の維持管理に関する業務 ……41

5　物品の管理等 ……47

Ⅲ．地球環境の保全に関する活動支援事業（環境保全活動事業） ……48

Ⅳ．北の原キャンプ場管理運営事業 ……60

Ⅴ．利便提供事業 ……63

Ⅵ．各種資料

1　数値目標を掲げた運営 ……64

2　利用者の推移 ……68

3　沿革 ……69

4　資料 ……71

5　評議員会・理事会等 ……79

Ⅰ.運営方針、管理運営の体制

１．財団の目的

公益財団法人しまね自然と環境財団は、島根県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護及びその他の環境の保全に関する普及啓発事業等を行い、広く県民に対して環境保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域の振興に寄与することを目的とする。

２．財団の事業

(1)自然系博物館施設及び展示施設の管理運営事業
(2)自然保護及び自然環境に関する調査研究、並びに普及啓発事業
(3)環境教育及び環境学習に関する事業
(4)地球環境の保全に関する活動支援事業
(5)自然資源の利用促進等を通した地域振興事業
(6)その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

３．運営方針

当財団は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設(三瓶小豆原埋没林公園)、大田市の施設である北の原キャンプ場の指定管理者として、それぞれ島根県並びに大田市から指定されている。

これらの施設の運営にあたっては、次の6つの基本方針を共有しながら、各施設の特色を発揮させるとともに、法人として「自然に関するシンクタンク」的役割を担い、もって社会に貢献していくことを目指している。

・企画展、観察会や各種イベントを充実し、自然に親しむ場、自然を学ぶ場を提供する。
・学校、大学や研究機関、地域とのつながりを大切にした運営をする。
・調査研究、博物館資料の収集保管に力を入れ、バックボーンがしっかりした博物館を目指す。
・SNSやマスメディアを利用した情報発信、PRを行い、もっと身近な三瓶自然館を目指す。
・心のこもったおもてなしと、不測の事態に備えた点検、訓練を実施し、安心して何度でも利用したくなる施設を目指す。
・入館者及び入館料収入の確保を目指すとともに、経費の節減に努め、安定した経営を目指す。

また、松江事務所を中心に展開する県民への環境保全活動支援では、事務所の愛称を「しまねエコライフサポートセンター(エコサポしまね)」とし、地球温暖化をはじめとする地球環境の課題の啓発を図り、各キャンペーンや環境保全活動への助成を行っている。事業実施にあたっては行政機関や三瓶自然館等の施設との連携を密にして、効率的で効果的な事業展開に努める。

4．財団の管理する施設の概要

(1)島根県立三瓶自然館サヒメル

島根や三瓶の自然、三瓶小豆原埋没林、環日本海地域の自然に関する展示、プラネタリウムや大型ドーム映像を映し出すビジュアルドーム、天体観察施設、博物館資料の収蔵庫、研究室などを備えた自然系博物館であり、三瓶山全体をひとつの野外博物館と考える三瓶フィールドミュージアムの中核としてビジターセンター機能も兼ね備えた施設である。

所　在　地　　島根県大田市三瓶町多根1121番8
開設年月日　　平成3年10月19日(平成14年4月18日拡充開館)
面　　積　　敷地面積　　14,822㎡
　　建築面積総計　　4,574㎡(令和元年度整備後)
　　建物延べ床面積総計　　8,678㎡(　　〃　　)
施設内容　　本館 常設展示(島根県と三瓶の自然)、ビジュアルドーム、受付、売店など
　　別館 レクチャールーム、企画展示室
　　新館 常設展示(小豆原埋没林、環日本海の自然、フィールドガイド)
　　天体観察施設、収蔵庫、研究室、文献図書館など
附属施設　　三瓶山ヘルシートレイリングコース(北の原～東の原　片道4.5km)
　　北の原芝生多目的広場

(2)三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林公園は、約4千年前の三瓶山の噴火で埋もれた埋没林を現地で展示、公開する施設である。

施設は、大小二つの地下展示棟と芝生園地からなる。展示棟では、原位置のままで立ち並ぶ埋没樹を展示している。芝生園地は、発掘調査で確認された埋没林を埋め戻し保存している範囲である。当施設の敷地範囲が天然記念物(国)に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割である。

所　在　地　　島根県大田市三瓶町多根ロ58番2
開設年月日　　平成15年5月2日
面　　積　　敷地面積　　約10,000㎡
　　延面積
　　・管理棟　　142.56㎡
　　・大展示棟　　1,142.59㎡
　　・小展示棟　　97.09㎡
　　・ガイダンス棟　　120.00㎡(令和元年度整備後)
　　延面積合計　　1,502.24㎡(　　〃　　)
施設内容　　管理棟　　受付、売店、事務室、機械室
　　大展示棟　展示室、機械室
　　小展示棟　展示室
　　ガイダンス棟

(3)三瓶山北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場は、国立公園三瓶山の自然の中にある県立キャンプ場として、昭和44年に開場した(平成22年に大田市に移管)。本年度までの利用者は90万人を超え、県民及び県外からの来訪者の憩いの場としての役割を果たしている。

広い敷地内に一般サイト、オートサイト、ケビン、団体向けの集団サイト、キャンプファイヤー場があり、個人客のほか学校団体や企業の職員研修等に利用されている。

また、平成24年度に大田市により、犬と泊まれるバンガローとドッグランが設置されており、愛犬と利用できる環境も整備されている。

所在地	島根県大田市三瓶町多根1121番1	
開設年	昭和44年	
面積	敷地面積	180,891㎡
施設内容	セントラルロッジ	受付、事務室、多目的ホール、売店など
	オートキャンプサイト	73区画
	一般キャンプサイト	フリーサイト(テント200張可)
	ケビン	大型ケビン3棟　小型ケビン10棟
	バンガロー	5棟
	ドッグラン	2区画、休憩所2棟
	その他(シャワー棟、キャンプファイヤー場、炊事棟、トイレ棟　など)	

5．組　織

□評議員･役員名簿(評議員7名、役員7名、計14名)

＜評 議 員＞

議　　長	平塚貴彦
評 議 員	鈴垣英晃
	高瀬寿子
	高橋泰子
	福間　直
	宮永龍一
	蓮花正晴

＜役　員＞

理 事 長	廣澤卓嗣
常務理事	酒井浩純
理　　事	石田弘行
	末成弘明
	栂　恒雄
監　　事	中原良輝(～R元.6.20)
	松村　浩
	安井尚之(R元.6.20～)

□三瓶自然館運営委員名簿(13名。理事会が事業推進のために設置する委員会)

委 員 長	島田一嗣	委　　員	藤井伸治
委　　員	秋吉英雄		藤井好文
	今井　靖(～R元.6.30)		船木三紀夫
	梅田英樹(～R元.6.30)		掘江真佐邦(R元.7.1～)
	塩野目　望(R元.7.1～)		松井律子
	瀬川　涼(～R元.6.30)		松本一郎
	高橋尚彦(R元.7.1～)		宮本隆正
	錦織拓郎		山口啓子

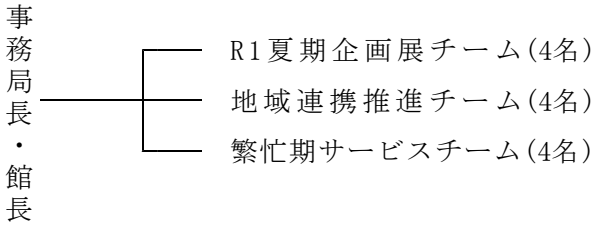
□事務局(役員1名、職員42名、臨時職員16名 計59名。令和元年7月1日現在、兼務除く。)

常務理事(事務局長・館長) ― 事務局次長・所長

- 総　務　課 → 法人事務及び施設･設備管理に係る業務を所掌
  - ・フィールド管理
- 企画情報課 → 施設運営及び広報、情報発信に係る業務を所掌
  - ・ミュージアムショップ
  - ・三瓶小豆原埋没林公園
  - ・三瓶山北の原キャンプ場
- 学　芸　課 → 自然環境(生物、天文、地質等)に係る博物館業務を所掌
  - ・天文事業室
  - ・おもてなし推進室(アテンダントグループ)
- 環境事業課(松江事務所) → 環境保全活動支援及び地球環境問題に係る業務を所掌
  - ・地球温暖化防止活動推進センター
  - ・しまねエコライフサポートセンター

□プロジェクトチーム(令和元年7月1日現在)

重点課題や特定の業務を処理するため、課の枠を超えた職員構成によるプロジェクトチームを設置し対応にあたった。



□職員名簿(令和元年7月1日現在)　59名(兼務除く。役員1名、職員42名、臨時職員16名)

【財団本部】51名　(うち兼務2)

事務局長・館長	酒井浩純
事務局次長	石田浩二

<総務課>10名　(うち兼務1)

課長(事務取扱)	石田浩二
課長代理	米浦道子
主事	田原いづみ
〃	山本健太郎

(フィールド管理)

スタッフ	高木保
〃	狩野祥文
〃	三輪洋二
〃	大上雅史
〃	小丸政美
〃	古谷利雄

<企画情報課>18名

課長	熊谷正浩
調整幹	中村唯史
企画員	田中宏明
〃	竹下瑠美
スタッフ	安原豊子
〃	小原美保子

(小豆原埋没林公園)

チーフ	大野志津香
スタッフ	石田弓子
〃	中山侑也
〃	福田哲夫
〃	三富洋

(北の原キャンプ場)

チーフ	藤原昌己
サブチーフ	岡田桂
スタッフ	西本真理子
〃	三瓶彬
〃	桐原信夫
〃	太田和良
〃	岩倉敏範
〃(出向)	三嶋美穂

<学芸課>22名　(うち兼務1)

課長(植物)	井上雅仁
地質担当(兼務)	中村唯史
企画幹(鳥類)	星野由美子
企画幹(昆虫)	皆木宏明
研究員(ほ乳類)	安藤誠也
研究員(植物)	松村美雪
スタッフ(昆虫)	三島秀夫
スタッフ(植物等)	松原勝志

(天文事業室)

室長(天文)	竹内幹藏
主任研究員(天文)	太田哲朗
主任研究員(天文)	矢田猛士
スタッフ(天文等)	龍善暢

(おもてなし推進室)

室長	大草秀美
ﾁｰﾌ･ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ	山本めぐ美
ｻﾌﾞﾁｰﾌ･ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ	細田須美子
アテンダント	槇原舞
〃	小田佐由香
アテンダント	和田ひみこ
〃	宮脇成美
〃	大谷朗子
〃	田中友子
〃	藤原奈央

【松江事務所】6名

所長・センター長	荒木正秀

<環境事業課>5名

課長・副センター長	葭矢崇司
企画幹	野崎研
企画員	伊藤玲子
〃	門脇恵美
〃	川本愛祈

※「センター」とは、「島根県地球温暖化防止活動推進センター」をいう。
※網掛けは臨時職員として雇用する者。

Ⅱ.三瓶自然館及び附属施設の運営事業

1．三瓶自然館

本年度は島根県によりビジターセンター機能強化と展示更新にかかる改修工事が実施され、11月中旬から臨時閉館した。そのため、企画展は例年より少ない年2回の開催となったが、春期は生物の移動、夏期は月をテーマとした企画展を開催し、多数の資料類の展示や講座等を通じて広く県民に向けて自然情報を発信することに努めた。特にゴールデンウィークの超大型連休では県内外より多くの来館があり、館内は連日賑わいを見せていた。企画展以外にも、イベント等の事業や調査研究成果の公表を通じて情報発信を行うとともに、学校学習、生涯学習に貢献した。

(1)常設展示

県立の自然系博物館であり、三瓶山地区のビジターセンターであることをふまえ、本館では島根県及び三瓶山の自然について、展示パネル、剥製やレプリカ、映像などの展示を行っている。また新館では、三瓶小豆原埋没林標本の実物展示、島根県を中心とした環日本海地域の自然の展示、天文展示のほか、フィールドガイド、こどもはくぶつかんの展示を行っている。

季節に応じた展示物の入れ替え、野外でみられる草花の紹介、来館者からの要望に応じた解説などを行い、展示への興味関心を深めるよう工夫した。

11月中旬以降は閉館となったが、島根県に協力しながら、新しい展示の準備を行った。

□館内案内･テーマ解説

館内案内はアテンダントにより随時実施しているほか、研究員によるテーマ解説(館内展示や特定分野に関する専門的解説)を、予約を受けて実施した。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 4.資料(p.71)」参照)

実施数：12件　368人(テーマ解説)

(2)企画展

①春期企画展

「旅するいのち～島根と世界をつなぐ生きものたち」

生きものたちの中には、旅をしながら命を紡いでいくものがいる。小さな植物のタネの旅から大きな体を運ぶものまで、旅の形はさまざま。旅する場所も、大空から陸上そして広大な大洋まで幅広く移動している。

今回の企画展では、私たちの身近にいる生きもののうち、国境を越えて旅をする生きものをとりあげた。小さな生きものの壮大な旅や、大きな生きもの雄大な旅に想いを馳せ、地球環境と生きものの多様性を意識してもらえるような展示とした。

期　間：3月16日(土)～5月26日(日)　*会期：63日(休館日を除く)

入場者：25,059人(三瓶自然館総入館者数)

◆主な展示

□旅する理由･旅する童話(本館2階　回廊)

ヨーロッパを舞台にした2つの旅する生きものの童話(ニルスのふしぎな旅、長鼻くんといううなぎの話)をイラストで紹介。原作の小説や絵本も併せて展示。企画展示室近くのボードには、大移動する生きものたちの「旅する理由」を紹介。

□旅する生きもの(別館2階　企画展示室)

海棲動物、植物、昆虫など、命を紡ぐために国境を越えて旅をする生きものたちの生態について剥製やパネル展示等で紹介。

主な展示：ハセイルカ、カマイルカ、ニホンウナギ、クマガイソウ、オニノヤガラ、フウラン、トキソウ(以上の所蔵：鳥取県立博物館)、ドタブカ、ホオジロザメ、キタオットセイ(以上の所蔵：島根県立しまね海洋館)、ハマオモト、ハマボウ、モダマのタネ(以上の所蔵：大阪市立自然史博物館)、サケ(所蔵：下府川を楽しむ会)、アサギマダラ、タイリクアキアカネ、ウスバキトンボ、アサギカメムシなど

□移動する鳥たち(別館2階　企画展示室)

島根県内で繁殖し、国境を越えて越冬する鳥や島根県を代表する宍道湖や中海などで越冬する水鳥を剥製等で紹介。また、移動を追跡するさまざまな機材や当館で実施する調査研究の状況を紹介。

主な展示：コウノトリ、アカショウビン、サンコウチョウ、ヤイロチョウ、コハクチョウ、スズガモ、ツグミ、ルリビタキ、マナヅル、アカエリヒレアシシギ、衛星を利用したアルゴスシステムの発信機(所有：(株)キュービック･アイ)、データロガー(照度記録装置、GPS記録装置)、ヒシクイなど

□旅を脅かす３つの危機(別館2階　企画展示室)

捕食や捕獲、開発と喪失、地球温暖化と気候変動の3つの視点から、環境の変化が生きものの移動に与える影響と生物多様性の喪失などについて解説パネルで紹介。

□旅させられたいのち(別館2階　企画展示室廊下)

人間の都合で日本国内へ移動させられたさまざまな外来種についてパネルや剥製で紹介。

主な展示：アライグマ、ヌートリア

◆関連イベント

□サヒメル　生きもの博士に挑戦！！

実施日：期間中12回

参加者：計114人

内　容：期間中の毎週日曜日に、植物･昆虫･ほ乳類･鳥類の担当職員が企画展に展示している生きものに関するクイズを出題。勝ち抜き戦で最後まで正解し続けた参加者には、生きもの博士イチオシの賞品をプレゼントした。またクイズ終了後に、展示やクイズに出題した内容などを説明するギャラリートークを行った。

②夏期特別企画展

「ボーっと眺めてたら叱られる！今こそ知りたい月のなぞ～アポロ11号月面着陸から50年～」

2019年はアポロ11号の人類初の月面着陸から50周年の節目であり、広く月探査や月の科学に向けた興味や関心が高まった。現在、JAXA(宇宙航空研究開発機構)では小型月着陸実証機「SLIM」等の開発が進められていることから、今後の月探査や宇宙開発について、青少年が理解を深めるための教育機会を創出することを目的に、月をテーマに取り上げた企画展を開催した。

期　間：7月13日(土)～9月29日(日)　*会期：79日間(うち開館75日)

入場者：41,182人

◆主な展示

□ゾーン1：地球から見た月(本館1階展示室)

パネル展示「月の疑問」、月の満ち欠け体験展示、月に関する生き物(ツキノワグマなど)、月のことわざ(スッポンの生体展示など)、地元地域に伝わる「月」の話(山中鹿助など)、月と生命のリズム(潮の満ち引きタイムラプス映像、アカテガニ等生体展示)、月と地球の大きさと距離、体験展示「月に行くにはどれくらい時間がかかるのかな」、「月」にまつわるエトセトラ(アポロとApollo、記念切手など)

□ゾーン2：月への挑戦(本館2階　回廊)

サターンV型ロケット(模型)、N-1ロケット(模型)、アポロ宇宙船(模型)、人類の宇宙への挑戦、月を目指した競争、人類月に立つ、アポロ11号(打ち上げから帰還まで)、支える人々、映像展示「月への旅」

□ゾーン3：月につきました(別館2階　企画展示室)

アポロ15号月の石(玄武岩)、アポロ16号月の石(斜長岩、展示期間：8月21日から28日まで)、アポロ船内宇宙服(実物)、アポロ月面活動服(模型)、EMU宇宙服(模型)、月面パノラマ画像、映像展示「月面活動」

□ゾーン4：月のサイエンス(別館2階　企画展示室)

無人探査機ルナ(ルナ16号、ルナ20号、ルナ24号)で採取した「月の砂」(実物)、月隕石(実物)、これだけは知っておきたい鉱物4種(かんらん石、斜長石、輝石、チタン鉄鉱)、これだけは知っておきたい岩石2種(斜長岩、玄武岩)、映像展示「かぐや総集編」

□ゾーン5：宇宙探査と未来の月(別館2階　企画展示室)

未来型月面活動服Z-1宇宙服(模型)、映像展示「はやぶさ2」、映像展示「火星有人探査計画」、宇宙大航海時代、世界の有人月探査計画、日本の有人月探査計画、民間による宇宙探査

◆その他の展示

□本館ホール

世界のロケット(ペーパークラフト)、未来型月面車(模型)、体験展示「宇宙の砂(月の模擬砂、火星の模擬砂)にさわってみよう」

□新館4階

記念撮影コーナー、工作コーナー「ぴょんぴょんハットを作ろう」、レゴブロックの「サターンV型ロケット」と「月着陸船」

□館内各所

クイズコーナー、企画展オリジナルワークシートおよび月観察シートを配布

◆関連イベント

□作って飛ばそうモデルロケット

実施日：7月14日(日)

参加者：40人

内　容：日本モデルロケット協会指導講師の大島功央氏の指導により、モデルロケットの組み立ておよび北の原での打ち上げを行った。アンケートから参加者の満足度も高く、ロケットや宇宙探査への興味を高めるためのよい契機となった。

□天体望遠鏡をつくっちゃおう！

実施日：8月4日(日)

参加者：41人

内　容：望遠鏡の仕組みの解説および望遠鏡キットの組み立てを行った。イベント終了後には希望者向けに天文台見学を実施した。工作を通して宇宙への関心を深めたり、三瓶自然館で行っている天体観察会への参加を促すきっかけとなった。

□テラキン先生の「夜ふかしするほど面白い『月の話』」

実施日：9月1日(日)

参加者：50人

内　容：三瓶自然館オリジナルプラネタリウム番組、「夜ふかしするほど面白い『月の話』」の原作本の著者である寺薗淳也氏を招いたイベント。寺薗氏と一緒にプラネタリウムを観覧したほか、月に関する「Q&A大会」をメインとした科学講座を行った。また、イベントにあわせてサヒメル科学探険隊の隊員向けに「月探査の歴史」について解説を実施した。

□読み聞かせ＋クッキング　お月見を楽しもう

実施日：9月8日(日)

参加者：20人

内　容：伝統行事である「お月見」を子どもたちに伝えるイベント。絵本の読み聞かせの後、お団子づくりを行った。幼児を対象としたイベントで、難しいことは伝えず、日常の中で空を見上げることが少しでも増えることを目標とした。読み聞かせと簡単なクッキングを連動した内容は保護者にも好評であった。

□一日クラフトまつり

実施日：9月22日(日)

参加者：200人

内　容：「キラキラハーバリウム作り」、「牛乳パックでミニプラネタリウム作り」、「刺しゅうで星座カード作り」、「惑星のモビール作り」、「オリジナルアロマワックス作り」、「ポンポンスタンプコースター作り」を実施した。大人の女性をターゲットとした企画であったが、参加者の多くは小学生や未就学児を含む家族連れだった。当日は台風17号が来ていたが、想像を上回る参加者があり、盛況だった。

□月の石スペシャルトーク

実施日：9月の土日祝(1日(日)、7日(土)、8日(日)、14日(土)、15日(日)、16日(月・祝)、21日(土)、22日(日)、23日(月・祝)、28日(土)、29日(日))

参加者：255人

内　容：アポロ15号と16号の月の石が二つ同時に展示される期間に合わせて、月の石や採取の裏話などを天文担当の職員が、わかりやすく解説を行った。実際には、16号の月の石の展示期間が計画よりも短くなり、スペシャルトークの期間中は、月の石は15号のもののみだったが、多くの参加者があり、人気のイベントとなった。

□大型ドーム映像特別上映「忍たま乱太郎の宇宙大冒険withコズミックフロント☆NEXT 月ウサギがクレーターをかけるの段」

実施日：期間中全日

参加者：10,759人

内　容：忍たま乱太郎のキャラクターが月と地球の不思議な関係も解き明かしていく内容で、子どもから大人まで楽しめる科学作品。

□ロケット打ち上げ音響体験

実施日：期間中全日

参加者：2,980人

内　容：JAXAによりロケット発射場から3km地点で収録した発射時の音響と映像を、ビジュアルドームの大型スクリーンで模擬体験するプログラム。打ち上げ環境がとても過酷であること、人工衛星の地上試験の重要性もあわせて解説した。

□ペーパークラフトロケット模型　展示解説

実施日：8月17日(土)、18日(日)、19日(月)、9月28日(土)、29日(日)

内　容：エントランスホールに展示したペーパークラフトロケット模型について、製作者の中川義通氏による展示解説を行った。企画展の最終日の9月29日の夕方からは、ロケットの解体ショーもあわせて実施した。

(3)その他の展示

□三瓶自然館インタープリター写真展

期　間：6月1日(土)～6月30日(日)

入場者：1,913人(開催期間の有料入館者数)

場　所：本館2階サヒメルギャラリー

内　容：三瓶自然館のボランティアスタッフ「三瓶自然館インタープリター」による写真展。自然を題材にした作品12点(12名)を展示した。

□第71回全国植樹祭プレ展示

期　間：7月8日(月)～8月18日(日)

入場者：24,650人(期間中入館者数)

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：第71回全国植樹祭島根県実行委員会事務局が主催し、植樹祭のシンボルである木製地球儀や植樹祭の紹介パネルと49年前の植樹祭の行幸写真など約20点を展示した。

□中国四国の国立公園展～アクティブレンジャーが伝える自然と活動～

期　間：4月27日(土)～5月23日(木)

入場者：16,507人(期間中入館者数)

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：環境省中国四国地方環境事務所が主催。中国・四国地方の国立公園で活動する環境省のアクティブレンジャーが撮影した自然景観や自然保護活動風景の写真約30点を展示した。

□しまねの農村フォトコンテスト写真展

期　間：9月6日(金)～9月19日(木)

入場者：5,310人(期間中入館者数)

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：島根県農村整備課の主催、「第20回しまねの農村景観フォトコンテスト」の入賞作品約40点を展示した。この写真展は、県内数カ所で巡回して行われており、当館では2回目の開催。

□期間展示「コウモリがいっぱい！」

期　間：10月12日(土)～11月10日(日)

入場者：9,663人(期間中入館者数)

場　所：本館1階ロビー及び本館1階ギャラリー

内　容：三瓶自然館が共催した「コウモリフェスティバル2019in三瓶」の一環で、コウモリの生態を紹介する目的で写真や解説パネル、ハンズオン展示などを多数設置した。世界最大のコウモリの顔出しパネルによる記念撮影コーナーなどが人気であった。
主　催：コウモリの会

(4) ビジュアルドーム

①プラネタリウムの投影

◆プラネタリウム一般投影

プラネタリウム生解説投影(星座案内)と、オリジナルで制作したプログラム番組(テーマ番組)を通年で投影した。

□星座案内

実施日：通年
観覧者：7,977人
内　容：その日見られる星空から、月や惑星、星座などを紹介し、話題となっている天文現象の話などを織り交ぜて、解説員による親しみやすい生解説投影を行った。1回約20分。土曜日には45分の拡大投影実施。月ごとのテーマを設定し、話題を変えながら天文担当の研究員が深く掘り下げた解説を行った。

□テーマ番組

＊夜ふかしするほど面白い「月の話」
期　間：4月1日(月)～11月10日(日)
観覧者：7,379人
内　容：人類が初めて降り立ってから約半世紀が経った現在でも、月には未解明な謎が多く残されている。古代から太陽とならび人々に身近な存在である月の不思議を紹介する番組。案内人は落語家の立川志ら乃氏。(平成30年度制作)

＊秘密結社 鷹の爪 THE PLANETARIUM～ブラブラ！ブラックホールのナゾ～
期　間：4月1日(月)～7月12日(金)
観覧者：323人
内　容：人気アニメ「秘密結社　鷹の爪」のキャラクターを使った番組。島根県出身の登場人物「吉田くん」を用いて島根を取り上げつつ、多くの人が興味を持つブラックホールを科学的な主題として、最新の宇宙論をおもしろく、わかりやすく伝えた。(平成23年度制作)

＊宇宙をかける地球にのって～星と太陽のめぐり～
期　間：10月5日(土)～11月10日(日)
観覧者：159人
内　容：一年をかけて太陽のまわりを一周する地球。折々に星空を眺めれば、そこには季節に応じたさまざまな星座が広がっている。見える星座が季節ごとに巡っていくようすを宇宙からと地球からの２つの視点から観察し、地球の公転を紹介する番組。構成と内容は、地元の中学校の理科教員からのアドバイスも得ながら検討を行った作品。(平成22年度制作)

□その他

＊きっずプラネタリウム
実施日：毎月の第3日曜日(4月～10月)
観覧者：617人

内　容：毎月第3日曜日に実施している「サヒメルきっずサンデー」のイベントとして、幼児向けのプラネタリウムを投影した。星空に親しむきっかけ作りを目的として、月や星のこと、星座の物語などを中心に、親子一緒になって楽しめる内容とした。

＊スペースアドベンチャー～ユウトの銀河系探検～

実施日：4月21日（日）、5月19日（日）、6月16日（日）、10月20日（日）

観覧者：92人

内　容：天体観察会に参加したユウト少年が、不思議なお兄さんと宇宙に飛び出し、太陽系や銀河系のいろいろな天体を探検し、宇宙の中の地球や生命について思いを巡らせる番組（平成21年度制作）を「サヒメルきっずサンデー」にあわせて投影した。

＊字幕付きプラネタリウム「月を見上げて」

実施日：9月15日（日）～9月21日（土）

観覧者：229人

内　容：老人週間にあわせて、聞こえに不安がある人や、聴覚障がいを持つ人を主対象に、プラネタリウム番組に字幕を付けて解説する番組を投影した。馴染みの深い天体である月をテーマに、星空への親しみを深めてもらう内容とした。

◆プラネタリウム学習投影

実施数：25回

観覧者：1,088人

学習指導要領に沿った内容として「小学4年生向け投影」、「小学6年生向け投影」、「中学生向け投影」、及び保育園や幼稚園等の未就学児を対象に星空に親しむきっかけ作りを目的とした「幼児向け投影」を、学校団体の希望にあわせて投影した。

小学4年生向け投影	5回	115名
小学6年生向け投影	5回	90名
中学校向け投影	1回	15名
幼児向け投影	11回	797名
その他（小学低学年向け投影）	3回	71名

②大型ドーム映像の上映

全天周デジタルプロジェクターシステムにより、オリジナル番組及び特別番組の上映を行った。

◆特別番組

□「えんとつ町のプペル」

期　間：4月27日（土）～5月6日（月）

観覧者：3,657人

内　容：ゴールデンウィーク期間中に上映した。お笑いコンビ「キングコング」のにしのあきひろ（西野亮廣）氏の絵本が原作となっている番組。中国四国地方では初上映となり、美しい映像とともに話題となった。

□「忍たま乱太郎の宇宙大冒険withコズミックフロント☆NEXT　月ウサギがクレーターをかけるの段」

期　間：7月13日（土）～9月29日（日）

観覧者：10,759人

内　容：「月」をテーマとした夏期特別企画展に連動して上映した。人気の「忍たま乱太郎」のキャラクターたちが月と地球の不思議な関係を解き明かしていく内容で、子どもだけでなく、大人も楽しめる科学番組。

◆一般番組

□「さんべ自然紀行」、「三瓶冬紀行」、「煌めきのなかで」、「島根 人と自然の原風景」

期　間：さんべ自然紀行(4月1日～11月10日)
島根 人と自然の原風景(4月1日～7月12日)
三瓶冬紀行(10月5日～11月10日)
煌めきのなかで(10月5日～11月10日)

観覧者：2,190人

内　容：三瓶自然館のオリジナル番組。四季折々の三瓶山の表情と、そこに息づく生き物たちを追った「さんべ自然紀行」と「三瓶冬紀行」、島根県各地の自然と人との関わりを描いた「煌めきのなかで」と「島根 人と自然の原風景」の4作品を上映した。

(5)各種イベント

□さんべ発見ウォークin志学

実施日：4月27日(土)

参加者：5人

内　容：2本のポールを使うノルディックウォークで、三瓶周辺を散策するイベント。志学地区の桜の里や本宮神社の大杉を訪れ、三瓶の見どころとして紹介した。

□春の室ノ内を歩こう

実施日：5月11日(土)

参加者：12人

内　容：森林内に咲く春の草花や鳥のさえずりを観察しながら、大平山から室ノ内へと歩いた。参加者は、インタープリターによる解説を聞きながら登山を楽しむことで、自然への興味や関心を深めた様子であった。

□バードウオッチング講座

実施日：5月12日(日)

参加者：19人

内　容：身近な野鳥基本10種類の鳴き声を聞き分けることを目標として実施。当日は天候に恵まれ多くの野鳥の声を楽しみながら野外を歩くことができた。三瓶自然館の裏では、キセキレイが巣立ち直後だったため、多くの参加者が鳴き声だけでなく、姿も楽しむことができ、参加者の満足度も高かった。

□さんべ発見ウォークin北三瓶

実施日：6月22日(土)

参加者：21人

内　容：2本のポールを使うノルディックウォークで、三瓶周辺を散策するイベント。北三瓶地区の旧道を通り、旧北三瓶小学校跡やたたら製鉄跡を訪れた。最終地点の「子ご美の里」では、地元の食材を使用した田舎料理を楽しんだ。

□立川志ら乃のプラネタリウム落語

実施日：7月6日(土)

参加者：110人

内　容：オリジナルプラネタリウム番組「夜ふかしするほど面白い『月の話』」に出演している立川志ら乃氏による落語会。番組の投影の後、落語二題の口演を、職員による星座解説をはさんで行った。演目は「子ほめ」と「親子酒」で、星を見上げる演出を取り入れた。当館では初となる落語のイベントであり、同じ一人語りであるプラネタリウム解説との融合は、新鮮みがあってたいへん好評であった。

□夏の夜の昆虫観察

実施日：7月20日(土)

参加者：37人

内　容：夜の三瓶山で見られる昆虫の観察会。夜の森を歩いて虫を探したり、ライトトラップやエサトラップで虫を集め、普段見られない夜行性の昆虫やアブラゼミの羽化、樹液に集まるクワガタムシの仲間などさまざまな昆虫を観察した。

□秋の男三瓶山に登ろう

実施日：10月6日(日)

参加者：11人

内　容：秋に見頃を迎える草花やキノコなどを観察しながら男三瓶山登山を行い、季節の自然を楽しむとともに、国立公園において自然に接するマナーを学んだ。参加者は多くはなかったが、天候に恵まれたこともあり、満足度は高かった。

□ススキの迷路

期　間：10月12日(土)～11月4日(月)

内　容：秋の北の原に繁茂するススキを利用した迷路コース。本年度では、難易度別に初級、中級、上級の3コースを整備し、平日では幼稚園や保育園の遠足等、休日は家族連れの利用を得ることができた。

□さんべの森たんけんたい～秋の森であそぶ～

実施日：10月27日(日)

参加者：親子7組(29人)

内　容：北の原キャンプ場を会場に、親子で秋の野外遊びを体験するイベント。場内を散策後、キャンプ場のピザ窯を使ったピザ作り、どんぐりゴマ作りや落ち葉のプールなど、秋の森でできる遊びを体験した。最後に、たき火で焼いた焼き芋を食べながらの絵本の読み聞かせを行った。

□大人のための熟睡プラ寝たリウム

実施日：11月3日(日)

参加者：62人

内　容：11月23日の全国一斉熟睡プラ寝たリウムの日は工事休館に当たっていたため、一足早く11月3日の文化の日に実施した。「一年(ひととせ)語り・黄道11星座」と題し、プラネタリムで四季の星空を巡りながら、黄道星座と古代ギリシャでのその成り立ちをゆっくりと紹介した。半数の参加者に熟睡してもらえた一方、一部の参加者には熱心に内容を聞いてもらえた。

□さんべ発見ウォークin池田

実施日：11月24日(日)

参加者：17人

内　容：2本のポールを使うノルディックウォークで、三瓶周辺を散策するイベント。池田地区の浮布池や大銀杏が有名な浄善寺を訪れ、三瓶の見どころとして紹介した。

□さんべの森たんけんたい～冬の森であそぶ～

実施日：1月26日(日)

参加者：親子9組(32人)

内　容：北の原キャンプ場を会場に、親子で冬の野外遊びを体験するイベント。雪遊びをする予定だったが、積雪が無かったため、オリジナルのネイチャービンゴを配布し、場内を散策した。参加者は昼食作りや火起こしも体験した。

□親子で作ろう工作教室

実施日：5/19(日)　カタカタくだり　(14人)
6/2(日)　オリジナル時計　(30人)
7/7(日)　かぐや姫になろう　(11人)
7/28(日)　葉脈しおり　(14人)
8/25(日)　木の実の工作　(27人)　( )内は参加人数。

内　容：自然や科学をテーマにした親子向けの工作で、企画と実施をインタープリターが担当した。

□サヒメル科学探険隊

実施日：5/26(日)、6/23(日)、9/1(日)、10/27(日)、11/10(日)

参加者：12人

内　容：小学4～6年生を対象に自然科学に関する体験活動や観察を計5回実施。県内各地から参加があり、館内外でのさまざまな活動を通して子どもたち同士の交流や自ら考え積極的に取り組む姿が見られ、自然科学への関心を高め理科好きな子どもたちを繋ぐ有意義な活動となった。

第1回　サヒメル探険と三瓶山の自然観察
第2回　姫逃池のモリアオガエルを調査してマップを作ろう
第3回　今年は月面到着50周年！月と探査機について学ぼう
第4回　樹木はどんなふうに大きくなった？大学の研究者と一緒に活動しよう
第5回　ダンゴムシの行動を調査しよう！/１年間の活動発表

□サヒメルきっずサンデー(4月～10月)

実施日：毎月第3日曜日

参加者：2,561人

内　容：「しまね家庭の日」に連動した、幼児に三瓶自然館を楽しんでもらうための一日。「デジタルかみしばい」、「きっずプラネタリウム」、「テンピー・タイム」、「いきものはともだち(水槽展示の紹介)」、「天文ミニガイド」を実施した。「デジタルかみしばい」では、「月」の企画展に合わせた新しいコンテンツも披露した。

(6)各種行事

□科学の祭典2019科学の縁結び祭り

実施日：7月27日(土)、28日(日)

会　場：出雲科学館

参加者：317人

内　容：青少年への科学の普及を目的に、「科学の祭典2019」へのブース出展を行った。当日は天候にも恵まれ、2日間で4,700名の来場者数であった。当館のブースでは夏期企画展に合わせて「惑星のモビール作り」を実施したほか、例年好評な「化石のレプリカ標本作り」を実施した。

□ミュージアムキッズ！全国フェア in AWAJI 2019

実施日：11月9日(土)、10日(日)

会　場：国立淡路青少年交流の家

参加者：131人

内　容：こどもひかりプロジェクトによる、子どもたちとミュージアムをつなぐイベント。淡路島会場には全国から35の博物館・美術館・科学館等が集まり各館の特色を活かしたワークショップが出展された(推定参加者総数：約6,000人)。当館のブースでは、「森のおとしものであそぼう！」と題して、インタープリターから借用した「木の枝クラフト」と「落ち葉のプール」を実施した。

(7) 新聞への寄稿

讀賣新聞「サヒメル研究日誌」(計12回)、島根日日新聞「学芸員日記」(計26回)、山陰中央新報「さんいんきらめく星」等(計26回)への原稿執筆を通して、三瓶や島根の自然の紹介、自然保護についての啓発、情報発信を行った。(掲載記事の一覧は「Ⅵ. 各種資料 4. 資料(p. 72～)」参照)

(8) 自然学講座

□教員のための博物館の日

実施日：サヒメル会場：8月2日(金)
　　アクアス会場：8月5日(月)

参加者：サヒメル会場：25人(うち減免期間1名)
　　アクアス会場：13人

内　容：国立科学博物館と共催で開催。学校の博物館利用を促進することが目的で、教員に博物館の様々な展示やプログラムを紹介する事業。今年度も平成30年度に続き、三瓶自然館と島根県立しまね海洋館の2カ所で実施した。ワークショップでは、学校の校庭木を想定した樹木の同定や、微小生物の観察と顕微鏡の使い方などを学んだ。なお、本事業は第14回科学教育の普及・啓発助成事業の支援を受けて実施した。

【サヒメル会場】

ワークショップ		講　　師
1	校庭の樹木を使おう	当館職員
2	顕微鏡の使い方：身近な微小生物の観察	梶　明広学芸員ほか3名 (しまね海洋館アクアス学習交流係)
3	夏期特別企画展解説＆天文台見学	当館職員
4	霧箱を使って“放射線”を調べてみよう	当館職員
ポスター発表による事例紹介 ◎自然放射線についての研究 ◎畳ヶ浦での地層・化石の観察&磯の生物観察 ◎骨格標本を活用した「生物の変遷と進化」の授業実践 ◎地域の素材を活用した「大地のつくり」単元の学習 ◎子どもを主体とした教科横断型の環境教育 ～いわみっこのみなさんとともに～		島根県立大田高等学校理数科生徒 (指導教諭：下垣章裕先生) 土肥静枝先生(美郷町立大和中学校) 坂本弥生先生(大田市立北三瓶中学校) 安田直樹先生(大田市立朝波小学校) 園山　慧先生(浜田市立原井小学校)

【アクアス会場】

ワークショップ		講　　師
1	校庭の樹木を使おう	当館職員
2	顕微鏡の使い方：身近な微小生物の観察	梶　明広学芸員ほか3名 (しまね海洋館アクアス学習交流係)
3	アクアス夏の特別展＆バックヤードツアー	石川亮太技師ほか (しまね海洋館アクアス、当館職員)
4	霧箱を使って“放射線”を調べてみよう	当館職員
ポスター発表による事例紹介(サヒメル会場と同内容)		

□テラキン先生の「夜ふかしするほど面白い『月の話』」

詳細はp.9に掲載

□バードウオッチング講座

詳細はp.13に掲載

(9)天体観察会

20cmクーデ式屈折望遠鏡4基と60cm大型反射望遠鏡を活用し、定期・予約観察会のほか、天文現象などにあわせた様々なテーマの観察会を実施した。

合計参加者数：5,804人

①定期天体観察会

実 施 日：毎週土曜日(1回45分)

開始時刻：(4～8月)20:00～、21:00～、(9～11月)19:00～、20:00～

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
参加人数	128	391	104	248	690	294	97	155	－	－	－	－	2,107

②予約天体観察会

学校団体・一般団体を対象にした天体観察会で、土曜日と休館を除く日に予約により実施している。曇天・雨天時にはプラネタリウムの投影を行う。予約団体の多くは、国立三瓶青少年交流の家において宿泊研修を行う学校団体であった。(実施状況は「VI 各種資料 4.資料(p.74)」参照)

実施数：51団体　2,460人

③特別天体観察会

□ゴールデンウィーク天体観察会

実施日：4月28日(日)、29日(月)、5月3日(金)、5日(日)

参加者：434人

内　容：春に見やすい一等星や星団、銀河などを観察した。また、淡い天体を高感度カメラでリアルタイムにモニター表示する電視観望も実施した。

□夏休み天体観察会

実施日：7月14日(日)、8月11日(日)、12日(月)、13日(火)、14日(水)

参加者：733人

内　容：月や木星、土星などの天体を観察し、高感度カメラによる電視観望も行った。多客期の対応として回数を通常の2回から3回に増やし、多くの来場者に天体を観察する機会を提供した。

□天体撮影講習会

実施日：9月8日(日)

参加者：6人

内　容：参加者が持参したカメラを大型望遠鏡に取り付け、天体写真を撮る講座形式の観察会を実施した。

□秋の天体観察会

実施日：9月15日(日)

参加者：64人

内　容：秋の三連休に、惑星や秋に見頃の天体を観察した。なお、9月22日(日)にも予定していたが、台風接近のため中止とした。

(10) 自然観察会

①定期自然観察会「北の原お散歩ツアー」

実施日：毎週土曜日(4～11月)

内　容：三瓶北の原草原で見頃を迎えた季節の花や景色を楽しみながら行う自然観察会。来館者が気軽に参加できるよう30分間で実施。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
参加人数	33(4)	23(4)	7(5)	17(4)	72(5)	19(4)	8(4)	9(2)	188(32)

(　)内は回数　※悪天候時は中止

②予約自然観察会

事前の予約に応じて行う自然観察会、学校団体等を中心に好評を得ている。(実施状況は「VI 各種資料 4.資料(p.75)」参照)

実施数：48団体　1,299人

(11) 環境教育・環境学習事業

□講師派遣

各種団体や学校、生涯学習施設などの要請に対して、各専門分野の職員が赴き、自然や環境についての講演や観察会を行うなど、環境教育や環境学習に協力した。(実施状況は「VI 各種資料 4.資料(p.76～)」参照)

実施数：80件　3,173人

□スーパーサイエンスハイスクール・サイエンスセミナーなどへの協力

＊島根県立大田高等学校１年生　三瓶サイエンスセミナー

日　時：9月11日(水)、12日(木)

生徒数：1年生　40人

内　容：研修①……天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察
研修②……身近にもある放射線の調査と観察
研修③……ヒトと動物の骨格の比較
研修④……地球の大きさの計測

□教員のための博物館の日

詳細はp.16に掲載

(12) 博物館ボランティア「三瓶自然館インタープリター」の活動

三瓶自然館インタープリターは、三瓶を訪れる人たちが、生きた自然に触れ、自然の不思議さや素晴らしさを感じ、自然を愛する心や守る心を育むことを手助けすること(インタープリテーション)を行うために設置されたボランティアスタッフである。

館の設置目的を理解し、自然環境の保全に関心を持つ希望者のうち、研修を修了した者に委嘱登録している。また、自然観察の経験等の少ない希望者には、研修を積んだ後に委嘱している。

□登録者数

登録種別	人　数
委嘱登録者	60人
研修登録者	4人
合　　計	64人

男女構成	人　数
男　性	43人
女　性	21人
合　計	64人

□活動実績

館が実施する各種事業に協力し､主に参加者や来館者に対する解説や案内を行っている。主な活動内容は次のとおり。

・館主催イベントにおける参加者対応や企画、実施、実施補助
・外部から依頼を受けた自然観察会や定期観察会での自然解説
・団体向け予約天体観察会や毎週土曜日の定期天体観察会での補助や案内
・新館4Ｆのハンズオンコーナーでの工作や来館者対応
・北の原の植物･鳥類調査(環境省のモニタリングサイト1000など)

＊令和元年度の主な協力事業

月　日	事　業　名	活動人数
5/11	春の室ノ内を歩こう(下見/当日)	13人
5/12	バードウオッチング講座	8人
6/2	キャンプクッキング(北の原キャンプ場事業)	5人
7/20	夏の夜の昆虫観察	8人
8/4	天体望遠鏡を作っちゃおう	5人
9/22	一日クラフトまつり(打合せ/当日)	10人
10/6	秋の男三瓶山に登ろう(下見/当日)	11人
2/2	歩くスキーでｱﾆﾏﾙﾄﾗｯｷﾝｸﾞ(下見のみ)	3人
複数回実施事業等	工作コーナー	77人
	親子で作ろう工作教室	12人
	北の原お散歩ツアー	1人
	自然観察会	44人
	天体観察会	145人
	調査	83人
	研修･保全作業	34人
	総会･会議･打ち合わせ等	60人

※複数日に渡るイベントと複数回実施事業等の活動人数は延べ数

□研修

本年度の研修は、次年度にリニューアルオープンとなる当館の新しい展示について説明を受けた。また、他地域研修として広島県を訪問し、さとうみ科学館で潮間帯の生きものの観察手法を体験したり、世羅ゆめ公園自然観察園のボランティア団体との交流を行い、解説技術の向上に努めた。

(13)博物館資料の収集･保管、活用

①自然系博物標本の収集と整理

◆指定管理財源における資料収集整理

□地学標本(岩石標本の収集、分類)

島根県内の地学情報及び資料の収集を行い、所蔵資料の整理を行った。個人及び自治体等の団体所有の岩石･鉱物･化石の視察を行い、今後の活用について検討した。

岩石標本の購入：斜長岩、斜長石、輝石、かんらん石、チタン鉄鉱・・・各1点

□天体画像(その他有用な資料の収集、分類及び整理)

天文現象を画像資料として記録した。また、特別企画展に合わせ月の画像を多く取得した。

おもな撮影対象：月、プレアデス星団と火星の接近、超新星SN 2019ehk、木星、ペルセウス座流星群、H-IIBロケットの飛跡、変光星ミラ、部分日食、ベテルギウスの減光、星座･星景など。

□動物標本(斃死鳥獣の収集と剥製作成)

本年度購入･クリーニング･整形した動物標本は、次の12種17点、展示用模型は2種2点である。

また、当館所蔵の伊達鳥類コレクションについて再整理作業を継続実施しており、本年度は、専門家に依頼してスズメ目の186体の標本について再鑑定を行った。

・哺乳類：(購入) ナウマンゾウ1/7生体復元模型、シンシュウゾウ1/7生体復元模型
(クリーニング･整形)タヌキ、アナグマ
・鳥　類：(クリーニング･整形)マガモ♂1体♀1体、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ♂1体♀2体、スズガモ♂1体♀2体、ホオジロガモ、アオサギ、ウミウ、カワセミ、ゴイサギ

□昆虫標本(昆虫標本の収集、分類及び整理)

寄贈及び調査研究等により収集した昆虫類の標本化と同定整理作業を進め、未整理分の寄贈標本や主として県内で採取した標本を中心に計500点の標本データの入力を行った。

昆虫標本の購入：カタゾウムシの仲間など外国産19種19点

□植物標本(植物標本の収集、分類及び整理)

杣村喜則氏収集のさく葉標本の整理、樹木の幹標本の製作、各種調査にあわせた植物標本の収集を行った。データベース化された標本情報は、国立科学博物館のS-netでの公開、国際的なデータベースであるGBIFでの公開を予定している。また、島根大学と協力して、館所蔵のさく葉標本のスキャニングを行い､同大学内のホームページ上で画像を公開した。

・杣村喜則氏収集さく葉標本のデータベース化と登録：1,000点
・樹木の幹標本：16点

◆受託による資料収集整理

□三浦正昆虫館標本整理･活用業務(浜田市より受託)

浜田市三隅町出身の三浦正島根大学名誉教授が、浜田市に寄贈された昆虫標本の同定整理作業。合わせて収蔵展示を行っている三浦正昆虫館での標本管理の指導、昆虫館を会場に地元市民との昆虫採集や標本作成イベントを実施した。(皆木宏明･三島秀夫)

□自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータ提供(国立科学博物館より受託)

当館で整理が進められている杣村喜則氏収集植物標本のデータについて、所定の様式に変換し、1,000点のデータを提供した。提出したデータは、国立科学博物館が運営するS-netや、国際的なデータベースであるGBIFに掲載される。(井上雅仁)

②関連図書の収集

自然科学に関する図書や雑誌は、購入などにより収集に努めた。図書や雑誌の一部は常設の図書コーナーなどで来館者が閲覧できるようにしている。

・購入図書：80冊

③資料の保守燻蒸

資料劣化の原因となる害虫やカビの防除を目的として燻蒸を行った。収蔵庫の燻蒸については、専門業者によって殺虫効果の高い薬剤を使用して年1回実施した。展示、収集した資料を収蔵庫へ納める前や、常設展示の資料については、当館の大型常圧燻蒸庫を用いて適宜燻蒸を行った。

□常設展示標本及び収蔵庫の全室密閉燻蒸

対　象：常設展示標本の一部、第二乾燥収蔵庫及び液浸標本室の庫内

期　間：6月18日および9月10日

□燻蒸設備を用いた燻蒸

対　象：鳥獣剥製、昆虫標本、植物さく葉標本など

期　間：適宜実施

④博物館資料の貸出･閲覧など

当館で所蔵する博物館資料については、他施設などからの要請に応じて、貸出や閲覧などを行っている。令和元年度は以下の要請に応じて貸出などを行った。

施設名等	種別	期間	資料名
島根県立しまね海洋館	貸出	6/18-10/8	アロデスムス頭骨レプリカ、アノマロカリス復元模型
鳥取県立博物館	貸出	6/28-8/29	ニホンアシカ剥製(リャンコ大王)、キタタキ剥製
奈良テレビ放送株式会社	貸出	7/19	ヌートリアの画像･映像
島根県農林水産部	貸出	11/8-11/15	キノコレプリカ
公益財団法人ホシザキグリーン財団	貸出	11/13-1/20	コノハズク、ブッポウソウ、ツツドリ、ホトトギス、サンコウチョウ(以上剥製)、ヤイロチョウ(写真撮影)
島根自然保護協会	貸出	11/16-11/29	キレンゲショウマ、イズモコバイモ等植物標本30点
越前町立福井総合植物園	貸出	11/20-12/4	ユリワサビ植物標本
内閣官房 領土・主権対策企画調整室	貸出	12/3-4/10	ニホンアシカ剥製（リャンコ大王）
九州大学総合博物館	貸出	1/30-1/31	ニホンアシカ頭骨標本
京都大学大学院理学研究科	貸出	2/18-R3.2/17	ロシア産トウヨシノボリ液浸標本
出雲科学館	貸出	3/1-4/17	アリ拡大模型、メガネウラ化石
廿日市市教育委員会	貸出	3/1-6/15	堀田仁助紹介パネル、説明DVD
公益財団法人ホシザキグリーン財団	閲覧	3/12	コウノトリ、コガモ、モズ剥製
環境省大山隠岐国立公園管理事務所	貸出	無期限	冬の三瓶山地域を撮影した動画
環境省大山隠岐国立公園松江管理官事務所	貸出	無期限	ユウスゲ及び火入れの写真

(14)調査研究

①研究項目と成果概要

◆県民や行政の課題となっている調査研究

□レッドデータブック掲載植物の現況調査

島根県版のレッドデータブックに掲載されている植物を対象として、有識者の協力を得ながら既存情報の整理や現地での確認調査を行った。(井上雅仁)

□三瓶山半自然草原の管理と草原性希少植物保全に関する研究

三瓶山の草原保全のための知見を集積することを目的として、希少植物のモニタリング調査、草原内へ侵入した外来植物の生育環境調査などを行った。これらの結果は、保全活動の内容を検討するための資料として活用した。また、三瓶山草原の保全のために、他地域の草原研究者と情報交換を行った。(井上雅仁)

□自然環境保全地域等(赤名湿地、隠岐世界ジオパーク)の動植物調査

島根県自然環境保全地域である赤名湿地性植物群落では、保全活動の効果を検証するためのモニタリング調査を行った。世界ジオパークの登録地である隠岐諸島では、近年の分布状況が不明であった動植物を対象に確認調査を行った。(井上雅仁・三島秀夫)

□旧ふれあいの里奥出雲公園における希少鳥類等生息調査

さえずりの森(旧ふれあいの里出雲公園)における鳥類の生息状況の把握を目的に、希少鳥類の繁殖調査と構成種の把握調査を行った。希少鳥類調査では、アカショウビンとクロツグミを対象として平成24年からジオロケーターやGPSロガーを装着して放鳥し、越冬地の解明を進めている。本年度はサントリー世界愛鳥基金より支援を受けて、小型GPSロガーをアカショウビン2羽とクロツグミ8羽に装着した。構成種の調査では、平成23年度にナラ枯れ対策として森林の一部が伐採されたことに伴う環境の変化とその影響についての検討を行っている。(星野由美子)

□特定外来種ソウシチョウの移動特性調査

特定外来種ソウシチョウは現在、全国的に分布を広げ定着が進みつつある。島根県内でもその生息地が広がりつつあり、各地で目撃事例も増えている。そこで、県内の繁殖地・越冬地・中継地と思われる場所で、カラーリングを装着し、その移動の特性について調査を行っている。(星野由美子)

□ダイコクコガネ等の希少昆虫調査

放牧が休止していた東の原では令和元年、夏期に放牧が再開されたが、ダイコクコガネは確認できず、その後西の原でも調査を行ったがいずれも確認できなかった。次年度も放牧状況を注視しながら調査を実施する予定である。また江の川の河川敷に生息するカワラバッタの分布調査を行った。継続して実施し、分布域の解明を目指す。(皆木宏明)

□ミズラモグラ等の生息調査

三瓶山において、モグラ類の巣に特異的に寄生する菌類を頼りに掘削調査を行いミズラモグラの生体の発見を試みたが、発見には至らなかった。斃死体の回収を行い歯や体重などから、ミズラモグラ、コモグラが含まれていないか確認したが、発見されなかった。(安藤誠也)

□テングコウモリの繁殖生態の解明調査

平成30年度より石見銀山遺跡大久保間歩で実施している調査において、これまで未確認であった春期における交尾行動が確認された。本種で一般的な行動なのかを検証するため、

追試を久喜･大林銀山の坑道でも実施した(邑南町教育委員会との共同研究)。その結果、久喜･大林銀山でも春期にける交尾行動が見られ、令和元年9月に日本哺乳類学会で発表した。今後は妊娠～出産･子育てにいたる本種の繁殖生態の全容解明を進めていく予定である。(安藤誠也)

□石見銀山遺跡自然環境モニタリング業務(島根県教育委員会より受託)

石見銀山遺跡における世界遺産登録後の自然環境の変化を追跡するために、コアゾーンを中心に動植物のモニタリング調査を実施した。遺跡内では、既往調査で記録された希少動植物の大部分が確認された。大久保間歩では、例年と同じように4種のコウモリ類の冬眠が確認された。(三島秀夫･井上雅仁･安藤誠也･龍善暢)

□重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000、公益財団法人日本自然保護協会より受託)

環境省が生物多様性国家戦略の中で提唱しているプロジェクトで、平成15年からスタートした。全国にサイトを設け動植物の生息状況を長期的にモニタリングすることで、生態系の劣化やその他問題点の兆候を早期に発見し、生物多様性の適切な保全のための対策に資することを目的としている。サイトは、森林、里地里山、湿地などの生態系タイプごとに分けられ、三瓶山北の原は、全国的に減少しつつある草地があることから、里地里山タイプのコアサイトとして主に植物と鳥類の調査を実施中。(井上雅仁･星野由美子)

◆自然系博物館としての機能に資する研究

□三瓶火山噴出物の岩石化学的研究

三瓶火山の過去7つの活動期の中で特に多様な噴火を引き起こした第Ⅳ活動期を対象に、当時のマグマだまりの温度圧力状態解明を目指すため、噴出物に含まれる造岩鉱物の化学組成分析を行った。(遠藤大介)

□太陽系外惑星を含む連星系及び変光星の観測

当館の4連式クーデ望遠鏡の特徴を発揮できるユニークな観測として、連星系および変光星の光干渉計観測を候補として検討しており、実験室内において予備的な実験を行っている。本年度は、引き続き、白色光を光源とした光干渉計実験を実施した。また、連星系･変光星研究会2019において、連星系や変光星をはじめとした恒星分野全般の情報交換や議論を行ったほか、今後の共同観測等についての打ち合わせを行った。(矢田猛士)

□三瓶山周辺繁殖鳥類の渡り調査

三瓶山周辺は、天然記念物の三瓶山自然林などの森林があり、多くの夏鳥などが繁殖を行っている。そこで、繁殖鳥類のモニタリングも含め、鳥類に標識を装着する渡り調査を実施することで、越冬地やルート解明につなげるための調査を行っている。本調査では、冬鳥であるミヤマホオジロの繁殖が3年連続で確認されていたが、本年度は生息は観察されたが、繁殖は確認されなかった。(星野由美子)

□三瓶山の昆虫相に関する調査

ガ類では秋には東の原、西の原ともにギンスジツトガが多く見られた。また西の原でヤホシホソマダラを初確認し、昨年確認できなかったギンヒゲナガも多数確認した。

バッタ類では毎年確認しているショウリョウバッタモドキやカヤコオロギに加え、セグロイナゴを今年度の調査で確認した。キバネツノトンボは昨年に続き東の原で日中飛翔する個体を複数確認できた。(皆木宏明)

◆環境教育･環境学習に資する研究

□コウノトリの生息をテーマとした環境教育プログラムの開発

平成29年度に島根県で初となるコウノトリの野外繁殖が確認されて以来、営巣地の周辺の小学校や図書館、公民館等では、本種の繁殖、生息をテーマにした学習への活用や勉強会が行われている。そこで、本年度は子どもたちに判りやすい資料や講演PPT等の作成や、ハンズオンの学習教材として、布製の「乗って体験するコウノトリの巣の大きさ」などを作成した。また雲南市、出雲市内の小学校8校に教材の貸し出しを行った。(星野由美子)

□タンポポ調査･西日本2020

西日本で一斉に行われる「タンポポ調査･西日本2020」の島根県事務局を担当し、2019年には予備調査を実施した。予備調査では、約850点のサンプルが集まり、これらを集計した。また2020年の本調査の準備を行った。(井上雅仁)

□電視観望の研究

教職大学院教授らと共同で、専門知識を持たない者でも天体観察会が実施できるようにするための方法論の確立とシステム開発に取り組んでいる。本年度は、カメラおよび各種センサーによって、天体望遠鏡の向きを内蔵している星図と照合して判断する天体位置解析機能について検証したが、天体観察会での実践は予定日の天候により行えなかった。(竹内幹蔵)

□字幕付きプラネタリウムの開発と投影

必要な人に字幕を提供できる手段としてのスマートグラスを、プラネタリウム投影で活用できる環境整備を継続して実施した。また、音声自動認識ソフトによるリアルタイム投影について、外部のソフト提供者らの意見をもとに導入の検討を進めている。(太田哲朗)

□池田鉱泉を含む天然の放射能を利用した放射線学習プログラムの開発

霧箱実験等に使用できる島根県内の天然の放射能調査として、鹿島多久の湯(鹿島町)、千原温泉(美郷町)、潮温泉(美郷町)において、放射線量の測定およびサンプリングを行い、実験に使用できることを確認した。

館内において学校団体向けの放射線学習を行ったほか、池田鉱泉の現地における大田市立北三瓶中学校の理科教諭と共同での放射線学習の実践(令和元年11月)、美郷町立大和中学校における千原温泉および潮温泉の温泉水を活用した放射線学習(令和2年2月)を行った。

温泉水を活用した放射線学習教材の開発について、令和元年9月に静岡大学で開催された日本理科教育学会全国大会において、地域の温泉水を活用した放射線学習として、美郷町立大和中学校での事例を発表した。

その他、教員向け研修会「教員のための博物館の日」において、当館と地元の中学校教員が共同で開発した学習プログラムを紹介し、参加した多くの教員の興味と関心を高めることができた。(矢田猛士)

②研究成果の公表(※印は館外の研究者)

□論文、報告書

遠藤大介 (2020) 西南日本, 青野火山群の地倉山溶岩ドームより得られた深成岩捕獲岩. 島根県立三瓶自然館研究報告 18: 69-72.

遠藤大介・濱村伸治※・舟橋位於※・真鍋 真※ (2020) 平成29年秋期企画展 国立科学博物館・巡回ミュージアム in サヒメル「かはくから恐竜がやってきた！」開催の記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 18: 139-149.

矢田猛士・安藤誠也・山本めぐ美・竹下瑠美（2020）令和元年度夏期特別企画展「ボーっと眺めてたら叱られる！今こそ知りたい月のなぞ」実施報告．島根県立三瓶自然館研究報告 18：151-160.

龍　善暢（2020）博物館は観光資源のバックボーン．博物館研究 令和2年2月号：15-17.

大野志津香・石田弓子・中山侑也（2020）三瓶小豆原埋没林の保存に関する経緯と課題．島根県立三瓶自然館研究報告 18：129-137.

星野由美子・市橋直規※（2020）三瓶山におけるカラアカハラの確認記録．島根県立三瓶自然館研究報告 18：63-66.

田中　旭※・安藤誠也・田村典子※（2020）島根県西部におけるニホンリスの生息確認．島根県立三瓶自然館研究報告 18：79-81.

皆木宏明・大畑純二※（2020）島根県益田市で確認されたタイワントビナナフシ（ナナフシ科）の記録．島根県立三瓶自然館研究報告 18：119-120.

皆木宏明（2020）島根県で確認されたチャイロスズメバチの営巣記録2例．島根県立三瓶自然館研究報告 18：121-123.

皆木宏明（2020）2006年に島根県で確認されたフクイアナバチ（ハチ目アナバチ科）営巣地のその後の状況．島根県立三瓶自然館研究報告 18：125-127.

三島秀夫（2020）島根県で採集されたガ数種について．島根県立三瓶自然館研究報告 18：88-87.

三島秀夫（2020）島根県大田市の蛾類．島根県立三瓶自然館研究報告 18：89-118.

井上雅仁（2019）松江市の植物．松江市史 資料編1 自然環境（松江市史編集委員会）：595-634．松江市，島根.

井上雅仁（2020）木々が支えた？石見銀山． 石見銀山学ことはじめⅣ 木（大田市教育委員会・石見銀山学概説書編集委員会編）：11-45．大田市,島根.

井上雅仁・三島秀夫・深谷　治※・八幡浩二※・野辺一寛※（2020）隠岐諸島における特定外来生物オオキンケイギクの分布特性．島根県立三瓶自然館研究報告 18：73-77.

黒田乃生※・井上雅仁・仲野義文※（2019）近世における石見銀山の森林利用と景観．世界遺産学研究 6：19-28.

大嶋辰也※・久保満佐子※・井上雅仁・田村　徹※・森定　伸※・西尾　隆※（2019）島根県浜田市におけるタブノキ林の表土を利用した法面緑化事例．日本緑化工学会誌．45(1)：220-223.

太田陽子※・井上雅仁（2020）島根県三瓶山地域における草地分布の変遷．島根県立三瓶自然館研究報告 18：1-6.

須貝杏子※・毛利元樹※・久保満佐子※・井上雅仁・亀山智史※・林　蘇娟※（2020）隠岐諸島の維管束植物目録～過去の文献資料と島根県立三瓶自然館に収蔵されている標本情報の整理～．島根県立三瓶自然館研究報告 18：7-30.

柴田一樹※・柳浦正夫※・井上雅仁（2020）島根県で初確認されたモエギスゲについて．島根県立三瓶自然館研究報告 18：67-68.

□学会･研究会等での発表

Yoji Arakawa※, Daisuke Endo, Junya Oshika※, Taro Shinmura※ and Kei Ikehata※ (2019, 5) A series of cummingtonite-bearing rhyolites in Niijima, Izu-Bonin arc, Japan: petrological and geochemical constraints.Japan Geoscience Union Meeting 2019. (Chiba)

竹内幹蔵（2019, 6）堀田仁助の地図と天球儀．第27回中国・四国地区天文教育研究集会．（島根）

矢田猛士・土肥静枝※・松本一郎※（2019, 9）島根県美郷町における地域の温泉水を利用した放射線学習．日本理科教育学会第69回全国大会．（静岡）

星野由美子（2019，9）戦前の大コレクション「伊達鳥類仮剥製標本群」の困ったお話し．日本鳥学会2019年度大会 自由集会「標本の収集と保管」．（東京）

安藤誠也・桑原一司※・大野芳典※（2019，9）島根県の久喜銀山遺跡坑道内に形成されたテングコウモリ群塊で冬期～春期に確認された交尾行動について．日本哺乳類学会2019年度大会．（東京）

遠藤大介・Andreas Auer※（2019，9）三瓶火山，男三瓶溶岩に含まれる苦鉄質包有物の地球化学的特徴．日本地球化学会2019年度年会．（東京）

大嶋辰也※・久保満佐子※・井上雅仁・田村　徹※・森定　伸※・西尾　隆※（2019，9）島根県浜田市におけるタブノキ林の表土を利用した法面緑化事例．日本緑化工学会第50回大会．（福岡）

井上雅仁・高橋佳孝※（2019，10）草原跡地における間伐・下刈り管理に伴う草原生植物の動態．植生学会第24回大会．（青森）

星野由美子（2019，11）アカショウビン12年間の放鳥の記録～島根県ふれあいの里奥出雲公園における標識調査より～．鳥類標識大会2019年度大会．（千葉）

竹内幹蔵（2019,12）国旗の中の星．第28回中国・四国地区天文教育研究集会．（香川）

安藤誠也（2020，2）テングコウモリの洞窟環境における連続滞在時間－あるメス単独個体と群塊との比較．令和2年東洋蝙蝠研究所研究発表会．（奈良）

皆木宏明（2020，3）三瓶山西の原にダイコクコガネがいないわけ．第64回日本応用動物昆虫学会大会．（愛知）

井上雅仁・高橋佳孝※（2020，3）島根県三瓶山麓の半自然草原におけるセイタカアワダチソウの分布特性．第66回日本生態学会大会．（愛知）

針本翔太※・久保満佐子※・井上雅仁（2020，3）三瓶山麓における絶滅危惧種オキナグサの個体分布よび開花特性．第66回日本生態学会大会．（愛知）

渡津友博※・保坂哲朗※・井上雅仁・三島秀夫・丑丸敦史※（2020，3）島根県赤名湿地における花の形質と訪花昆虫群集の関係．第66回日本生態学会大会．（愛知）

(15)施設ＰＲ事業

①広報営業活動

平成30年度の地震、豪雨、猛暑などの自然災害により落ち込んだ来館者の回復を目指し、県内及び広島県に向け､ゴールデンウイークと夏休みを中心に積極的な広報活動を実施した。

広告掲載は、春期･夏期企画展の共催広告企画を、山陰中央新報社と中国新聞社の2社での実施を継続し、複数回の広告掲載や記事掲載により島根県と広島県からの集客を図った。また、中国四国CATV39局で放送される三瓶のオリジナル紹介番組を、周辺施設と共同で製作･放送したり、地上波テレビでも、夏期は企画展を、翌年春にはリニューアルオープンをPRするため、スポットCMを放送した。

外部で実施されるイベント会場でのPRでは、｢科学の縁結び祭｣等にブースを出展した。また、｢島根ふるさとフェア｣では大田市観光協会と共同出展しPRを行った。

冬期には、県内または広島県の小･中学校及び幼保育園を訪問し、学習プログラムや施設の利用方法などを紹介した。

地域連携で実施するものとして、三瓶山広域ツーリズム振興協議会に参画して三瓶山地域のPRを行った。

□営業活動

大田市観光協会との連携し、県観光連盟が企画する関東地域の旅行会社向けた教育旅行説明会に参加するなど､大田市エリアとして教育旅行を誘客する体制強化に協力している。

②情報発信

□ＷＥＢサイト･ＳＮＳ

各施設のホームページに施設の情報とイベント等の情報を随時更新し、臨時的な情報などはSNSを併用することで効果的な情報発信を行った。また、令和2年4月のリニューアルオープンに向け、自然館のホームページ更新を行い、スマートフォンでも見やすい画面に整備した。

□ミュージアムニュース発行

三瓶自然館のイベントや島根の自然に関する情報､環境事業部門の活動情報を取り上げ、隔月で年6回、3,000部ずつ発行した。年間パスポート会員、学校、図書館、県内市町村等に配布した。

□ケーブルテレビ(ぎんざんテレビ)

地元ケーブルテレビ局とタイアップして制作した情報番組｢サヒメルうおっち｣は、三瓶山や島根の自然情報、イベントなどの情報発信の有力な手段になっている。また、大田市内においては、音声告知を活用したイベント告知も継続して実施した。

＊令和元年度｢サヒメルうおっち｣放送内容

放送日	放　送　内　容	放送日	放　送　内　容
4/12 ～15	春の企画展｢旅するいのち｣	10/11 ～14	植樹祭で植えられる木の紹介
5/10 ～13	ブラックホール撮影成功	11/8 ～11	秋の三瓶のオススメ(紅葉、星空)
6/14 ～17	夏の特別企画展予告編	12/13 ～16	地面の下をのぞいてみよう
7/12 ～15	夏の特別企画展体験シリーズ紹介 (ロケット発射音響体験、月の模擬砂)	1/10 ～13	島根に住むねずみについて
8/9 ～12	夏の特別企画展展示紹介(月の石、月の砂)	2/7 ～10	スマートフォンで天体を撮ろう
9/13 ～16	スズメバチを知ろう	3/13 ～16	リニューアル展示と春の企画展

(16)仕様書以外の事業の実施状況

①地域との連携

□第40回クリーン三瓶

実施日：5月19日(日)

参加者：約200人

内　容：三瓶山の関連機関が実行委員会を構成し､ボランティアを募って実施する清掃作業。当財団も財団設立以来、実行委員の一員として協力･参加しており、本年も西の原から三瓶自然館まで周回道路のゴミ拾い等を行った。当財団が担当した範囲では、年々ゴミは減少する傾向にあるものの、倒木や枯れ木、道路に積もった落葉が増えつつあり、景観への影響を懸念している。

□姫逃池カキツバタ保全作業

実施日：6月9日(日)

参加者：約70人

内　容：姫逃池のカキツバタの成長を助けるための草刈り作業を市民グループ､行政機関、一般参加の市民ボランティアなどと協力して行った。協力団体は次のとおり。島根県環境生活部自然環境課、大田市環境政策課、大田の自然を守る会、NPO法人緑と水の連絡会議、環境省松江管理官事務所、国立三瓶青少年交流の家、大田市観光協会、島根県自然保護レンジャー、三瓶自然館インタープリターの会など。

□三瓶地区交流会2019in石見ワイナリー

実施日：11月18日(月)

参加者：43人

会　場：石見ワイナリー(三瓶町志学)

内　容：三瓶地域の住民や施設、店舗、また行政関係者らが意見交換を行う場として開催した。年一回継続して実施しており、今年度はその5回目となる。各地域での取り組みや、次年度に三瓶で開催される第71回全国植樹祭についての動きなど、地域全体で取り組む話題や振興策について意見交換を行った。

□大田市版DMO候補法人

民間主導で観光地域づくりを進めるDMO候補法人(事務局/大田市観光協会内)の会議に年3回出席した。

□日本遺産勉強会

三瓶小豆原埋没林を核に日本遺産登録を目指す大田市の取り組みに協力した。6月には埋没林公園のイベントとして講座｢火山からの贈り物｣を開催したほか、再申請の準備や各種の関連事業(市民フォーラム、普及啓発活動)を行った。

②他施設との連携

□外来植物のことを知ろう＆初夏の草花ウオーク

実施日：5月18日(土)

参加者：10人

内　容：環境省大山隠岐国立公園松江管理官事務所、地元NPOと共催して、外来植物であるブタナなどの生態の説明、姫逃池周辺でのブタナおよびセイヨウスイレンの除去作業、初夏の草花観察を行った。

□コウモリフェスティバル2019in三瓶

実施日：10月12日(土)

参加者：延べ127人(講演会75人、観察会52人)

内　容：コウモリ類の保護や普及啓発の全国団体である「コウモリの会」と共催し、中国地方各県より研究者を招致して、各地域におけるコウモリの生態について講演会を開催した。夕刻に北の原で実施予定であったコウモリ観察会は、台風接近による荒天のため、館内で代替プログラムを実施し、コウモリの食性、超音波によるコミュニケーション、大きさや重さなど生態について知る機会を提供した。

□外来植物のことを知ろう＆秋の七草観察会

実施日：11月20日(水)

参加者：15人

内　容：環境省大山隠岐国立公園松江管理官事務所、地元NPOと共催して、外来植物であるセイタカアワダチソウの説明、西の原での本種の除去作業、秋の七草の観察会を9月21日に計画していたが、荒天のため延期し、11月20日(水)にセイタカアワダチソウの除去作業を行った。

□島根県自然系博物施設交流事業(三館交流)

三瓶自然館サヒメルと宍道湖自然館ゴビウス、しまね海洋館アクアスの県立自然系博物館施設が合同で、情報交換会や研修会を実施している。平成30年度～令和元年度は宍道湖自然館が幹事館となっており、本年では下記の会議に参加した。

＊学芸担当者会議

実施日：1月28日(火)～29日(水)

会　場：宍道湖自然館

概　要：各館で実施しているイベントをテーマとして取り上げ、情報交換を行った。2日目ではゴビウスバックヤードを見学し、飼育方法等について視察した。

＊総務･広報担当者会議

実施日：1月28日(火)～29日(水)

会　場：宍道湖自然館

概　要：入館料減免対応や電子決済導入など、諸課題の情報交換を行った。

＊管理職会議

実施日：2月26日(水)

会　場：宍道湖自然館

概　要：新型コロナウィルスへの対応、指定管理中間見直しに関する状況、同一労働同一賃金への対応等について情報交換および協議を行った。

□広島市こども文化科学館

広島市こども文化科学館の2階フロアに三瓶自然館のブースを設置している。令和元年度も随時更新を行い、企画展や天文情報、自然情報などを発信した。

□国立三瓶青少年交流の家

三瓶青少年交流の家の地域連携事業「三瓶地域教育ネットワーク事業」に参画し、三瓶小豆原埋没林公園のイベント「エキ･カラ」を共同開催した。エキ･カラの詳細はp.32に掲載。

また、交流の家が主会場のさんべ祭の企画運営に参加した。

□大田市内社会教育施設等

三瓶青少年交流の家、石見銀山世界遺産センター、仁摩サンドミュージアム、島根おおだ健康ビューロ、石見銀山資料館と共同で、アクティブシニアフェア(4月/岡山市)、島根ふるさとフェア(1月/広島市)でPRを行ったほか、日常的に情報交換を行った。

③各種研修

□博物館実習の受入

・島根大学　　10月30日(水)～11月4日(月)　実習生：14人

□インターンシップ(職場体験)の受入

・大田市中学校職場体験　　9月25日(水)～27日(金)　生徒：2人

□教育関係研修の受入

・教員免許状更新講習(主催：国立三瓶青少年交流の家)
実施日：9月23日(月・祝)
内　容：植物 …子ども達がワクワクする自然観察の技術【講義・実習】

□自然観察ガイド養成研修の実施(受託事業)

・自然観察ガイド養成(受託者：島根県(自然環境課))
実施日：2月24日(月・祝)　受講者：30人
内　容：自然観察で見つける身近な生物多様性について講義と実習を行った。
講　師：高川　晋一　氏(公益財団法人　日本自然保護協会)

④行政等への協力

□各種委員会等の受諾

名　　称	氏　名	期　　間	依　頼　元
大田市環境審議会委員(副会長)	酒 井 浩 純	H27. 7. 1 － R 3. 3.31	大田市長
国立三瓶青少年交流の家施設業務運営委員会委員	酒 井 浩 純	H28. 4. 1 － R 2. 3.31	国立三瓶青少年交流の家所長
大田商工会議所参与	酒 井 浩 純	H28.11. 1 － R 4.10.31	大田商工会議所会頭
三瓶山広域ツーリズム振興協議会監事	酒 井 浩 純	H27. 7. 1 －	三瓶山広域ツーリズム振興協議会会長
三瓶小豆原埋没林保存検討委員会委員	酒 井 浩 純	H27. 7.25 － R 3. 7.24	島根県知事
三瓶小豆原埋没林公園愛称募集選考委員会委員	酒 井 浩 純	R2. 2. 7 － R 2. 3.31	島根県環境生活部自然環境課長
出雲市文化財保護審議員	中 村 唯 史	R 1. 6. 1 － R 3. 5.31	出雲市長
江津市文化財保護審議員	中 村 唯 史	H27. 4. 1 － R 2. 3.31	江津市長
大田市文化財保護審議員	中 村 唯 史	H28. 4. 1 － R 2. 3.31	大田市長
大田市社会教育委員	中 村 唯 史	R 2. 2. 1 － R 4. 1.31	大田市長
希少野生動植物種保存推進員	井 上 雅 仁	H21. 7. 1 －	環境大臣
島根県自然環境保全審議会委員	井 上 雅 仁	H21.11.12 － R 4. 2.11	島根県知事
石見銀山遺跡整備検討委員会委員	井 上 雅 仁	H20.10.20 － R 3. 9.30	大田市教育委員会教育長
島根県環境影響評価技術審査会委員	井 上 雅 仁	H24. 1. 1 － R 3.12.31	島根県知事
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	井 上 雅 仁	H24. 8.29 － R 2. 3.31	島根県農林水産部農村整備課長
石見銀山遺跡調査専門委員会委員	井 上 雅 仁	H26. 4.28 － R 2. 3.31	島根県教育委員会教育長
高津川河川整備アドバイザー	井 上 雅 仁	H29. 7.24 － R 2. 3.31	国土交通省中国地方整備局長
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	星野由美子	H14. 4. 1 － R 2. 3.31	島根県農林水産部農村整備課長
自然観察指導員講習会全国講師	星野由美子	H16. 4. 1 －	公益財団法人日本自然保護協会
島根県環境影響評価技術審査会委員	星野由美子	H17. 1. 1 － R 3.12.31	島根県知事
島根県自然環境保全審議会委員	星野由美子	H26. 1.16 － R 4. 2.11	島根県知事
島根県国土利用計画審議委員	星野由美子	H28.10.25 － R 1.10.24	島根県知事
島根県満喫プロジェクト地域部会委員	星野由美子	H28.10. 6 －	島根県環境生活部長
斐伊川水系生態系ネットワーク協議会地域づくり部会雲南圏域ワーキング	星野由美子	H30. 2 －	雲南市
島根天文協会会長	竹内幹藏	H17. 6 －	島根天文協会
日本天文教育普及研究会中国四国支部代議員	竹内幹藏	H30. 7. 1 － R 4. 6.30	一般社団法人日本天文教育普及研究会

２．三瓶小豆原埋没林公園

埋没林について来園者によりわかりやすく伝えるための講座や解説等を実施するガイダンス棟の建設工事が島根県により実施され、利用者の受入と並行して工事への対応を行う変則的な運営であった。大田市による埋没林を核とした日本遺産への取り組みは、今年度では認定に至らなかったが、市民の関心が高まるきっかけとなったと思われる。利用者数としては、変則的な運営に加え、三瓶山地区への入り込み数が減少した状況の中で前年を上回る結果となった。

(1)普及啓発

①常設展示

大小2棟の地下展示室において、三瓶小豆原埋没林を発掘状態で現地展示している。大展示棟(縄文の森発掘保存展示棟)では、スギ3本、広葉樹4本の立木のほか、流木群を展示している。観覧者は地表下約12mの見学デッキから見学できる。小展示棟は、三瓶自然館展示標本の根株があり、地下約13.5mの床面で間近で見学できる。

②展示解説

実施数：113件　2,702人

内　容：予約時に解説希望の有無を確認し、予約団体の大部分に解説を実施した。また、予約に限らず、スタッフの対応が可能な限り解説を行うことで埋没林の魅力を伝えることに務めた。その他、団体以外への解説も随時実施している。

③イベント

□限定エリアガイド

実施日：毎週日曜日に実施。

参加者：各回5～10人

内　容：通常非公開の展示棟床面で解説を行うガイドツアー。床面から見る埋没樹は見学デッキよりさらに迫力があることから、参加者の満足度は高い。展示棟内の工事が始まった2月以降は床面へは立ち入らずにガイドを行った。

□石ころ探検隊

実施日：5月19日(日)

参加者：27人

内　容：大田市静間町の魚津海岸で石探しを行い、参加者が見つけた石にまつわる話題を紹介した。参加者はメノウなどのきれいな石を見つけて楽しんだ。

□講座「火山からの贈り物」

実施日：6月9日(日)

参加者：100人

内　容：大田市民会館中ホールを会場に実施した。埋没林をはじめ火山由来の地形地質と大田市の歴史の関わりを紹介し、それらの要素をまちづくりや観光につなげる機運の盛り上がりを感じられる雰囲気に会場が包まれた。

□蛍カフェ

実施日：6月22日(土)

参加者：19人

内　容：受付前の通路で簡単な茶話会とともにホタルの話題を紹介した後、ホタルを観察した。例年になく発生数が少なかったが、数少なくともホタルが光り始めると歓声が聞かれた。

□石ころ鑑定会

実施日：8月16日（金）、17日（土）

参加者：20人

内　容：参加者が持参した石を鑑定し、その石にまつわる話題を紹介した。小学生対象としたが、子ども以上に保護者が興味を持っている様子が印象的であった。なお、15日も予定したが台風のため中止。

□エキ･カラ

「エキ･カラ」は、三瓶青少年交流の家が地域と共同で実施する三瓶地域協育ネットワーク事業として2回実施した。9月21日に予定していた温泉津エキ･カラは荒天中止。実施の各回とも大田市内の駅を起点にして、近隣の自然史的な景観などを見学した。

＊静間エキ･カラ

実施日：5月12日（日）

参加者：16人

内　容：JR静間駅から近藤が浜のハマナス自生地と静之窟まで歩いた。静間地区からの参加者が様々な話題を提供してくれたことで、楽しみながら町の自然と歴史に触れる事ができた。

＊仁万エキ･カラ

実施日：10月26日（土）

参加者：12人

内　容：JR仁万駅から歩き、仁万海岸、西往寺、満行寺などを巡った。仁万地区からの参加者が地元ならではの話題を紹介し、参加者同士での交流も生まれ、終始会話を楽しみながら歩いた。

□森のアニメを作ろう

実施日：11月23日（土）

参加者：2人

内　容：アニメーションの原理を学び、制作を体験するイベント。三瓶青少年交流の家の研修室で実施し、参加者は自分で描いた10コマ分程度の絵を描き、それを撮影して動画に編集した。

④啓発事業

□出前授業

学校名：大田市立仁摩小学校

実施日：10月28日（月）

内　容：仁摩町内の大地の話題と、三瓶小豆原埋没林について紹介した。

学校名：大田市立静間小学校

実施日：10月30日（水）

内　容：学校近くの海岸で地層を見学した後、三瓶山と三瓶小豆原埋没林について紹介した。

学校名：大田市立北三瓶小学校

実施日：12月12日（木）

内　容：三瓶山と三瓶小豆原埋没林について紹介した。

(2)埋没木の保存検討に関する事項、保存処理、モニタリング、調査等

週1回の地下水位観測と月1回の水質調査を継続して実施した。保存処理については、展示棟外の埋め戻し埋没木への対策検討が県から受託した業者により実施され、これに協力したが、保存処理業務の発注はなく、展示棟内の埋没木の処理は次年度以降に再開される予定となった。

また、第10回保存検討委員会(島根県自然環境課主催)が12月12日に松江市で開催され、これに出席した。

3．施設利用許可業務

(1)休館日等

【三瓶自然館】

①開館日

◆令和元年度開館日数：191日　　※条例上は298日

※条例で定められた休館日

・7月21日から8月31日までの間を除く火曜日(祝日の場合は翌平日)
・6、9、12、3月の第1月曜日から5日間(メンテナンス休館)
・12月29日から1月3日まで

□条例で定められた休館日を変更した開館日(5日)

・来館者サービスのため、4月30日(火)を開館。
・夏期企画展の開催期間を9月末までとし、9月2日(月)、4日(水)～6日(金)の4日間を開館。

□条例で定められた開館日を変更した休館日(4日)

・9月メンテナンス休館変更に伴う代替日として、9月30日(月)、10月2日(水)～4日(金)を休館。

□県の要請により休館した日(108日)

・展示更新工事のため、令和元年11月11日(月)～令和2年3月30日(月)を休館。(条例で定められた休館日を除く。)

②開館時間

条例による開館時間は9:30～17:00である。下記の計33日は開館時間を18:00まで1時間延長した。

・4月から9月までの毎週土曜日(26日)
・7月14日(日)、8月11日(日)～14日(水)、9月15日(日)、22日(日)

③早朝開館

開館時間前の来館を希望された場合、事前の予約に応じて早朝開館をすることとしているが、当年度では1回の利用があった。

【三瓶小豆原埋没林公園】

①開園日

◆令和元年度開園日数：343日　　※条例上は298日

※条例で定められた三瓶小豆原埋没林公園の休園日

・7月21日から8月31日までの間を除く火曜日(祝日の場合は翌平日)
・6、9、12、3月の第1月曜日から5日間(メンテナンス休館)
・12月29日から1月3日まで

□条例で定められた休園日を変更した開園日(54日)

・来園者サービス及び自然館休館を補うため、条例で定められた休園日のうち、12月メンテナンス休園(12月2日(月)、4日(水)～6日(金))を除くすべての日を開園。

□条例で定められた開園日を変更した休園日(3日)

・運営の効率性を鑑み、12月28日(土)、1月4日(土)、1月5日（日）を休園。

□ガイダンス整備工事に伴う臨時休園(9日)

・工事の作業内容により開園できない日を、県からの指示により臨時休園。

②開園時間

条例による開館時間は9:30～17:00であるが、近隣宿泊者の取り込みを狙い、すべての開館日で開館時間を30分早め、9:00～17:00とした。

(2)利用料金

「わかりやすいこと」「利用しやすいこと」「合理的であること」を踏まえ、設定した。令和元年度の利用料金は下記のとおりである。

施設の種別		利用区分	通常期	夏期特別企画展開催時期	他企画展開催時期
観覧料(個人)	三瓶自然館	一般	400	1,000	600
		小中高校生	200		
	天体観察	一般	300		
		小中高校生	100		
	埋没林公園	一般	300		
		小中高校生	100		
施設貸切利用料(時間あたり)	レクチャールーム		1,300		
	ビジュアルドーム	入場料徴収 無	2,500		
		入場料徴収 有	5,000		
年間パスポート		一般	1,500		
		小中高校生	500		

※20名以上の団体は2割引(観覧料のみ)

(3)利用料金の減免

その他の期間の児童生徒の教育課程の来館、身体障害者手帳の交付者など、減免対象者は利用料金を減免した。

(4)利用の許可

施設利用の申し出に対して、利用目的等に応じて許可の可否判断を含め、適切な事務手続きを行った。

(5)施設の貸出など

・施設の貸出を行う場合は、利用者が利用の目的を十分に果たせるように利用方法や設備について丁寧な指導、助言を行った。
・受付業務にあたっては、受付窓口においてアテンダントが対応したほか、必要に応じて他のスタッフが補助し、利用者が気持ちよく施設を使用できるよう対応した。
・利用施設等に応じて、利用申請の書類を常備し、迅速な手続を行った。
・利用者にわかりやすいよう、利用方法の手引きを作成し、誰でも閲覧可能な状態で公開した。

様式４－２

不利益処分に対する処分基準

（整理番号：001）

平成27年4月1日

１．根　拠　規　程　等	島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第15条
２．不利益処分の概要	許可の取り消し、条件の変更

３．処分基準（未設定の場合はその理由）

使用許可の取り消しについては、施設内の秩序の維持の観点から措置を行うかどうか判断することとなるが、違反者の瑕疵の程度や、他の利用者への迷惑度、自然館等の施設等の棄損の度合いなど、様々な状況を考慮して客観的に判断されなければならない。

また、管理上の必要性により使用許可条件の変更を要する状況を予測することは困難であり、個別の事例により公益性等を考慮して判断せざるを得ない。

よって、一律に基準を設定することは困難である。

（許可の取消し等）

第15条　指定管理者は、前条第1項の許可を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、その者に対して、同項の許可を取り消し、同条第3項の規定により許可に付した条件を変更し、又は利用の中止若しくは自然館等からの退去を命ずることができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(2) 前条第3項の規定により許可に付した条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。

４．処分を行う施設名	島根県立三瓶自然館
５．指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 総務課

様式２－２

申請に対する審査基準

（整理番号：002 ）

平成31年4月1日

１．根　拠　規　程　等	島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第14条第1項
２．許 認 可 等 の 種 類	施設の利用許可

３．審　査　基　準

次の各号の一に該当すると認めるときは、使用の許可をしない。

１　公の秩序又は善良な風俗を害する恐れがあるとき。

２　暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団の財産上の利益になるおそれがあると認められるとき。

３　自然館等の施設又は設備を損壊するおそれがあると認められるとき。

４　その他管理上の支障があるとき。

（利用の許可）

第14条　有料施設等を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

４．標 準 処 理 期 間	10日間
５．申　　請　　先	島根県立三瓶自然館又は各利用施設
６．処 分 を 行 う 施 設 名	島根県立三瓶自然館又は各利用施設
７．指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団　企画情報課

様式２－２

申請に対する審査基準

（整理番号：003 ）

平成31年4月1日

１．法 令 名 ・ 根 拠 条 項	島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第17条
２．許 認 可 等 の 種 類	利用料金の減免

３．審　査　基　準

１　島根県立三瓶自然館及び附属施設の設置及び管理に関する条例施行規則第4条表1から4に定めるもの

判断基準…同規則に定める区分に該当するとき。

減 免 額…同規則に定める額（全額、1/2の額、2割）

２　同条表5に定めるもの

(1)島根県等行政からの要請に基づくもの（例:児童福祉週間、老人週間、身体障がい者福祉週間、遣島使カード等）

判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。

減 免 額…観覧料の全額、1/2の額、2割

(2)広報目的のもの（例:各メディア広報による特典等）

判断基準…広報対象が広く一般であるとき又は県立施設の広報として適切であるとき。

減 免 額…観覧料の全額又は2割

(3)指定管理者の事業展開（他施設等との連携含む）又は当該施設の利用促進を図る目的のもの（例:企画展招待券、島根県立施設等との連携割引等）

判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。

減 免 額…観覧料の全額又は2割

(4)サービス向上目的のもの（例:観光バス等の運転手、添乗員及びタクシー運転手等）

判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。

減 免 額…観覧料の全額又は2割

なお、各事例は突発的に要請又は実施の必要が生じることもあり、限定的な列挙は困難である。
また、経営への支障は、1を除く減免額総額の年間見込み額が300万円を超える場合に考慮する。

（利用料金等の減免）

第17条　指定管理者は、規則の定めるところにより、利用料金等の減免をすることができる。

４．標 準 処 理 期 間	10日間
５．申　　請　　先	観覧料：島根県立三瓶自然館又は埋没林公園 利用料：島根県立三瓶自然館
６．処 分 を 行 う 施 設 名	観覧料：島根県立三瓶自然館又は埋没林公園 利用料：島根県立三瓶自然館
７．指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団　企画情報課

様式２－２

申請に対する審査基準

（整理番号：004 ）

平成27年4月1日

１．法令名・根拠条項	島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第18条
２．許認可等の種類	利用料金等の還付

３．審　査　基　準（未設定の場合はその理由）

第18条第1項については、本人の責めに帰することができない理由の発生状況は、様々なケースが想定され、また全部還付･一部還付を含めた「還付する、しない」の判断は、施設の使用又は観覧行為に対し、時間的、空間的な制約をどれだけ受けたかにより、客観的、合理的に判断されなければならない。

しかし現実には、このような判断は非常に相対的、流動的なものとなるため、一律に基準を設けることは困難である。

第18条第2項についても、同様に個々の事例により客観的に判断されるべきものであり、一律に基準を設けることは困難である。

（利用料金等の不還付）

第18条　既に納入された利用料金等は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(1)利用料金等を納入した者が、その責めに帰することができない理由により、有料施設等を利用することができなくなったとき、天体運行の投影、全天周映画若しくは展示物を観覧することができなくなったとき、自然館の観察施設を利用して天体を観覧することができなくなったとき、又は埋没木等を観覧することができなくなったとき。

(2)第21条の規定により有料施設等の利用が禁止され、又は制限されたことにより当該有料施設等が利用できなくなったとき。

４．標準処理期間	10日間
５．申請先	島根県立三瓶自然館
６．処分を行う施設名	島根県立三瓶自然館
７．指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団　総務課

様式２－２

申請に対する審査基準

（整理番号：005 ）

平成31年4月1日

１．法令名・根拠条項	島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第19条第1項
２．許認可等の種類	営業行為等の許可

３．審　査　基　準

次の各号の一に該当すると認めるときは、第19条第1項に掲げる行為を許可する。

Ⅰ　第19条第1項第1号及び第2号について

１　自然館及びその付属施設の設置目的に沿った行事等の開催の案内のための広告物の表示、宣伝活動をする場合。

２　利用者への自然に関する情報提供や、啓発を図るための公共性の高い広告物の表示、宣伝活動をする場合。

３　国、県、他の地方公共団体、その他の公共団体又は公益財団法人しまね自然と環境財団が主催又は共催の行事開催時において、利用者への便宜供与、利用促進のための物品の販売、その他の営業行為を行う場合。

４　自然館及びその付属施設の利用者の便宜供与のため、物品の販売、その他の営業行為を行う場合。

５　その他特に必要があると認められる場合。

Ⅱ　第19条第1項第3号について

１　自然館及びその付属施設の設置目的に沿った行事等を開催する場合。

２　国、県、他の地方公共団体、その他の公共団体又は公益財団法人しまね自然と環境財団が主催又は共催により公用又は公共用の目的で行事を開催する場合。

３　国立公園、三瓶フィールドミュージアムの適正な利用の促進に寄与すると認められる行事を開催する場合。

４　自然に関する学習･啓発を図る目的で展示会等を開催する場合。

５　その他特に必要があると認められる場合。

（行為の制限）

第19条　　自然館等において、次に掲げる行為をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(1)広告物を表示し、又は宣伝活動をすること。

(2)寄付金の募集、物品の販売その他これらに類する行為をすること。

(3)集会、競技会、展示会その他の催しをすること。

４．標準処理期間	10日間
５．申請先	島根県立三瓶自然館
６．処分を行う施設名	島根県立三瓶自然館
７．指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団　企画情報課

４．施設の維持管理に関する業務

平成27年度から令和4年度までの指定管理施設･設備の維持管理は、「島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理運営に関する仕様書･協定書(以下「仕様等」)」を遵守し、現指定管理申請時(平成26年10月)に策定した平成27年度から令和4年度までの管理運営業務の基本方針に基づき、各年度当初に事業計画を定め、業務にあたることとしている。

【指定管理期間での管理業務基本方針】

・管理者の都合ではなく利用者のための管理
・県民の財産をお預かりしている意識
・自然環境や地球環境に優しい管理

【当年の概況】

島根県により、三瓶自然館ではビジターセンター機能強化工事と展示更新工事が実施され、小豆原埋没林公園では新たにガイダンス棟が建築された。開館中は、島根県及び工事業者と調整を図りながら、利用者への不便を最小限に抑えることに努めた。

このほかにも、令和2年に三瓶山北の原で開催される全国植樹祭、大田市が行う森林整備計画等の調整など、行政の補完業務と並行し、日常的な施設設備の維持管理も適切に行った。

(1)全施設共通業務

①利用者管理業務

令和元年度も多くの利用者を迎えたが、報告すべき規模の事故は発生しなかった。館内外での転倒等による軽微なケガ、利用者からのクレーム、要望等についても、指定管理者として誠意と責任を持って対応した。

また、事故を未然に防ぐために、定期的な巡視、見廻りにより危険箇所等の発見や対処も行ったほか、研修により、職員のスキルアップ、危機管理意識の維持に努めている。

■主な実施内容：職員巡視による利用者の退館･退園チェック、施錠の確認(毎日)
普通救命講習(1月)、5S研修、消防･避難誘導訓練(各施設で6月、10月ほか)等

②清掃業務

観覧施設として、利用者にとって快適な衛生環境を維持するよう実施した。実施回数、場所等は状況に応じて加減し、効率的な費用対効果も図っている。

■主な実施内容：日常清掃(毎日)
床洗浄･ワックス塗布(5～6月、9月～10月)
ブラインド等除塵(9月)
ガラス等洗浄(4月、7月)
特別トイレ清掃 (4月)
フィルター清掃等(6月ほか)
廃棄物処理(適宜)

■委託先：㈱ＮＴＴファシリティーズ(㈱中央ビルサービス)

③警備業務

機械警備専門業者により、不審者、火災報知器の遠隔監視を行った。当年では警備員の駆けつけが6回あり、いずれも誤報だったが、その都度、適切な対応を取った。

なお、誤報の原因は停電(電力会社原因)による異常発報のほか、センサーの誤作動によるものとなっている。

また、GWや夏休み期間等の繁忙期には、駐車場に警備員を配置して事故のないように努めているが、駐車場の収容能力が小さく、各所に分散していることから、警備は難しいものとなっている。

■委託先　機 械 警 備：㈱ＮＴＴファシリティーズ(北陽警備保障㈱)
　　駐車場警備：㈱ＮＴＴファシリティーズ(㈱ケイショウ、企業警備保障㈱)

④業務車両の管理

各車両は、車検、定期点検、補修等を定期的に行うとともに、万一の事故に備えた任意保険の付保、道路交通法に定められる安全運転管理者の配置など、適切な車両管理、運行管理に努めた。

また、島根県等が実施する「しまね安全ドライブコンテスト2019」に全職員で参加し、安全運転意識の徹底を推進した。

■管理車両　業務車両：11台(県有車両2台(うちバス1台)、財団所有8台、借用1台)
■事 故 等　業務車両： 2件(飛び石によるフロントガラス破損など)
　　自家用車： 6件
■主な実施内容：各車両の点検、法定点検(各車毎)
　　安全運転管理者講習受講(5月)
　　しまね安全ドライブ･コンテストへの参加(7月～12月)

⑤フィールド管理

管理域(三瓶山北の原～東の原)において全3回の刈り払い作業を実施したほか、三瓶山登山道(姫逃コース、名号コース)の定期的な点検、風倒木等の処理作業を行い、来館者･来園者、登山者の快適な利用に資するよう環境管理を行った。

なお、これらの作業にあたっては、自然公園法の指定植物、レッドデータブックに掲載される稀少植物の取り扱いに細心の注意を払っている。

■主な実施内容：草原域及び公園域の草刈(全刈3回/年、部分刈適宜)
　　登山道の巡視及び軽微修繕(2回/年)
　　林間域、施設周辺の倒木及び危険木処理(適宜)
　　野外歩道類の維持管理(適宜)
　　駐車場等の除雪(適宜)

⑥軽微修繕

障害の発生した設備･備品等について、1件10万円未満のものは指定管理者で対応し、それ以外のものは県へ速やかに報告するとともに、修繕対応案の提示を行った。

■修繕状況：三瓶自然館　……31件(空調機修繕、内壁塗装など)
　　埋没林公園 ……5件(水道設備修繕など)

⑦資格者の配置

㋐常駐配置義務付のもの

・防火管理者(三瓶自然館)……熊 谷 正 浩(企画情報課)
・　〃　(埋没林公園)……大野志津香(企画情報課)
・安全運転管理者 ……石 田 浩 二(総務課)
・危険物取扱者 ……山本健太郎(　〃　)
・ゴンドラ管理者 ……中 村 唯 史(企画情報課)

㋑再委託業者による配置可のもの(カッコ内は直接実施業者)

・建築物環境衛生管理技術者……㈱NTTファシリティーズ
・専用水道管理者 ……㈱NTTファシリティーズ(山陰クボタ水道㈱)
・消防設備点検資格者 ……㈱NTTファシリティーズ(ホーチキ㈱)
・浄化槽管理者 ……㈱NTTファシリティーズ(クリーン㈱)
・昇降設備管理者(三瓶自然館)……㈱NTTファシリティーズ(㈱日立ビルシステム)
・　〃　(埋没林公園)……㈱NTTファシリティーズ(三菱電機ビルテクノサービス㈱)
・電気設備主任技術者 ……(一財)中国電気保安協会

⑧その他特記事項

□姫逃池木道整備(12月～翌2月)

島根県による「しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業」で姫逃池近くにある木道が整備され、一部バリアフリー化された。当財団は、島根県や工事業者に対し、利用者の状況や要望等を伝えるなど協力した。

(2)三瓶自然館関係

①指定管理者による点検

項　　目	実　施　状　況
建築物全般、各設備	目視点検、動作確認(随時)
上水道設備管理	上水検査(毎日) 検針(1回/月)
浄化槽管理	三次処理槽草刈(2回/年) 検針(1回/月)
自家用発電機(本館・新館)	目視点検(1回/週)
空調関連設備(全館)	目視点検(毎日)
空調オイルタンク(本館・新館)	目視点検(1回/週)
草刈(自然館周辺、北の原、ヘルシートレーリングコース)	野外草原域及び公園域の芝刈、草刈及び除草(全刈3回/年、部分的に1回/月、5～11月) 野外林間域の倒木及び危険木処理(随時) 野外歩道類の維持管理、危険箇所の報告(随時)
登山道(姫逃コース、名号コース)、山頂小屋	巡視、軽微修繕(2回/年) 野外歩道類の維持管理、危険箇所の報告(随時)
除雪(駐車場、施設周辺等)	随時

②委託業者による点検

項　　目	実　施　状　況	委　託　業　者
施設清掃(全館)	日常清掃(随時、部分的に1～3回/週) 定期清掃(3回/年、部分的に1～2回/年) 特別清掃(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
衛生管理業務	ねずみ・害虫駆除(2回/年) 空気環境測定(6回/年) 雨水処理層清掃(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
上水道管理	電気計装・制御盤、ポンプ類点検(総合点検1回/年、定期点検6回/年) 配水池の清掃・水質検査(1回/年) 滅菌器点検(6回/年)	㈱NTTファシリティーズ
専用水道水質検査	浄水水質検査(項目毎に1～12回/年) 原水全項目検査(1回/年) クリプト指標菌(4回/年)	㈱NTTファシリティーズ
浄化槽維持管理・機能調整	機器点検・清掃・カス抜き取り等(1回/週) 水質検査(流入水2回/年、放流水1回/月) 機能調整(1回/月)	㈱NTTファシリティーズ
	法11条検査(1回/年)	(公社)島根県浄化槽普及管理ｾﾝﾀｰ
自家用電気工作物	月次点検(1回/月)、年次点検(1回/年)	(一財)中国電気保安協会
消防設備	外観機能点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
防火対象物定期点検	定期点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
収蔵庫消火システム	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
非常用発電設備	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
灯油焚冷温水発生機(本館)	冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) 暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)	㈱NTTファシリティーズ

木質ペレット焚冷温水発生機(本館)	冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) 暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
灯油焚冷温水発生機(新館)	冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) 暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
空調関連設備(本館・新館)	機器点検(2回/年) 室外機点検(4回/年)	㈱NTTファシリティーズ
空調オイルタンク類(本館・新館)	清掃・配管漏洩検査(1回/年) 機器点検、機能試験(2回/年)	㈱NTTファシリティーズ
昇降機設備(本館・新館)	月次点検(1回/月)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
ゴンドラ	ゴンドラ管理者(財団職員)による定期点検 ※現在法定点検を要しない機器を使用中	―
衛生ポンプ設備	機能点検・調整(2回/年)	㈱NTTファシリティーズ
全天候スカイカメラ	機能点検・調整(1回/月)	㈱NTTファシリティーズ
展示設備(本館)	機器点検・調整(2回/年)	ノムラテクノ㈱
展示設備(新館)	機器点検・調整(1回/年)	㈱丹青社
燻蒸設備	機器点検・調整(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
収蔵庫燻蒸	ブンガノン燻蒸(1回/2年)	日本液炭㈱
総合映像システム	機器点検・調整(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
プラネタリウム設備	ジェミニスターⅢ点検・調整(2回/年) 音響設備点検・調整(1回/年)	コニカミノルタプラネタリウム㈱
全天周映画設備	機器点検・調整(1回/年)	協和通信工業㈱
60cm反射望遠鏡	機器点検・調整(2回/年)	㈱西村製作所
20cmクーデ望遠鏡	機器点検・調整(1回/年)	㈱五藤光学研究所
天体ドーム設備	機器点検・調整(1回/年)	アストロ光学工業㈱
スライディングルーフ	機器点検・調整(2回/年)	㈱角藤 可動建築部
駐車場警備	警備員による駐車場整理(220人/年)	㈱NTTファシリティーズ
機械警備	火災・夜間侵入監視(毎日)	㈱NTTファシリティーズ
他建築設備関連	自動ドア点検・調整(1回/年) 排煙窓・非常灯動作点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ

(3)三瓶小豆原埋没林公園関係

①指定管理者による点検

項　　目	実　施　業　務
建築物全般、各設備	目視点検・動作確認(随時)
上水道設備管理	目視点検(1回/週) 塩素投入(随時)
自家用発電設備	目視点検点検(1回/週)
地下水監視	水位(1回/週) 水質(1回/月)
除雪	駐車場(随時)

②委託業者による点検

項　　目	実　施　状　況	委　託　業　者
施設清掃(管理棟、大･小展示棟)	日常清掃(随時、部分的に1～3回/週) 定期清掃(2回/年、部分的に1回/年) 特別清掃(2回/年)	㈱NTTファシリティーズ
上水道管理	ポンプ類点検、受水槽清掃、滅菌器点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
合併浄化槽維持管理	機器点検･調整、水質検査等(1回/月)	㈱NTTファシリティーズ
	法11条検査(1回/年)	(公社)島根県浄化槽普及管理ｾﾝﾀｰ
自家用電気工作物	月次点検(1回/月)、年次点検(1回/年)	(一財)中国電気保安協会
消防設備	外観機能点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
非常用発電設備	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
昇降機設備	月次点検(1回/月)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
地下水ポンプ	機器点検･調整(2回/年)	㈱NTTファシリティーズ
	夜間監視(毎日)	小豆原自治会
機械警備	火災･夜間侵入監視(毎日)	㈱NTTファシリティーズ
酸素濃度計	機器点検･調整(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
草刈	園地(1回/月、5～11月)	北三瓶よろず会

５．物品の管理等

(1)協定書第25条により、令和元年度に本事業用として購入等により取得した物品は次のとおりである。

□令和元年度取得物品（取得単価50,000円以上のもの。財団保有）　（金額単位：円）

品　　名	規　格　等	数量	単　価	取得価額	備　　考
ツキノワグマ皮革標本	坂本剝製製作所製	1体	99,360	99,360	博物標本・展示用
業務用ノートパソコン	東芝　MTB11N7AD21	5台	95,277	476,388	
背負い式パワーブロアー	共立　PB-590	2台	53,900	107,800	フィールド管理用
プラネタリウム用映像素材	スターライトスタジオ	2ｾｯﾄ	82,500	165,000	ドーム映像素材
映像編集用PC	DAIV-DQZ530S2-M2	1台	353,268	353,268	プラネタリウム番組制作用
シンシュウゾウ模型	西尾製作所	1体	199,260	199,260	博物標本・展示用
ナウマンゾウ模型	西尾製作所	1体	199,260	199,260	博物標本・展示用
テンピー着ぐるみ	ピアニジュウイチ製	1体	869,000	869,000	広告宣伝用
合　　計（税込み額）				2,469,336	

※償却資産は、取得単価10万円以上の物品（決算書上は固定資産に分類）。

(2)県に帰属する物品は島根県会計規則に基づいて管理を行った。

(3)県に帰属する物品類として新たに購入又は製作した物品はなかった。

(4)廃棄した物品は次のとおりである。

□令和元年度廃棄物品（県有備品）

30						
1-6-2	47	展示板	ウチダ　UT-34セット	3	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-6-2	131	レーザーポインター	スターベース　MW	1	三瓶自然館	動作不能のため不要処分
1-9-3	50	拡大機スタンド付き）	富士フィルム　3000WIDE	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-9-3	52	テレビ	ソニー　KV-25DA55+SU-FV25	1	三瓶自然館	動作不能のため不要処分
1-11-1	02	図書	コンパクト版原色図鑑セット	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-11-1	02	図書	検索入門シリーズ	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-11-1	10	電子ブック版　日本大百科全書	電子ブック版　日本大百科全書	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-1-3	27	オーディオ台	コクヨYYT-SD2A	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-1-3	28	レジ台	コクヨYT-KR62 レターケース収納タイプ	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-1-3	29	ショーケース	コクヨ ﾊｲﾀｲﾌﾟ YT-KS123U	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-1-3	30	全面ショーケースカウンター	コクヨ YT-KS124U	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分
1-1-3	31	コーナーカウンター	コクヨ オープンタイプYT-KG6	1	三瓶自然館	代用品更新のため不要処分

Ⅲ. 地球環境の保全に関する活動支援事業

１．事業概要

当財団は、島根県の豊かな自然環境を守り、自然と調和した持続可能な地域づくりを進めるとともに、2015年に「国連持続可能な開発サミット」で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」を念頭に置いて、地球環境保全及びその他の環境保全に関する普及啓発を行うため、地方自治体などの行政組織や大学などの教育機関をはじめ、様々な地域課題の解決に自ら率先して取り組むNPO法人や任意団体、各種ボランティアなどを支援する中間支援組織として、分野横断的な取り組みや多様な主体との協働を促進し、活動の充実を図った。

また、島根県知事より島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、これまで地球温暖化対策に取り組んできた。2015年の「第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)」で、世界196の国と地域が合意したパリ協定の発効を受け、国が進める温室効果ガス削減目標の達成に向けた国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、県民一人ひとりに脱炭素・循環型社会の実現につながる意識や行動の変化を促すため、様々な主体と協働・連携しながら活動を進めた。

２．各事業の詳細

(1)家庭向け地球温暖化対策事業

①島根県地球温暖化対策協議会生活部会の運営

島根県地球温暖化対策協議会生活部会の事務局として、同部会に参画する各種団体と連携しながら、生活者の立場で進める地球温暖化防止の県民運動に取り組んだ。

□第1回運営委員会
開 催 日：8月9日(金)
場　　所：タウンプラザしまね
議　　題：活動の実施状況の確認等(荒天により中止。書類の持ち回りにより決議)

□第2回運営委員会
開 催 日：2月5日(水)
場　　所：タウンプラザしまね
議　　題：活動評価、次年度活動活動計画の検討

②エコドライブの推進

環境省他各省庁が連携して取り組む11月のエコドライブ推進月間に合わせ、エコドライブの普及啓発及びエコドライブの実践によるCO_2削減を目的としたキャンペーンを下記のとおり実施した。

実 施 日：11月1日(大田市、邑南町)、3日(出雲市)、6日(松江市、浜田市、益田市)、26日(安来市)
配 布 数：3,300部
協力団体：安来市、松江市、出雲市、大田市、浜田市、益田市、邑南町、安来市地球温暖化対策地域協議会、まつえ環境市民会議、出雲市省エネルギービジョン推進協議会、大田市地球温暖化対策地域協議会、浜田市地球温暖化対策地域協議会、益田市地球温暖化対策地域協議会、邑南町地球温暖化対策地域協議会

場　　所：プラーナ(安来市)、イオン松江店、出雲ドーム、イオン大田店、ゆめタウン浜田店、キヌヤ益田、道の駅みずほ
概　　要：エコドライブの実践方法を解説したリーフレットを作成し、各市町村や各推進員等の希望者を通じて県内各所で配布した。また、エコドライブ推進月間の開始にあわせ、各市町地球温暖化対策地域協議会及び島根県地球温暖化防止活動推進員と協力し、県内の7市町でリーフレットを配布する街頭PR活動を行った。

③親子で取り組むもったいない生活事業

幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組んでもらえるよう、「親子で取り組むもったいない生活事業」を幼稚園及び保育園を所管する県各課と連携し、各園に参加を呼びかけ、実施した。

□親子で取り組むワークシート

期　　間：4月～2月
実 施 園：62園(参加園児数：1,852人、ワークシート回収数：723枚)
削 減 量：1,384kg-CO_2
概　　要：幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組めるよう、ワークシートを制作し、希望する幼稚園及び保育園に配布した。実施したワークシートは回収し、取組結果をとりまとめた。

□幼･保育園向け親子で取り組むミニエコ講座

期　　間：4月～2月
実 施 園：53園(参加者数：1,340人)
推 進 員：延べ34人が活動
概　　要：県内の幼稚園･保育園に呼びかけ、希望した53園でミニエコ講座を実施した。講座では、絵本等の読み聞かせを行った後、布製のバッグに布用マジックで絵を描いて自分だけのマイバッグを制作するワークショップや釣りゲームを実施し、資源になるごみについて説明した。

□小学生向けワークシート(松江市)

期　　間：7月～9月
実 施 校：33校(参加者数：1,780人、ワークシート回収数：1,305枚)
削 減 量：4,513kg-CO_2
推 進 員：延べ27人が活動
概　　要：松江市内の小学校4年生を対象に省エネワークシートを配布し、家庭における省エネ行動を促した。

□小学生向けワークシート(浜田市)

期　　間：12月～1月
実 施 校：16校(参加者数：420人、ワークシート回収数：325枚)
削 減 量：1,002kg-CO_2
概　　要：浜田市内の小学校4年生を対象に省エネワークシートを配布し、家庭における省エネ行動を促した。

④気候変動啓発リーフレットの作成

近年の気温上昇や気象災害及び身近な防災対策と家庭で取組可能な温暖化防止活動についてまとめたリーフレットを作成し、防災減災活動に取り組む各主体に配布した。

発 行 数：12,000部

(2) 地球温暖化防止活動推進員の支援

島根県地球温暖化防止活動推進員は、平成30年12月に第9期の推進員が島根県知事より委嘱を受け、44人(令和2年3月31日現在)が県内の各地域で活動を行っている。

島根県から島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けている当財団では、その資質向上のための研修の企画・実施を行うとともに、推進員同士の協働・連携を支援し、温暖化防止活動に取り組んだ。

①推進員の能力向上

新規推進員の養成や既存の推進員の活動に必要となる資質や知識、スキルの向上を図るため、研修やセミナーを企画するとともに、外部研修へ推進員の派遣を行った。

◆主な研修

□推進員SDGs研修

実 施 日：1月17日(金)
場　　所：島根県立男女共同参画センター(あすてらす)研修室1
参 加 者：22人
概　　要：SDGs達成のための行動へつなげるため、SDGsの背景にある現状や課題を学ぶ研修会を推進員が自ら企画し、実施した。

□SDGsミーティングin大田

実 施 日：2月19日(水)
場　　所：島根県立男女共同参画センター(あすてらす)研修室1
参 加 者：11人
概　　要：「推進員SDGs研修」の参加者を対象に、SDGsをより身近で具体的な取り組みと結びつけて考えるとともに、地域の様々な課題解決のための共通の視点づくりにつなげるため、推進員の活動事例を題材に、SDGsのより深い理解と自分事化を図るワークショップを実施した。

◆中四国ブロックでの広域連携

□中国四国ブロック合同推進員研修

実 施 日：9月5日(木)～6日(金)
場　　所：松江テルサ
参 加 者：48人(うち島根県5人)
概　　要：中四国地域の各地球温暖化防止活動推進センターが合同で企画し、持続可能な地域づくりにかかる多様な地域事例(地域版SDGsの具体事例、地域企業における環境への取組事例、再エネ導入の成功事例、気候変動の地域での影響、具体的な緩和策、適応策の事例など)を各推進員が紹介し、情報発信能力の向上を目指した。また研修会では、推進員が相互に活動事例をインタビューし合い、中国・四国ブロックの地球温暖化防止活動の事例集としてとりまとめを行った。

◆その他研修

□広島県推進員との意見交換会

実 施 日：10月30日(水)
場　　所：出雲市民会館　302研修室
参加者数：8人
概　　要：広島県と島根県で活動する地球温暖化防止活動推進員が、相互に学び合い、優良な活動事例を各県で広めていくために、各地域において特徴のある取り組み、活動の成功例などについての情報交換を行った。

②推進員の活動支援

県内で活動する島根県地球温暖化防止活動推進員が連携し、地域での温暖化防止活動を主体的に企画･実施できるよう、推進員のネットワーク化と活動支援を行った。

◆グループ間の情報共有

推進員が連携し、より地域に密着した温暖化防止活動を促進するため、「しまねエコライフサポーターズ連絡会」などで情報共有しながら、本年度は5回活動を実施した。

活動ｸﾞﾙｰﾌﾟ：松江市、奥出雲町、出雲市、大田市、浜田市(地域グループ)
しまねMEETS SDGs、島根版脱炭素事例集作成グループ(テーマ別グループ)

◆グループによる活動

地域に密着した温暖化防止活動を行うため、居住市町村もしくは隣接する地域でグループを構成したり、同じテーマでテーマ別グループ構成した推進員が連携し、主体的に活動を企画･実施した。活動にあたっては、各グループが企画書及び予算書を作成し、連絡会で合意形成を図った後、活動を実施した。当財団は、事務局として経費の執行や事務処理等を行うことで、グループの円滑な活動を支援した。

内　　容：①地域イベントでの地球温暖化の普及啓発、幼稚園･保育園でのミニエコ講座の実施、松江市内小学校での省エネチャレンジシート実施、打ち水大作戦などの県普及啓発事業への協力(松江市)
②地域の女性学級で温暖化防止の啓発、地域イベントでの地球温暖化の普及啓発、町報に毎月普及啓発コラムの寄稿、掲載(奥出雲町)
③ゴミ減量･生ごみ堆肥化の勉強会、お財布にやさしい温暖化防止をテーマとした一般向け講演会の企画･実施、コミュニティーセンターでのロケットストーブ作りの企画･実施(出雲市)
④竹の利活用の普及啓発イベント実施、おおだ自然エネルギーパークの実施(大田市)
⑤推進員に対してSDGsについて説明をする研修を実施(SDGs)
⑥推進員が各学校に取材･執筆し、脱炭素事例集を作成(事例集)

③しまエコユースサポーターの活動支援

若年層による普及啓発効果を期待し、多様な世代との活動の連携を促進するため、県内の大学において環境保全等の活動を行うサークルをしまエコユースサポーターに登録し、活動支援を行うとともに、その活動をWEBコラムなどを用いて情報発信を行った。

◆サポーターの活動支援

しまエコユースサポーターに登録したサークルが、環境保全活動を行う際に、活動内容を取材するとともに、活動にかかる経費の一部について支援した。

登録団体：水辺のビオトープ研究会、島根大学木質バイオマス活用研究会、島根大学エコロジー･ネットワーク、環境倶楽部しまえっこ、島大エネルギーの会、島根大学環境委員会、島根環境保全の会

内　　容：①「キャンドルナイト松江2019」にボランティアとして参加。(6月22日(土)／水辺のビオトープ研究会)
②「上意東ホタル祭り」に出展し、竹灯篭作り体験、緑の募金、植樹祭の宣伝を実施。(6月22日(土)／島根大学木質バイオマス活用研究会)
③環境倶楽部しまえっこ、浜田市地域ボランティアとともにハッチョウトンボ公園の草刈り実施。(8月3日(土)／島根大学エコロジー･ネットワーク)

④中国地方ESD活動支援センター主催「高校生のためのESDユースワークショップ」参加。(8月7日(水)／環境倶楽部しまえっこ)

⑤「2019松江市環境フェスティバル」のエコサポしまねの出展ブース運営補助。(11月4日(月・祝)／島根大学木質バイオマス活用研究会)

(3)家庭の省エネ促進支援

COP21において、我が国が示した「日本の約束草案」では、家庭から排出されるCO_2を2030年までに2013年比で40%削減することとされており、今後より実効性あるCO_2削減対策が必要となる。島根県においても家庭部門のCO_2排出が課題であり、これらの削減を進めるため、家庭の省エネ行動へとつなげる普及啓発を行った。

①家庭における省エネの見える化の推進

◆家庭エコ診断の実施

うちエコ診断を円滑に実施し、診断内容の向上を図るため、県内の診断実施事務局に登録している診断士を対象に、診断ソフトのバージョンアップにあたっての対応方法やデータの取り扱い、診断技術の向上などについて研修を行った。

□うちエコ診断士の養成および資質向上

実 施 日：5月21日(火)
場　　所：石央文化ホール(浜田市)
参 加 者：8人
概　　要：うちエコ診断を円滑に実施し、診断内容の向上を図るため、県内の診断実施事務局に登録している診断士を対象に、診断ソフトのバージョンアップにあたっての対応方法やデータの取り扱い、診断技術の向上などについて研修を行った。

□うちエコ診断の広報

概　　要：うちエコ診断を広く県民に周知し、受診者拡大を図るため、うちエコ診断について説明したチラシや診断の流れや診断内容を記載した、パンフレット等を作成し、企業に配布した。

□診断の実施

実施件数：105件
場　　所：7市町14会場
削 減 量：16,667kg-CO_2/年(一世帯あたり、1,515kg-CO_2/年・世帯。但し、事後調査の回答を得た件によるもの。)
診断士数：7人(延べ54人)
概　　要：「うちエコ診断」について、実施機関の認定を受け、診断士の登録及び診断業務を行った。県環境政策課、市環境担当課等と連携して受診者を募り、診断士を派遣し診断を行った。診断結果に基づき対策提案を行うとともに、事後調査を実施し、受診者の対策状況を把握した。

②COOL CHOICEセミナーの実施

低炭素型の「製品」、「サービス」、「ライフスタイル」など、地球温暖化対策につながるあらゆる「賢い選択」について知り、誰もが暮らしのなかの様々な場面で実践することを促すため、「COOL CHOICEセミナー」を県内市町村及び地球温暖化対策地域協議会と連携し実施した。

□エコドライブセミナー

実施日と場所：	9月8日(日)	和鋼博物館	(28人)
	10月19日(土)	津和野町体育館	(24人)
	11月 2日(土)	出雲ドーム	(56人)
	11月12日(火)	イオン松江	(7人)

( )内は参加人数。

概　　要：身近にできるCOOL CHOICEとしてエコドライブを知って学べる場として、エコドライブシミュレーターなどを用いた体験を行えるセミナーを行った。

□インテリアの見直しによる省エネ！

実施日と場所：11月28日(木)　　Rope(大田市)　　(5人)
　　12月5日(木)　　正直屋(益田市)　(2人)　　( )内は参加人数。

概　　要：インテリアの見直しによって、視覚的な効果も取り入れながら、比較的安価にできる省エネ対策について、雑貨店などの店頭を実施スペースとして、セミナーを行った。

□公共交通とライドシェア

実 施 日：1月24日(金)
場　　所：益田市役所
参 加 者：28人
概　　要：過疎･高齢化が進む益田市内を例に、交通インフラの現状と2030年の人口予測を知るとともに、ライドシェアなどの新しい手段の導入による自家用車使用の抑制の可能性を、地元住民と学び考えるセミナーを実施した。

③住まいの省エネ推進事業

既設住宅の省エネルギー化を促進するため、断熱対策などエコリフォームの必要性を、熱エネルギー消費が増加する冬季に、実例をもとに県民に広く情報発信した。

□省エネリフォーム研修会「小さなエネルギーで豊かに暮らせる住まい」

実 施 日：10月26日(土)
場　　所：益田駅前ビルEAGA3階ホール
参 加 者：19人
講　　演：野池　政宏　氏(Forward to 1985 energy life代表理事)
　　永瀬　美貴　氏(ナガセミキ建築設計事務所)
概　　要：家庭のエネルギー消費量を抑えつつ快適に暮らせるパッシブデザインの住宅づくりについて、基礎知識と中古住宅のリフォーム実践例を紹介し、取り組みを促した。

□介護世代のエコリフォーム術「高齢者の健康と住まいの省エネ」

実 施 日：11月8日(金)
場　　所：奥出雲町仁多庁舎ふれあいホール
参 加 者：7人
講　　演：宇田川　孝浩　氏(宇田川孝浩建築設計事務所、一級建築士)
概　　要：省エネルギー性能が低い既設住宅は、冬季の部屋間の温度差が大きく、ヒートショックなど体調の不調を起こす可能性があることや、高齢者の住み心地を向上させる住宅リフォームの実践例を取り上げ、住宅リフォームの利点を周知した。

□DIYでもできる！エコリフォームワークショップ

実 施 日：11月9日(土)、11月23日(土)、令和2年1月25日(土)
場　　所：青原公民館、長嶺建設株式会社(ともに鹿足郡津和野町)ほか
参 加 者：14人
講　　演：久保　公宏　氏((株)LIXIL中四国ZEH営業部)
　　長嶺　近人　氏(長嶺建設株式会社、代表取締役)
概　　要：一般住宅(築30年)を例に、住宅の断熱性能を高める方法や手順を、地元工務店主を講師に迎え周知した。あわせて1室のガラス戸に断熱加工を施す作業を参加者とともに実施し、作業体験を通じて取り組み実践を促した。

④地球温暖化防止啓発広報誌の発行

地球温暖化の現状や国内外の情勢、影響と対策、地域での取り組みなど、身近なテーマと関連づけて情報提供を行う広報誌「しまエコ」を年2回発行した。用紙には国内産の竹100%でできた竹紙を使用し、環境への配慮とともに身近な資源の有効活用を啓発する工夫を行った。

発行部数：8,000部(Vol.16：4,000部、Vol.17：4,000部)

配 布 先：各市町村担当課、島根県地球温暖化防止活動推進員、県内の環境活動団体、全国及び各県センター、県内図書館等

発行テーマ：しまエコ Vol.16[2019年9月発行]

・しまねの海を守ろう！海ごみをくい止める
・いきものを守ろう！
・カッコイイ船「おろち丸」／鳴砂海岸を守る人たち
・豊かな田舎の風景に価値を生み出す「群言堂」
・セミの抜け殻図鑑(付録)

しまエコ Vol.17[2020年1月発行]

・3Rだけじゃない！もっとR！地球を守る合い言葉
・ミミズコンポスト
・COPってなあに？
・「いかあ屋」に行かあや！隠岐の西ノ島コミュニティ図書館
・オロチさんとしろくまさんのSTOP!!地球温暖化 ボクらにできること！(付録)

(4) 市町村事業の支援

市町村温暖化対策担当課が、限られた人員と予算で効率的な地球温暖化対策事業を実施できるよう事業の企画支援(相談・助言・協力)を行った。

□市町村環境担当者へのヒアリング

場　　所：松江市、安来市、出雲市、雲南市、大田市、江津市、浜田市、益田市、川本町、美郷町、津和野町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町

概　　要：地球温暖化対策実行計画の策定、改訂状況や本年度の実施予定の事業内容について聴取し、県や当財団の支援について提案を行った。

□市町村環境担当者研修の実施

実 施 日：7月12日(金)

場　　所：島根県民会館

参 加 者：31人

テ ー マ：「自治体での環境政策・エネルギー政策の基本」

講　　演：田中　信一郎　氏(一般社団法人地域政策デザインオフィス)

概　　要：地域循環共生圏やSDGsなど、地域における新たな取り組みを政策づくりにつなげることを目的に、県内の市町村の環境政策担当者を対象とし、「環境政策の基本」についての講義や地域主導型再生可能エネルギー事業を企画する「政策形成ワークショップ」を実施した。

□環境省補助事業(地方公共団体と連携したCO_2/排出削減促進事業)採択団体の支援

協力団体：株式会社キヌヤ、益田市高津学校給食センター、島根県地球温暖化防止活動推進員、NPO法人コアラッチ

支援回数：5回

概　　要：益田市政策企画課が主体となり、益田市立吉田南小学校5年生を対象に環境学習の支援を行った。今年度は、地球温暖化や食品ロスをテーマとし、学校における事前学習への講師派遣や家庭における実践的な取り組みの支援を行った。

(5)全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)との連携

全国センター(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット、平成22年8月設立)との連携に努め、中四国ブロックや他県センターと共通事業への取り組み、情報交換を図った。

全国センター会議：6月に東京で開催(2名参加)、3月は新型コロナウイルス対策のため開催中止。

(6)複数の情報媒体を活用した情報発信

県民に環境負荷の少ないライフスタイルへの転換や持続可能な地域づくりへの理解を促すため、農業や定住、地域経済など多様な分野で活躍し、県内で注目を浴びる人材を取材対象とし、しまねへの愛着やライフスタイルの有り様と合わせ、自然観や環境観を引き出すことで、環境に対して興味が薄い若年層をはじめ、様々な対象に対して関心を高める情報を発信した。

①SNSを用いた情報発信

情報が行き届きにくい対象への発信力を高めるため、FacebookやTwitterなどSNSを活用し、県内の環境情報を発信した。

実 施 数：週1回程度(Facebook)、2日に1回程度(Twitter)

概　　要：当財団が実施する環境事業や島根県の環境施策、県内外の注目度が高い環境に関する情報をわかりやすく発信。

②WEBコラムによる情報発信

地域に根ざした暮らしや地域活動を行う人材を対象に取り上げ、その暮らしぶりや地域への関わりなどを取材するとともに、自然や環境に対する思いについて、SNSやHPなどでWEBコラムとして発信した。また、取り組みに応じてSDGsのアイコンを表示し、地域における持続可能な取り組みへの関心を高めることができるよう工夫した。

タイトル：「しまねを楽しみ、未来へ繋ぐコラム」

内　容	取材者
大根島パワー!!元気な島を未来に繋ぐコラム	(株)ふぁーむ大根島　代表取締役　豊島　美紀　氏
女子目線で雲南市のオシャレな楽しみ方を発信！	FELICE　吉田　真琴　氏
世界と繋がるしまねの海	ダイビングショップシーワーク　代表　清水　宏一郎　氏
アカエイと巡る自然の宝庫「宍道湖･中海」をもっと身近に！	ゴビウスサポーター　鈴木　渚斗　氏
チャレンジできる図書館に「いかあや！」	西ノ島コミュニティ図書館　橋元　香緒里　氏
千年つなぐ秋の実り	柿壺株式会社　代表取締役　小松　正嗣　氏
芸術をもっと身近に!!世代や文化を超えた交流を	川登芸術村 山口　原始　氏
人にも、環境にも優しい珈琲はいかが？香り豊かな豆を焙煎するナマケモノ珈琲	ナマケモノ珈琲　代表　中村　聡　氏
「温故知新」大切な思い出とずっと一緒に	FlatStyle 代表取締役　松崎　直也　氏
大地の恵みが花開く、豊かな島根でできること	島根大学教育学部副学部長　松本　一郎　教授

③ケーブルテレビでの番組制作と放映

WEBコラムに掲載した記事からテーマを抜粋し、同一内容で映像を制作し、ケーブルテレビで放映を行った。番組は、島根県ケーブルテレビ協議会のネットワークを介して、県内のケーブルテレビ網に配信を行った。

タイトル：「しまねFuture2030」

内　　容：「しまねFuture2030　第4作　世界とつながるしまねの海」(9月／大田市)
「しまねFuture2030　第5作　千年つなぐ秋の実り」(1月／出雲市)

放 映 先：どじょっこテレビ(安来市)、マーブル(松江市)、雲南夢ネット(雲南市、飯南町)、まげなねっと(川本町)、おおなんケーブルテレビ(邑南町)、石見ケーブルビジョン(浜田市)、ひゃこるネットみすみ(三隅町)、ひとまろビジョン(益田市)

④紙媒体を用いた情報発信

WEBコラムに掲載した記事の中でもページビュー数が多く、掲載する雑誌がターゲットとする読者に適した内容を抜粋し、同一内容で雑誌向けに再構成を行い掲載した。

掲 載 誌：さんいんキラリ(有限会社グリーンフィールズ)

内　　容：「大根島パワー!!元気な島を未来に繋ぐ」((株)ふぁーむ大根　豊島　美紀　氏)

⑤住まいの省エネ情報発信

11月に2回開催したイベント「DIYでもできる！エコリフォームワークショップ」を取材し、レポート記事をWEBページにて公開することで、県民に自分で取り組む住まいの断熱対策や省エネへの着手を促すとともに、地域の工務店を利用することで、地域で経済を循環させる取り組みを考える機会を提供した。

内　　容：冬でも暖かく過ごせるお家のつくり方Vol.1(2月中旬公開)
冬でも暖かく過ごせるお家のつくり方Vol.2(3月上旬公開)
冬でも暖かく過ごせるお家のつくり方Vol.3(3月下旬公開)

(7)学校版脱炭素モデル事例調査

地球温暖化や環境にかかる地域課題を掘り起こし、SDGsや地域循環共生圏など、今後の持続可能な地域づくりにつながる様々な主体の活動事例をとりまとめ、新たな協働･連携を創るための情報発信の一助とするため、事例調査を行った。

取 材 先：里山管理研究会(島根大学)、県立農林大学校、環境倶楽部しまえっこ(県立大学)、高尾学研究室(松江工業高等専門学校)、県立横田高校第二寮、県立出雲農林高等学校、インターアクトクラブ(学校法人永島学園出雲西高等学校)、県立江津工業高等学校、留学チーム(学校法人益田永島学園明誠高等学校)、大田市立高山小学校、益田市立吉田小学校

発 行 数：2,000部

概　　要：県内の児童･生徒･学生が地域で取り組むエコ活動を、島根県地球温暖化防止活動推進員とともに掘り起こして取りまとめ、脱炭素社会の実現に向けた身近な取組事例として県民へ周知した。

(8)地域の多様な主体との協働の推進

地域のニーズを踏まえた取組を促進するため、地域の多様な主体と協働･連携をすすめ、行政や環境団体とともに、活動の企画･運営･支援等を行った。

①石見地域におけるESD活動への参画

石見地域におけるESD(持続可能な開発のための教育)を普及し、地域における活動を広げるために、学校やボランティア、水族館、研究機関など多様な主体が連携し、沿岸地域における海の環境学習のESD化を目指すプログラム開発と実施に参画した。

期　　間：4月～2月

場　　所：浜田市立原井小学校周辺(浜田市原井町)

対　　象：原井小学校4～6年生

内　　容：「石見の海、私たちの海の持続性」をテーマとして、ESDプログラムを企画･実施するワーキングチーム「いわみっこ」を立ち上げ、浜田市立原井小学校の野外冒険クラブを対象に、継続的なESDプログラムの実施と検証を行った。

②安来市小学校社会見学でのプログラム実施

安来市教育委員会からの依頼により、安来市内の小学校を対象に行われるゴミ処理場とさんそ学習館の社会見学にあわせ、地球環境と地球温暖化について出前授業を実施した。

実 施 日：6月17日(月)　十神小学校　(30人)
6月18日(火)　安田小学校　(20人)
6月28日(金)　安田小学校　(20人)
7月2日(火)　赤江小1組　(22人)
7月4日(木)　十神小1組　(29人)
7月5日(金)　赤江小2組　(24人)　　( )内は参加人数。
場　　所：さんそ学習館(安来市)
対　　象：安来市内小学校4年生
参 加 者：145人

③第14回2019キャンドルナイトまつえ

環境省のライトダウンキャンペーンにあわせ、不要な電灯の消灯と家庭における省エネを呼びかける啓発キャンペーンを実施。「祝！令和と地球！」をモチーフとした地上絵に約2,000個のろうそくを並べ点灯した。また、来場者に自転車発電機体験やライトダウンの呼びかけ、家庭の省エネについて普及啓発した。

実 施 日：6月22日(土)
場　　所：松江城大手前広場
参 加 者：約2,000人
主　　催：キャンドルナイトまつえ実行委員会((公社)松江青年会議所、松江ツーリズム研究会、まつえ環境市民会議、松江市観光ボランティアガイドの会、まつえ市民環境大学村、お城とまちづくりを考える会、松江エネルギー研究会、エコサポしまね)

④環境NPO意見交換会

地域の環境課題解決に取り組む環境NPOと、地域の持続可能性や地球温暖化対策の推進にかかる各取り組みについて、17つのSDGs目標と照らし合わせながら意見交換を行った。

実 施 日：11月13日(水)
場　　所：出雲グリーンホテルモーリス
参 加 者：7団体
講　　演：井澤　友郭　氏(こども国連環境会議推進協会)

⑤中国四国ブロックセンター職員合同研修

中国四国ブロックの温暖化防止活動推進センターが合同で、今日まで行ってきた普及啓発の限界と問題点を再認識し、欧州の事例から新たな普及啓発の形について学んだ。特に、地域センターにおける普及啓発の現状と課題について認識し、新たな普及啓発のあり方について具体的なプログラムを検討するとともに、今後各センターが相互に連携して活動を展開していくための、共通基盤づくりについて検討した。

実 施 日：12月17日(火)
場　　所：男女共同参画推進センター　5階会議室(岡山市)
テ ー マ：これからの地域センターの役割について
講　　演：久保田　学　氏(公益財団法人北海道環境財団)
木原　浩貴　氏(京都府地球温暖化防止活動推進センター)
参 加 者：18人(中国四国ブロックの地域センター職員)

⑥おおだ自然エネルギーパーク2020

身近にできる防災対策と森林資源を活用した自然エネルギーの自給などをテーマとして、エネルギーの利用やライフスタイルの転換を考え、持続可能な地域づくりを普及啓発するためのイベント実施を予定していたが、新型コロナウイルスによる感染症対策のため、実施を取りやめた。当財団は、本事業の企画･立案、イベントの運営を支援した。(共催)

実施予定日：3月14日(土)
場　　所：道の駅ロード銀山(大田市)
主　　催：おおだ自然エネルギーパーク2020実行委員会
共　　催：大田市地球温暖化対策地域協議会、国立三瓶青少年交流の家、エコサポしまね
協　　力：大田市森林組合、大田市林友会
後　　援：大田市
事 務 局：おおだ未来づくり会議

⑦セミナー「SDGsミーティング･2030／大学生と考える未来」

県内の環境活動を担ってきたNPOと県内の大学生が連携し、SDGsなど共通の目標をよりどころとした新たな持続可能な地域づくりに協働で取り組むための基盤づくりとして、セミナーの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止とした。

実 施 日：3月21日(土)
場　　所：島根大学教育学部カンファレンスルーム
主　　催：島根大学教育学部環境寺子屋、エコサポしまね
共　　催：島根県
協　　力：EPOちゅうごく

(9)講師派遣

県内の学校や環境団体などを対象に、ニーズに応じたテーマを設定し、環境に関する講演会やワークショップなどを実施した。(実施状況は「Ⅵ.各種資料 4.資料(p.78)」参照)

(10)環境に係る展示や出展・教材の貸出

公共施設や各種イベントなど、多くの来場者が見込める場所において、地球環境問題や地球温暖化、暮らしのなかのエコ行動など様々な環境に関する展示や出展を行い、普及啓発を行った。

①イベントへの出展

地域における環境イベントに出展し、家庭の省エネや地球温暖化防止について、パンフレット配布やエコバッグづくりなど、省エネ診断等による啓発を行った。

実施日と場所：	9月8日(日)	やすぎ環境フェア(安来市)
	10月5日(土)～6日(日)	輝け11しまね町村フェスティバル(松江市)
	11月2日(土)	いずも産業未来博2019(出雲市)
	11月4日(月)	2019松江市環境フェスティバル(松江市)
	11月10日(日)	桜江いきいき祭り、桜江B&G海洋センター(江津市)
	1月19日(日)	第2回雲南市環境会議(雲南市)
	2月8日(土)	島根県職員文化祭(松江市)

②公共施設での展示

地球温暖化の現状解説及び地球温暖化防止活動を紹介したパネル等を、県内の公共施設に掲出した。また、エコドライブ等の身近な省エネ行動を紹介するリーフレットを会場内で配布した。

実施期間と場所：	6月5日(水)～27日(木)	雲南市役所本庁舎(雲南市)
	6月6日(木)～10日(月)	吉田交流センター(安来市)
	6月17日(月)～27日(木)	江津市役所ロビー(江津市)
	9月5日(木)～19日(木)	パレット江津(江津市)
	12月6日(金)～27日(金)	島根県立図書館(松江市)
	1月18日(土)～19日(日)	チェリヴァホール(雲南市)

③教材の貸出

県民のニーズに考慮した環境関連ライブラリーや環境学習機材の整備等を図るとともに、各種メディアやホームページ、環境イベントなどを利用し、年間を通じて県民に情報提供を行った。

・貸出図書の購入‥‥‥‥‥‥‥‥‥16冊
・パネル、機材の貸出 ‥‥‥‥‥‥13件

(11)環境保全活動支援事業

県内のボランティア団体や法人による環境保全･地球温暖化防止を目的とした主体的な取り組みを促すため、活動の開始または、継続に要する資金の一部を助成した。

①平成31年度の審査及び採択

平成31年度の一次審査は、前年度に募集･審査を実施したが、当初募集では応募団体が少なかったため、二次募集を行った。

助成内容：ボランティア団体、NPO法人等：事業費の2/3以内助成で、80万円限度
募集期間：平成30年9月18日(火)～11月16日(金)(一次募集)
　　平成31年3月1日(金)～5月10日(金)(二次募集)
広　　報：募集チラシ及び申請の手引きの配布(2,800部)
説 明 会：4月に6会場(松江､出雲､大田、浜田､益田、西郷)で助成金合同説明会を開催
審 査 会：平成31年2月19日(火)(一次募集)
　　令和元年6月13日(土)(二次募集)

	申請件数	申請事業費	申請助成額	交付決定件数	交付決定額
一次募集	5件	2,827千円	1,876千円	3件 (注1)	669千円 (注2)
二次募集	5件	1,746千円	1,129千円	3件	767千円
計	10 件	4,573千円	3,005千円	5件	1,186千円

(注1) 内1件は、団体の都合により取り下げ。
(注2) 交付を取り下げた団体分は含まない。

②令和2年度の審査及び採択

「令和2年度しまね環境保全活動助成金」の募集、審査、交付決定団体の内定を行った。

助成内容：ボランティア団体、NPO法人等：事業費の2/3以内助成で、80万円限度
募　　集：令和元年11月1日(金)～12月27日(金)
広　　報：募集チラシ及び申請の手引きを各市町村やNPO団体等、140か所に配布
説 明 会：令和元年10月に3会場(松江、浜田､西ノ島)において助成金合同説明会を開催
審 査 会：令和2年3月3日(火)

	申請件数	申請事業費	申請助成額	交付決定件数	交付決定額
計	5件	2,117千円	1,410千円	5件 (注1)	972千円 (注2)

(注1) 内1件は、事業実施にかかる許可申請において、許可を確認できるまで交付決定を保留。
(注2) 交付決定を保留している団体分は含まない。

Ⅳ. 北の原キャンプ場管理運営事業

本年度は、台風の接近により連休中にキャンプサイトを2日間(8月、9月に各1日)閉鎖したが、例年より長いゴールデンウィークに多くの利用があったため、過去最高の利用料金収入を達成することができた。施設別では、一般･集団サイトの利用件数が前年対比140.7%と最も伸びており、前年度利用が減少したケビンも前年対比115.0%と回復する結果となった。

また、本年度は大田市から指定管理者に指名されて2期目5年間の最終年度であり、引き続きケビンとテントサイト、ペット同伴バンガロー、ドッグランの管理運営を行った。県有施設時代からの運営で蓄積された経験を活かして安定した管理運営にあたるとともに、三瓶自然館の指定管理者としての利点を活かして、一体的な事業展開、PR活動を実施した。

基本理念である｢豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場を提供する｣を実現するために、国立公園三瓶山の豊かな自然環境と、その自然に囲まれた施設の魅力を最大限に引き出し、来場者が自然の中での生活～アウトドアライフ～を楽しめるような管理運営を心がけた。

来場者の安全･安心への配慮を欠かすことなく、キャンプ初心者から中級者向けのイベントや、キャンプ用品の貸出、食材の提供など、これまでに培ったノウハウを活かしながら、新たな魅力づくりにも心がけている。また、国立公園の中にあるキャンプ場として、中国地方屈指の規模を活かして、利用の拡大を図るとともに、三瓶山観光の拠点施設として、三瓶自然館とともに大田市の観光を牽引する役割を果たせるように努めた。

1. 利用促進業務

大田市、飯南町、美郷町で作る｢三瓶山広域ツーリズム振興協議会｣に参画し、特にアウトドアメーカー｢モンベル｣の店舗を活用したPRイベント｢三瓶フェア岡山｣について主体的に企画、運営し、キャンプ場の知名度向上を図った。

また、西部勤労者共済会、モンベル、スポーツ量販店等と提携した各種割引企画を継続し、新規顧客の開拓にも努めた。

主な広報活動の実施内容は次のとおり。

- 広島で開催された｢島根ふるさとフェア2020｣では、大田市内の社会教育施設等と連携し、パンフレット配布などのPRを実施した。2日間で17万人以上の来場者があり、広島という最大の市場で有効な広報活動を行った。
- 自社HP及び提携キャンプ関連HPに、ドッグランやイベントの紹介を掲載。
- ツイッターに加え、新たにフェイスブック、インスタグラムの運用を開始し、最新の三瓶山とキャンプ場の情報を発信。
- 山陰中央新報｢りびえ～る｣｢あ･るっく｣への広告掲載。
- 県内･広島県のスポーツ用品店のキャンプ用品コーナーに、パンフレットを配布。松江市･出雲市は7店舗に継続配布。広島県は3店舗に継続配布。
- 大田市民を対象とした無料モニターを実施した。市のホームページやチラシ配布、有線放送により周知を図り、施設の認知度向上に繋がった。
- 出雲市の事業者が開催するキャンプイベントに会場提供という形で協力し、2日間で県内外から約380人の来場があった。

２．管理体制

利用者が快適なアウトドアライフを過ごせるよう、繁忙期や閑散期の状況に応じて、効率的なスタッフの人員配置を行った。

通常期は臨時職員を含めて6名の体制により、利用者の応対、施設･設備の安全点検及び環境美化等に万全を期している。また、場内の除草作業には専門のスタッフ6名を配置し、雑草により景観を損ねないよう配慮した。

利用者が増加する繁忙期はさらに3～5名程度の臨時アルバイトを雇用し、宿泊施設の清掃、場内トイレ･シャワー棟の清掃、大量に排出されるゴミの処理等に当らせ、衛生管理を徹底した。

一方、利用者が激減する冬期は正規職員4名で対応することにより、人件費の節減を図った。

３．施設維持管理

昭和44年に開場した当キャンプ場では、施設･設備の老朽化、経年劣化に伴う故障や不具合が多発している。大田市と協議を重ね修繕計画に沿った修繕作業を実施しているが、予期せぬ箇所の故障が続発するなど、修繕が追いつかない状況にある。当面の間、この状況が続くがことが予想されるため、早急な課題となっている。

本年度においても多数の故障及び不具合が発生したが、利用者の快適で安全な利用を第一に、必要最低限の修繕を実施した。

主な修繕個所と修繕内容は次のとおり。

・第3シャワー棟の漏電…第2キュービクル内に避雷盤設置
・第3シャワー棟コインセレクター動作不良…部品交換
・場内放送機器の故障…部品交換
・屋外照明機器の絶縁不良…機器更新
・ケビン11･12号棟の手摺破損…部材交換、塗装

４．自主事業

(1)イベントの実施

□石窯ピザ作り体験

実施日：5月29日(水)
参加者：8人
内　容：大森町のベーカリー「ベッカライ･コンディトライ･ヒダカ」の店主を講師として招き、季節の食材を使った石窯ピザ作りに挑戦した。

□みんなでキャンプクッキング

実施日：6月2日(日)
参加者：4組13人
内　容：キャンプ初心者を対象とした野外調理講習。ダッチオーブンを使ってパンやパエリアなどを調理した。調理のほか、調理器具の紹介や手入れ方法なども講習した。

□天の川キャンプ

期　間：9月28日(土)
利用者：73人
内　容：大型スクリーンを第1ファイヤー場に設置し、映画「銀河鉄道の夜」を上映した。上映後は自然館天文学芸員による星空観察講座を行い、キャンプの楽しみ方の一つとして紹介した。

□BouncePark＋蜂蜜バスソルト･保湿クリーム作り体験

期　間：10月19日(土)

利用者：8人

内　容：「健康」をテーマに、インストラクターによるバランスボール運動と養蜂家による美容品作りの体験プログラムを実施。屋外で開催予定であったが、終日の雨天により多目的ホールで実施した。

(2)利便提供事業

キャンプ場宿泊者の利便性向上のため、食品の販売や、キャンプ用具の貸し出しを行った。

５．その他の事業

(1)大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業

セントラルロッジ内に観光情報コーナーを設置し、大田市観光MAPを掲示し、キャンプ場宿泊者の観光案内を積極的に行った。登山者への登山ルートの案内をはじめ、温泉津温泉や石見銀山、三瓶小豆原埋没林など主要観光地へのルート案内、食事どころや大田市の見どころ紹介などを行った。また、大田市により観光情報提供を目的としたデジタルサイネージがセントラルロッジ内に新設された。

(2)三瓶広域ツーリズム振興協議会への参画

大田市、美郷町、飯南町1市2町および関係団体で構成される協議会に参画し、モンベル岡山店で開催された「三瓶フェア」において、キャンプを含む三瓶山エリアでのアウトドアをPRした。

Ⅴ．利便提供事業

１．物販事業

(1)三瓶自然館

「ミュージアムショップひめのが」では、自然科学に関するものや三瓶山来訪の記念となる商品のほか、館のキャラクター「テンピー」のオリジナル商品などを販売し、当館らしい商品展開を行った。

また、企画展開催期間にはそのテーマに合う商品を特集し、展示と連動した売上げ拡大を図った。

(2)三瓶小豆原埋没林公園

受付周辺に物販棚を設置し、埋もれ木の派生材(発掘時に出土した倒木等)を利用した独自商品や近隣の製菓子店との共同開発商品、木工品、鉱物等の販売を行った。

(3)三瓶山北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場の「キャンパーズショップ北の原」では、宿泊者の利便向上を目的に、キャンプに関連する商品と食料品を販売した。また、夏期はバーベキュー、冬期は鴨鍋の食材セットを販売することで、手軽にキャンプができるイメージによる施設利用の促進を図った。

２．貸出事業

北の原キャンプ場において、テントや毛布、炊事用品等のキャンプ用品の貸し出しを行った。用品の貸し出しは、売上による収入のほか、利用者が用品を準備する負担が軽減されることによる利用拡大が期待される事業である。

キャンプ用品のほか、夏期はノルディックポール、冬期は歩くスキーとスノーシューの貸し出しを行った。

３．その他

経理事務の効率化、事業会計の健全化を目指し、北の原キャンプ場で実施する利便提供事業について、キャンプ場事業会計への統合を検討していたが、行政側の認識と乖離が生じるため断念した。次期指定管理更改時(令和6年度)までには行政と共通の認識が持てるよう働きかけたい。

Ⅵ. 各 種 資 料

１．数値目標を掲げた運営

（１）入館者目標、収入目標の設定

各施設毎に利用者数目標又は利用料金収入目標を設定し、運営を行っている。

三瓶自然館では、観光リフト故障や主要宿泊施設の工事休業が重なり、三瓶全体の入り込みの減少と繁忙期の台風接近に影響され、入館者数は目標を下回った。春と夏の企画展では、身近なテーマである生きものの旅や月を取り上げることで、人々が自然に興味を持つ良い契機のひとつとなり、内容的には好評を得た。

埋没林公園は、厳しい状況のなか、前年を超える入園者があり、地道なPRや日本遺産への取り組みが効果を上げてきている。

北の原キャンプ場は、春の大型連休の効果により、過去最高レベルの利用実績を上げた。現指定管理期間において5年連続目標を達成し、好調を維持している。

（２）全施設の目標値と達成状況

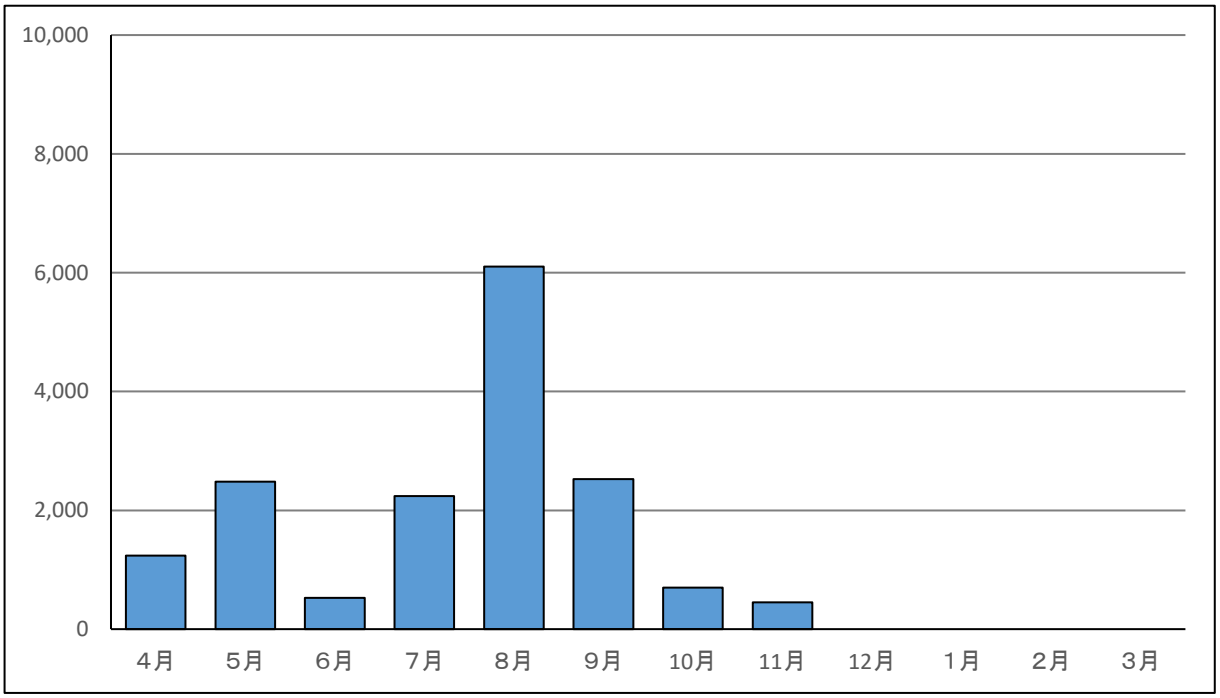
令和元年度　施設別月別目標達成率一覧表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
三瓶自然館（天体含む）入館者数（人）	R1目標	6,000	15,000	4,000	16,000	32,000	15,000	10,000	2,000	0	0	0	0	100,000
	R1実績	6,779	16,556	4,632	11,045	22,033	10,357	7,839	3,962	0	0	0	0	83,203
	達成率	113.0%	110.4%	115.8%	69.0%	68.9%	69.0%	78.4%	198.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	83.2%
天体観察会入館者数（人）	R1目標	600	1,300	300	1,400	2,200	1,000	600	100	0	0	0	0	7,500
	R1実績	360	1,172	371	870	1,720	744	282	285	0	0	0	0	5,804
	達成率	60.0%	90.2%	123.7%	62.1%	78.2%	74.4%	47.0%	285.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	77.4%
埋没林公園入園者数(人)	R1目標	1,300	2,400	1,300	2,000	2,900	1,600	1,600	2,100	400	400	400	600	17,000
	R1実績	1,691	2,990	1,290	1,413	2,805	1,843	1,795	2,190	217	332	372	756	17,694
	達成率	130.1%	124.6%	99.2%	70.7%	96.7%	115.2%	112.2%	104.3%	54.3%	83.0%	93.0%	126.0%	104.1%
キャンプ場利用料金（千円）	R1目標	1,332	2,760	600	2,400	5,700	2,400	1,100	800	200	200	200	200	17,892
	R1実績	2,632	3,601	857	1,996	6,364	2,152	1,480	2,303	107	82	154	319	22,047
	達成率	197.6%	130.5%	142.8%	83.2%	111.6%	89.7%	134.5%	287.9%	53.5%	41.0%	77.0%	159.5%	123.2%
物販・貸出売り上げ（千円）	R1目標	950	2,550	710	2,600	5,900	2,300	1,240	700	140	180	180	150	17,600
	R1実績	1,450	2,983	690	1,774	4,928	1,961	1,461	1,097	103	110	149	209	16,915
	達成率	152.6%	117.0%	97.2%	68.2%	83.5%	85.3%	117.8%	156.7%	73.6%	61.1%	82.8%	139.3%	96.1%

（３）収入実績

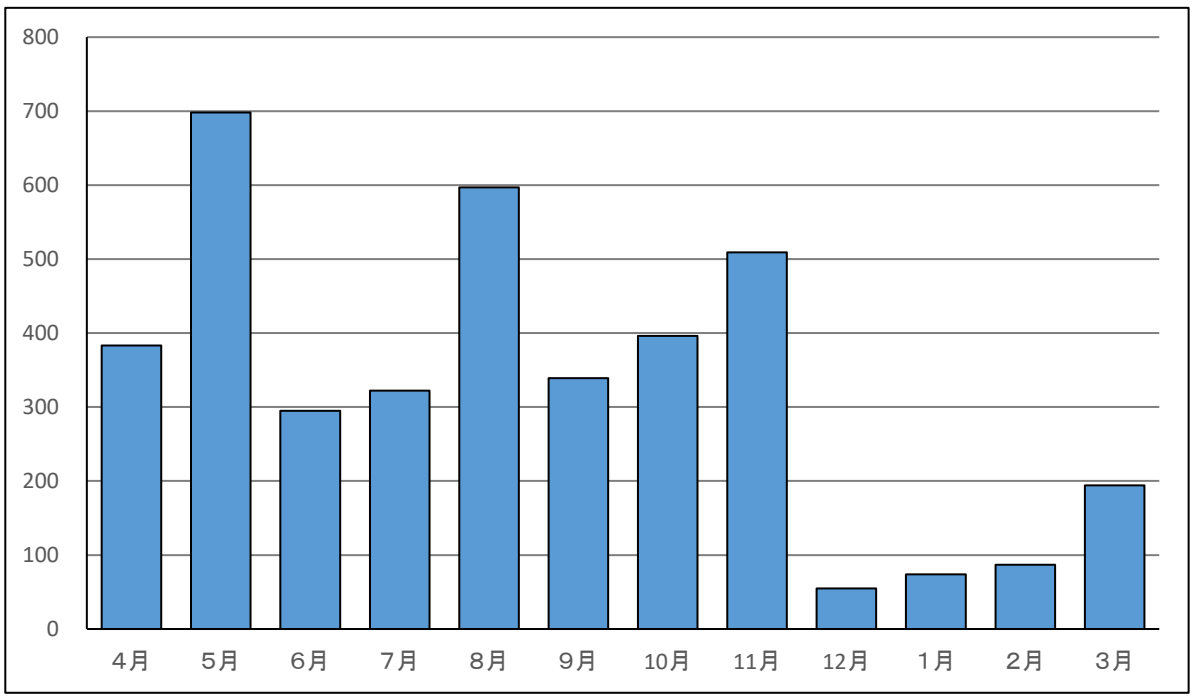
口三瓶自然館収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,240	2,484	528	2,239	6,101	2,527	701	452	0	0	0	0	16,272



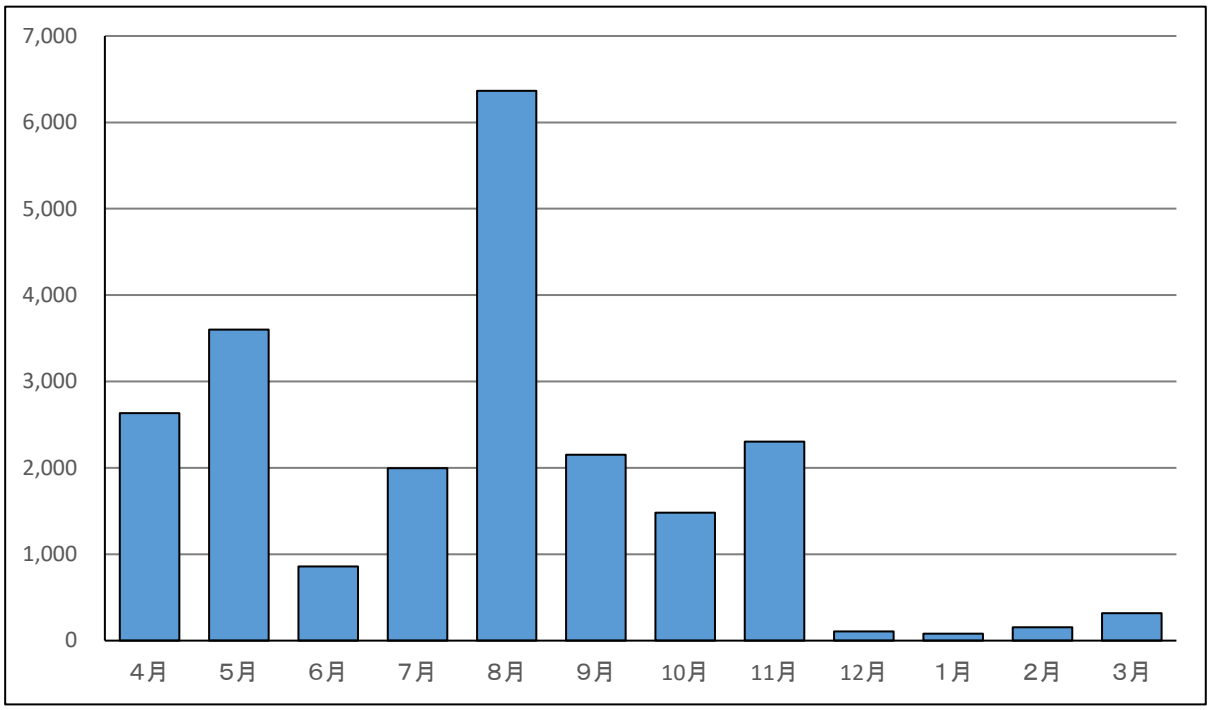
口埋没林公園収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	383	698	295	322	597	339	396	509	55	74	87	194	3,949



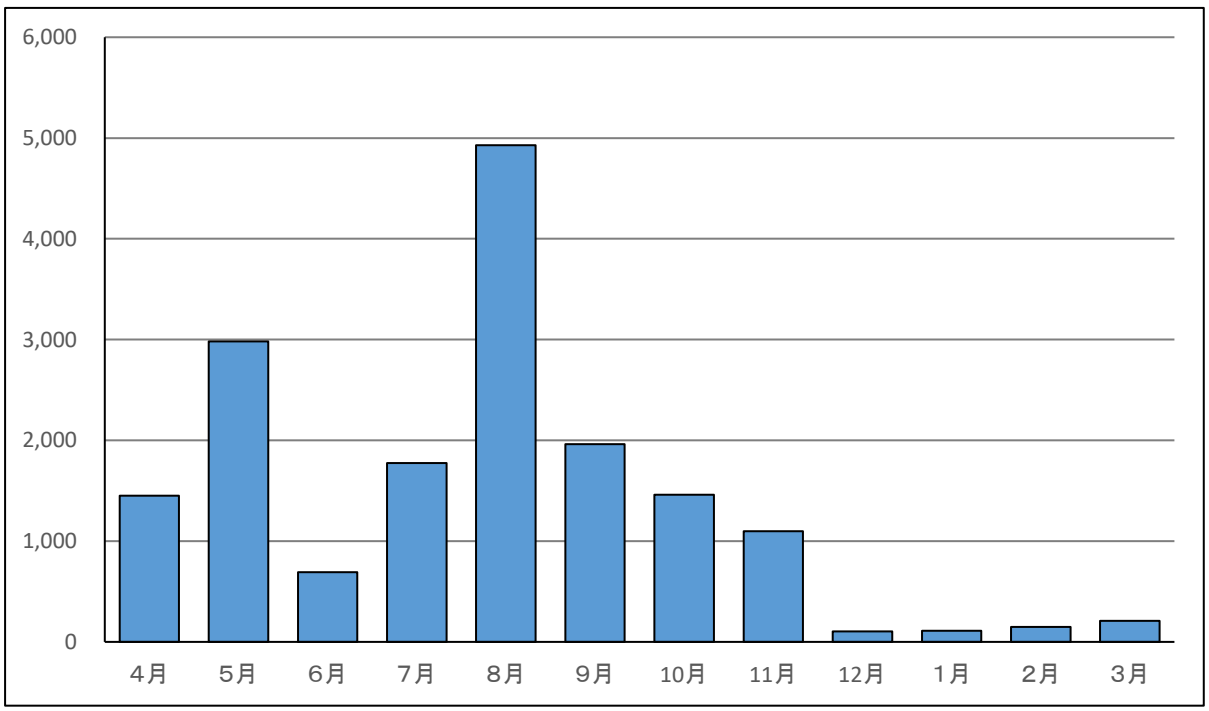
□北の原キャンプ場収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	2,632	3,601	857	1,996	6,364	2,152	1,480	2,303	107	82	154	319	22,047



□利便提供事業収入状況

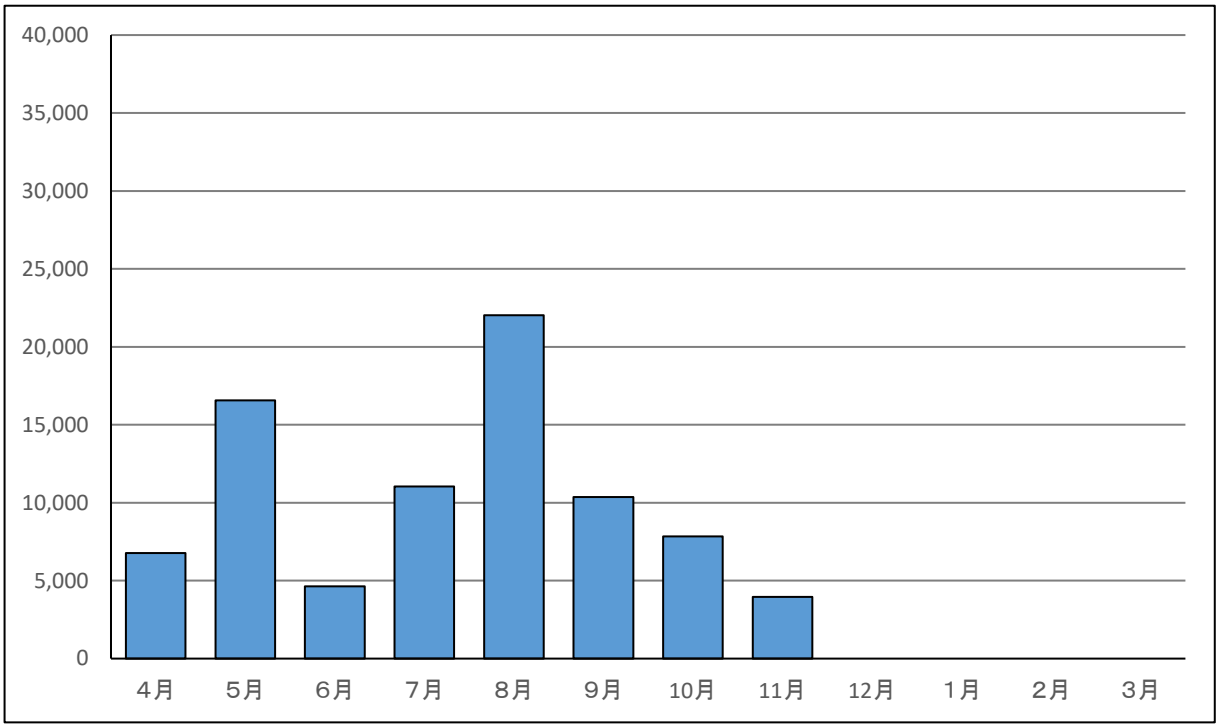
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,450	2,983	690	1,774	4,928	1,961	1,461	1,097	103	110	149	209	16,915



（４）利用者数

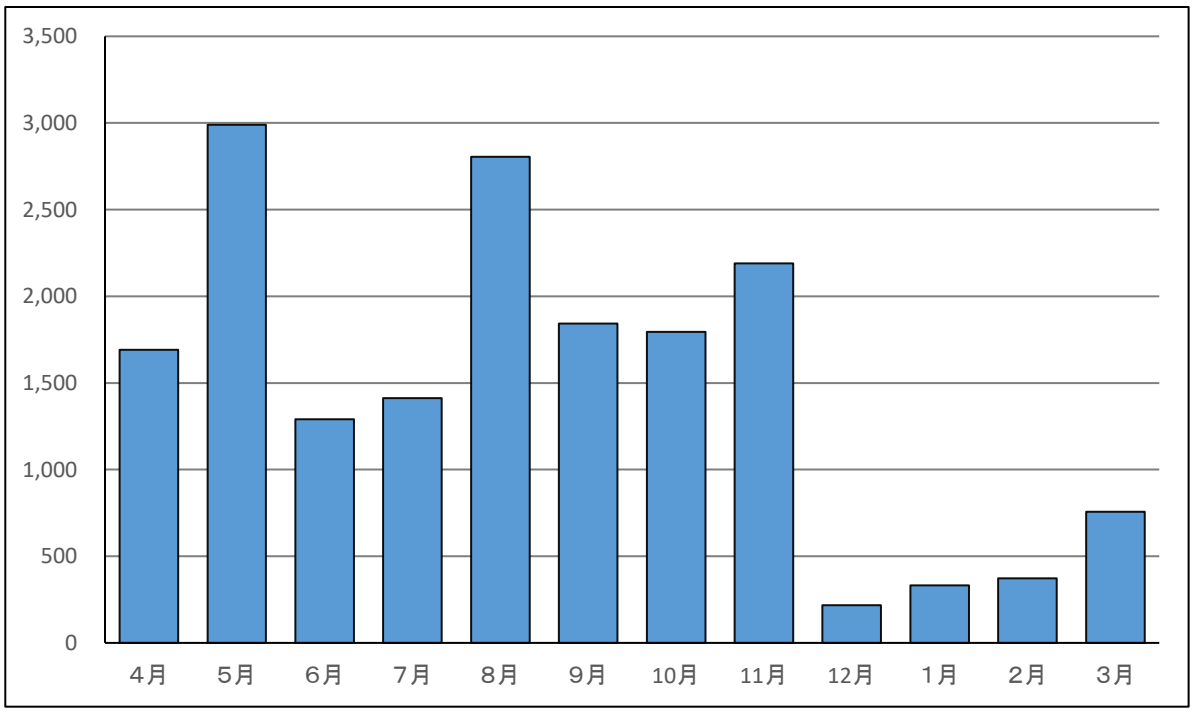
□三瓶自然館利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	6,779	16,556	4,632	11,045	22,033	10,357	7,839	3,962	0	0	0	0	83,203



□埋没林公園利用状況

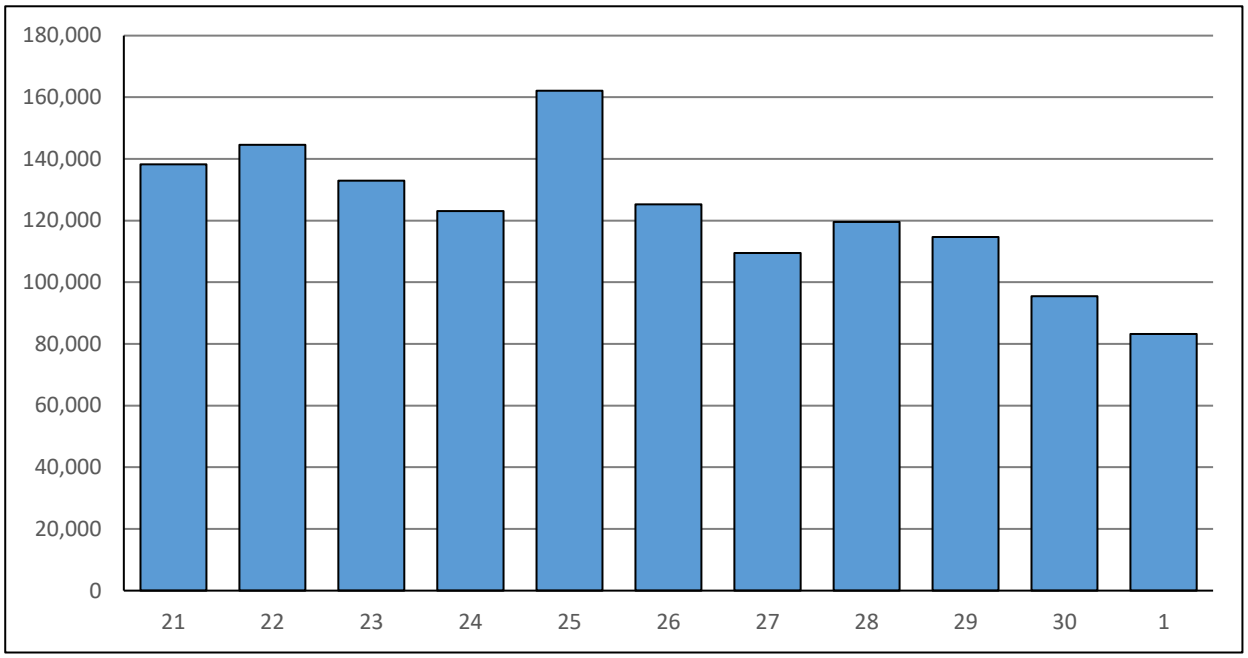
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	1,691	2,990	1,290	1,413	2,805	1,843	1,795	2,190	217	332	372	756	17,694



２．利用者数の推移

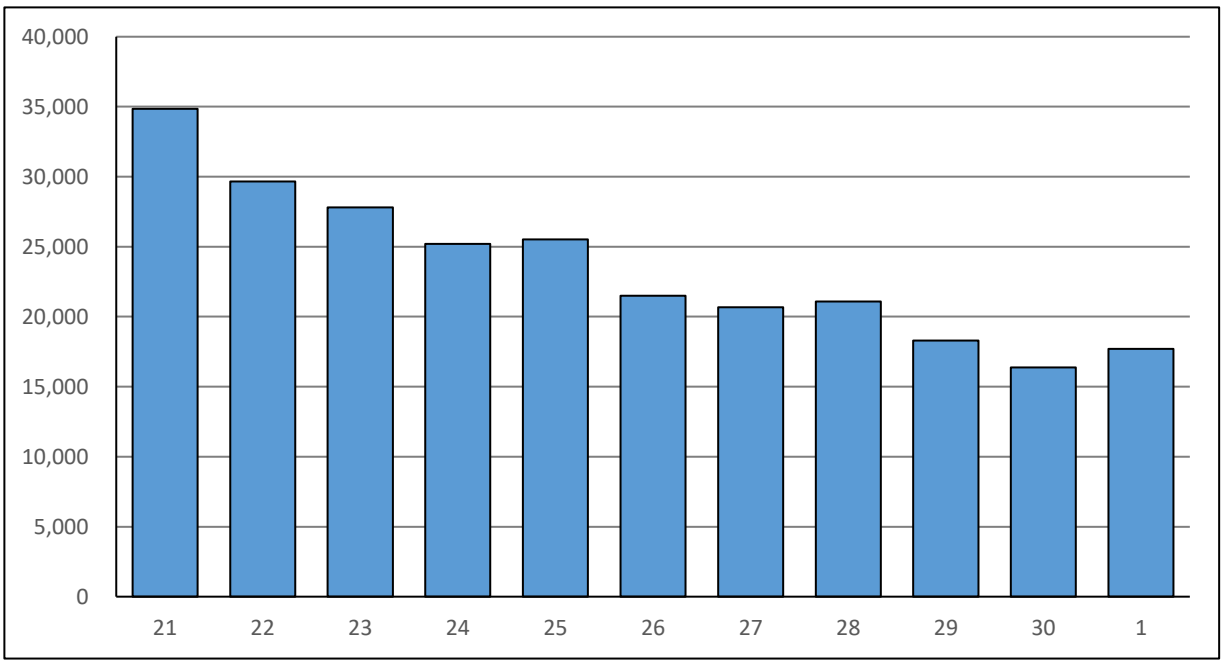
□三瓶自然館

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1
総入館者(人)	138,231	144,629	132,991	123,093	162,099	125,225	109,478	119,571	114,717	95,520	83,203



□三瓶小豆原埋没林公園

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1
総入館者(人)	34,846	29,669	27,807	25,206	25,527	21,505	20,681	21,075	18,292	16,366	17,694



3．沿　革

昭和63年度　「三瓶フィールドミュージアム構想」が、先導事業開発構想推進会議で「リフレッシュリゾートしまね構想事業」として決定。同じく、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」として決定。

平成元年度　「三瓶フィールドミュージアム整備事業」開始。
三瓶自然館（以下「自然館」）中心とする三瓶フィールドミュージアムの基本・実施設計の作成。

平成２年度　自然館及び附属施設、着工。

平成３年度　財団法人三瓶フィールドミュージアム財団設立（7月1日、以下「財団」）。
自然館完成、全国育樹祭にともない皇太子殿下御来館。
自然館オープン（10月19日）。

平成４年度　財団、新たに「三瓶山北の原キャンプ場（以下「キャンプ場」）」の管理運営を受託。

平成５年度　三瓶フィールドミュージアム整備終了。
三瓶フィールドミュージアムが「三瓶山自然体験ゾーン」として島根県の長期計画（1994～2010年）の戦略プロジェクトに位置づけられる。

平成７年度　島根県、「三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会」を設置。

平成８年度　三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会、自然館の機能強化を求める報告書を提出。
キャンプ場、過去最高の年間5万4千人の利用者を記録。

平成９年度　自然館名誉館長として俳優の柳生博氏を起用、委嘱（平成15年度まで）。
常陸宮殿下、妃殿下御来館。

平成10年度　三瓶町多根小豆原で、約3,500年前に埋没したスギ林の存在を確認。調査方法及び保存方法の検討を開始。

平成11年度　島根県、「三瓶埋没林調査保存検討委員会」を設置。あわせて埋没スギの自然館での展示を検討。

平成12年度　三瓶山自然体験ゾーン拡充整備事業、整備着工。
キャンプ場新管理棟（セントラルロッジ）、完成。
三瓶埋没林調査保存検討委員会、埋没林の保存を求める報告書を提出。

平成13年度　島根県知事、小豆原埋没林の保存方針を発表。
自然館拡充工事開始。工事進捗にともない11月末をもって自然館閉館。

平成14年度　自然館拡充工事完了。「三瓶自然館サヒメル」として再オープン（4月18日）。
自然館、通算100万人の来館者を達成。
秋篠宮殿下、妃殿下御来館。
小豆原埋没林現地の公園化整備開始。
自然館、過去最高の年間22万人の来館者を記録。

平成15年度　キャンプ場へ利用料金制導入。
新たに「三瓶小豆原埋没林公園」の管理運営を受託。
「三瓶小豆原埋没林公園（以下「埋没林公園」）」オープン（5月2日）。
自然館、日本博物館協会に加盟。

平成16年度　「三瓶小豆原埋没林」国の天然記念物指定（2月27日）。
新たに「ふれあいの里奥出雲公園（以下「ふれあいの里」）」の管理運営を受託。
埋没林公園来園者10万人達成。

平成17年度　指定管理者制度が導入され、財団が自然館及び附属施設の指定管理者となる（平成17年度～平成21年度）。

平成18年度　7月豪雨によりふれあいの里が被災し、臨時休園となる。
自然館開館15周年（10月19日）。

平成19年度　高円宮妃殿下、自然館及びふれあいの里御来訪（4月30日）。

平成20年度　旧島根ふれあい環境財団21の事業及び財産を継承（4月1日）。
松江事務所開設。環境保全活動への助成、地球温暖化を含む環境問題の啓発等の事業を開始（4月1日）。
埋没林公園入園者30万人達成（4月12日）。
法人名称を「財団法人しまね自然と環境財団」に改称（7月1日）。
高円宮妃殿下御来館（1月22日）。

平成21年度　自然館、通算200万人の来館者を達成（7月12日）。
ふれあいの里、営業終了（12月。3月をもって正式閉鎖）。
自然館、プラネタリウム設備更新のためビジュアルドームの運営を休止（12月～3月）。3月末から新型プラネタリウムの運営開始。
キャンプ場、大田市へ移譲譲渡（3月）。

平成22年度　島根県から2期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける。また、大田市施設となったキャンプ場の指定管理者として、大田市から指名を受ける(いずれも平成22年度～平成26年度)。

平成23年度　財団、公益財団法人へ移行(4月1日)。これに伴い法人名称を「公益財団法人しまね自然と環境財団」に改称。

自然館、開館20周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。

財団、自然館運営の検討機関として「三瓶自然館運営委員会」を設置(8月1日)。

平成24年度　神々の国しまねプロジェクトへの協力として、三瓶自然館の小中高校生入館料を無料化(平成26年9月まで)。

〝三瓶山〟国立公園指定50周年記念事業実行委員会(会長:大田市長)が設置され、財団が事務局を務め、一年を通じて関連イベントを開催。

平成25年度　埋没林公園、開園10周年。記念式典(4月27日)ほか、関連イベントを一年を通じて開催。

特別企画展「さんべ恐竜王国(7月13日～9月29日)」を開催。現在の企画展期間(2ヶ月半)としては過去最高となる99,203人の来館者を達成。

財団研究員が隠岐で巨大ワニの化石を発見。

平成26年度　大田市からキャンプ場指定管理者として指名を受ける(平成27年度～平成31年度)。

島根県から3期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける(平成27年度～平成34年度(令和4年度))。

平成27年度　自然館、大型ドーム映画設備更新のため、ビジュアルドームの運営を休止(2月～3月)。3月末から新映画設備の運営開始。

平成28年度　自然館、大型ドーム映画リニューアル式典(4月21日)。

自然館、開館25周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。

自然館、入館者累計300万人を達成(11月5日)。

平成29年度　第71回全国植樹祭(令和2年)が三瓶山北の原で開催されることが決定(11月15日、島根県・(公社)国土緑化推進機構)。

平成30年度　4月9日未明、大田市を震源とする島根県西部地震(M6.1、震度5強)が発生し、自然館、キャンプ場施設で多数の被害があった。自然館では開設以来初めて、災害による臨時休館(4月9日)をし、復旧にあたった。

大田市からキャンプ場の次期指定管理者として更新指名を受ける(令和2年度～令和6年度)。

令和元年度　自然館、ビジターセンター機能強化工事(7月～3月)。

自然館、展示改修工事のため休館(11月～3月)。

埋没林公園、ガイダンス棟建設工事(10月～3月)。

4．資　料

□テーマ解説実施状況((2)館内案内･テーマ解説(p.6)関係)

月	日	団　　体　　名	人　数
5	18	島根大学生物資源科学部	46
6	27	大田市立大田小学校特別支援学級	7
7	3	大田市立静間、五十猛、鳥井、朝波小学校(四校連合)	46
7	3	安芸高田市立高宮、美土里小学校連合	62
7	25	わんぱく教室(都賀行交流センター)	17
7	28	広島市立日浦小学校	47
8	8	広島県立広島国泰寺高校	20
8	30	英数学館小学校	22
9	19	美郷町立邑智中学校	31
9	25	大田市立北三瓶小学校	4
10	10	大田市立久手小学校	46
11	6	安芸高田市立向原小学校	20
合　計		12件	368

□新聞寄稿状況（(7)新聞への寄稿(p. 16)関係）

掲載日	掲　載　誌	タ　イ　ト　ル	執　筆　者
4/3	山陰中央新報	しし座	竹 内 幹 藏
4/3	島根日日新聞	使える写真がない!?	星野由美子
4/14	讀賣新聞	南国の花 隠岐で咲く	井 上 雅 仁
4/17	山陰中央新報	月が出る夜、出ない夜	竹 内 幹 藏
4/17	島根日日新聞	今年もやりますタンポポ調査	井 上 雅 仁
5/1	山陰中央新報	からす座	竹 内 幹 藏
5/1	島根日日新聞	天体望遠鏡とスマートフォンで月を撮ってみよう	矢 田 猛 士
5/12	讀賣新聞	旅する生き物 命懸け	星野由美子
5/15	山陰中央新報	「令月って どんな月」	竹 内 幹 藏
5/15	島根日日新聞	今年の発生数は?	皆 木 宏 明
5/29	山陰中央新報	春の大三角	竹 内 幹 藏
5/29	島根日日新聞	松ぼっくりのエビフライ	安 藤 誠 也
6/9	讀賣新聞	木星模様や衛星 観察好機	矢 田 猛 士
6/12	山陰中央新報	木星を見よう	竹 内 幹 藏
6/12	島根日日新聞	太陽から時を知る	太 田 哲 朗
6/26	山陰中央新報	ヘルクレス座を探そう	竹 内 幹 藏
6/26	島根日日新聞	実験で学ぶ地質現象	遠 藤 大 介
7/10	山陰中央新報	月を大きく撮ろう	竹 内 幹 藏
7/10	島根日日新聞	巣立ちの季節	星野由美子
7/14	讀賣新聞	抜け殻 小さく泥んこ	皆 木 宏 明
7/24	山陰中央新報	木星、土星と天の川	竹 内 幹 藏
7/24	島根日日新聞	薄暮れにひらく待宵草	井 上 雅 仁
8/7	山陰中央新報	月の石	竹 内 幹 藏
8/7	島根日日新聞	夏の企画展「今こそ知りたい月のなぞ」開催中	矢 田 猛 士
8/21	山陰中央新報	干潟星雲	竹 内 幹 藏
8/21	島根日日新聞	ムネアカオオアリ	皆 木 宏 明
8/25	讀賣新聞	スマホ撮影「月」身近に	太 田 哲 朗
9/4	山陰中央新報	月の海と高地	竹 内 幹 藏
9/4	島根日日新聞	自然観察力を磨こう!	安 藤 誠 也
9/15	讀賣新聞	NASA の月の石 展示中	遠 藤 大 介
9/18	山陰中央新報	落ちるワシ、飛ぶワシ	竹 内 幹 藏
9/18	島根日日新聞	広くそして深く	太 田 哲 朗
10/2	山陰中央新報	星空観察七つ道具	竹 内 幹 藏
10/2	島根日日新聞	三瓶サイエンスセミナー	遠 藤 大 介
10/13	讀賣新聞	コウモリの冬眠を追う	安 藤 誠 也
10/16	山陰中央新報	みなみのうお座とみずがめ座	竹 内 幹 藏
10/16	島根日日新聞	「この鳥、なんですか?」写真判定の難	星野由美子
10/30	山陰中央新報	変光星ミラ	竹 内 幹 藏
10/30	島根日日新聞	カエデとモミジ	井 上 雅 仁
11/10	讀賣新聞	直径5ミリ少ない 果実部分	井 上 雅 仁
11/13	山陰中央新報	エチオピア王家物語	竹 内 幹 藏
11/13	島根日日新聞	星の動き	矢 田 猛 士

11/27	山陰中央新報	すばる	竹 内 幹 藏
11/27	島根日日新聞	カツオブシムシ	皆 木 宏 明
12/8	讀賣新聞	耳を澄ませば 鳥の声	星野由美子
12/11	山陰中央新報	月とオリオン座	竹 内 幹 藏
12/11	島根日日新聞	骨学の世界へようこそ	安 藤 誠 也
12/25	山陰中央新報	部分日食を見よう	竹 内 幹 藏
1/8	山陰中央新報	月の首振り運動	竹 内 幹 藏
1/8	島根日日新聞	三瓶自然館研究報告	遠 藤 大 介
1/12	讀賣新聞	赤色超巨星 明るさ変化	矢 田 猛 士
1/22	山陰中央新報	暗くなったベテルギウス	竹 内 幹 藏
1/22	島根日日新聞	水鳥調査のヒミツ	星野由美子
2/5	山陰中央新報	水星が見ごろ	竹 内 幹 藏
2/5	島根日日新聞	ネズミにちなんだ草木たち	井 上 雅 仁
2/9	讀賣新聞	お見事 枯れ葉の衣	皆 木 宏 明
2/19	山陰中央新報	カストルとポルックス	竹 内 幹 藏
2/19	島根日日新聞	月面のX字形	矢 田 猛 士
3/4	山陰中央新報	明け方の火星、木星、土星	竹 内 幹 藏
3/4	島根日日新聞	チャコウラナメクジ	皆 木 宏 明
3/8	讀賣新聞	大きいレンズ径 天体観察	太 田 哲 朗
3/18	山陰中央新報	北斗七星と北極星	竹 内 幹 藏
3/18	島根日日新聞	都会で暮らすコウモリのねぐら	安 藤 誠 也

□予約天体観察会実施状況（(9)予約天体観察会(p. 17)関係）

月	日	団　　体　　名	人数
4	18	広島文教女子大学附属高等学校	123
5	22	広島市立城南中学校	251
	23	浜田市立金城中学校	40
	29	大田市連合小学校1班	45
	29	広島市立高陽中学校	120
6	12	広島インターナショナルスクール	71
	12	大田市立池田小学校	22
	14	邑智小学校6年生親子活動	95
	27	三次市立三次小学校	63
	27	島根県立浜田養護学校高等部	16
7	3	大田市第2班4校連合小学校	46
	3	高宮・美土里連合小学校	62
	7	広島市立鈴張小学校	26
	11	出雲市立高浜幼稚園	19
	18	広島市立千田小学校	118
	24	広島市立安北小学校	115
	25	広島市立久地南小学校	34
	25	広島市立大林小学校	34
	26	キッズ内中原	43
	28	山村留学センター	26
	28	庄原市立総領小学校	14
	31	府中市立上下北小学校	38
8	1	庄原市立口和連合小学校	21
	1	飯南ワイルドボアーズ	24
	7	広島県立広島国泰寺高校	87
	7	府中市立南小学校	24
	8	山本あきひこのピアノ教室	25
	8	庄原市立峰田小学校	23
	21	庄原市立比和小学校・高野小学校	30
	21	個人グループ	7
	22	庄原市立永末小学校	18
	23	たちばな保育園	45
	28	広島市立古田台小学校	29
	29	庄原市立山内小学校	11
9	4	安芸高田市立愛郷小学校	34
	5	広島市立本川小学校	83
	11	大田高校三瓶サイエンスセミナー	33
	18	安芸高田市立吉田小学校	56
9	19	浜田市立三隅中学校	45
	19	スマイルキャンプ	35
	25	広島製菓専門学校	42
	25	専門学校福祉リソースカレッジ広島	18
	26	大田市立志学小学校	24
	29	個人グループ(撮影利用)	10
10	9	大田市立久手小学校	46
	16	大田市立高山小・大森小学校	22
	16	大田市立大田小学校	94
	31	安芸高田市立八千代小学校	23
11	1	美郷町立邑智小学校3年生親子活動	70
	6	安芸高田市立向原小学校	21
	7	島根県立浜田高校定時制	39
		51件	2,460

□予約自然観察会実施状況（(10)予約自然観察会(p.18)関係）

月	日	団　　体　　名	人数
4	17	大田市立北三瓶小学校	9
5	20	大田市立大田小学校	26
	22	大田市立大田小学校	26
	24	大田市立大田幼稚園	73
6	8	島根県立浜田高等学校	6
	10	大田市立大田小学校	25
	21	邑南町立石見東小学校	27
	26	きずなの会	10
7	23	安田学園安田小学校	9
	25	久手なかよしキッズクラブ	48
	31	庄原市立総領小学校	12
8	8	広島県立広島国泰寺高校（自然観察）	87
	8	広島県立広島国泰寺高校（地層学習）	19
	9	いそたけ保育園学童保育	48
	30	英数学館小学校（昆虫をしらべよう）	27
	30	英数学館小学校（ｱﾆﾏﾙﾄﾗｯｷﾝｸﾞ）	27
	30	英数学館小学校（三瓶の昆虫）	22
	30	英数学館小学校（地層学習）	16
9	11	雲南市立鍋山小学校	21
	13	大田市立北三瓶小学校	4
	18	大田市立北三瓶小学校	6
	19	安芸高田市立吉田小学校	57
	20	江津市立桜江小学校	38
	22	樹木医17期会	34
	25	大田市立北三瓶小学校	4
	25	川本町立川本小学校	18
	26	大田市立久屋小学校	14
	27	大田小学校特別支援学級	13
	27	江津市立津宮小学校	47
10	7	大田市立北三瓶小学校	4
	9	大田市立高山小学校	16
	10	美郷町立邑智小学校	26
	10	出雲市立大社小学校	47
	11	大田市立五十猛小学校	50
	16	大田市立北三瓶小学校	5
	18	出雲市立須佐小学校	12
	18	雲南市立掛合小学校	2
	21	大田市立長久小学校	40
	21	江津市立川波小学校（地層学習）	19
	21	江津市立川波小学校（ｱﾆﾏﾙﾄﾗｯｷﾝｸﾞ）	8
10	24	邑南町立瑞穂小学校	22
	28	大田市立久屋小学校	9
	30	雲南市立掛合小学校	26
11	1	大田市立久屋小学校	9
	3	出雲南ロータリークラブ	175
	6	安芸高田市立向原小学校	20
	7	大田市立静間小学校	12
	8	大田市立仁摩小学校	24
合計		48件	1,299

□講師派遣実施状況（(11)講師派遣(p.18)関係）

月	日	団体名	場所	内容	講師	人数
4	13	美郷町観光協会	美郷町潮地区	ウオーキングでの山野草観察	井上	15
	14	大代高山会	大江高山	自然観察登山の講師	井上	20
	16	キリスト教愛真高等学校	キリスト教愛真高等学校	植物の自然観察会	安藤 松原	13
	20	熊谷家住宅	熊谷家住宅	石見銀山の植物についての講話	井上	20
5	8	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリ学習での講話	星野	300
	12	島根県地学会	三瓶山	三瓶山周辺の地形観察	遠藤	18
	16	島根県立大学	島根県立大学出雲サテライトキャンパス	いずも健康市民大学における講話	中村	20
	19	長久文化協会	国立三瓶青少年交流の家	三瓶山の動物についての講話	安藤	30
	24	湯里まちづくりセンター	湯里まちづくりセンター	花についての講話	井上	48
	25	邑南町立出羽公民館	邑南町弥山	春の自然観察会の講師	松原	15
	26	津和野中央公民館	津和野町地倉沼	チョウジソウ観察会	井上	50
	29	美郷町立大和中学校	浜田市国府町畳ヶ浦	地層学習の講師	遠藤	16
	30	大田市立北三瓶中学校	大田市三瓶町姫逃池	カキツバタ愛護活動での講話	井上	20
6	12	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	理科読での天文の講話	矢田	94
	13	大田市立静間小学校	大田市立静間小学校	理科読での天文の講話	矢田	73
	19	まつえ市民大学	松江市民活動センター	三瓶山に関する講話	中村	50
	19	浄賢寺	浄賢寺	コウノトリの生態についての講話	星野	20
	20	島根県県央土整備事務所	大田集合庁舎	三瓶山周辺の自然植生と特定外来植物の講話	井上	27
	28	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリ学習での講話	星野	40
	28	大田市立第二中学校	大田市立第二中学校	職場体験に向けての礼法の指導	大草	74
	28	浜田市立雲城公民館	浜田市立雲城公民館･トンボ公園	ハッチョウトンボ観察会での指導	皆木	150
7	10	智弁学園中学校	国立三瓶青少年交流の家	三瓶の自然と文化についての講話	安藤	100
	18	近畿島根経済倶楽部	リーガロイヤルホテル	講演会での講話	中村	25
	27	雲南市立加茂図書館	雲南市立加茂図書館	コウノトリ体験教室での講話	星野	20
8	1	益田市教育研究会生活科部会	益田市立益田小学校	昆虫等の採集、飼育、観察などの指導	皆木	26
	2	津和野町立津和野図書館	津和野町立日原小学校･津和野小学校	昆虫についての講話	皆木	18
	3	心光院サマースクール実行委員会	護念山心光院	サマースクールでの企画展の講話	安藤	30
	18	池田地区まちづくり推進協議会	池ノ原自治会館	浮布池の環境を守ろう研修会での講話	中村	20
	22	島根大学生物資源科学部	島根大学三瓶山演習林庁舎	森林フィールドワークでの昆虫の同定指導	皆木	16
	23	島根県造園協会	ふるさと森林公園	樹木の検索入門講習会での指導	井上	30
9	4	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	月のかたちと動きについての講話	矢田	16
	8	島根県立しまね海洋館アクアス	石見畳ヶ浦	化石の観察指導	遠藤	27
	14	大田市立温泉津公民館	大田市立温泉津総合体育館	水ロケットを飛ばそうの講師	矢田	30
	19	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	月と星の動きの解説	矢田	20
	24	浜田市立杵束公民館	浜田市立杵束公民館	キキョウの保護についての指導	井上	10
10	3	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	月と星の動きの解説	矢田	15
	8	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	大地のつくりの解説	遠藤	16

	9	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	大地のつくりの解説	遠藤	16
	9	大田市立北三瓶小学校	三瓶山西の原	希少植物についての学習	井上	16
	10	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	星空観察の指導	矢田	20
	10	大田市立朝波小学校	大田市波根町	地層学習の指導	遠藤	16
	11	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	大地のつくりの解説	遠藤	16
	12	わくわくサイエンスくらぶ	松江市城山公園	タネについての講話	井上	45
	15	大田市森づくり推進室	国立三瓶青少年交流の家	お手播き種子採取イベントでの自然体験	井上	15
	15	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	大地のつくりの解説	遠藤	16
	16	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	大地のつくりの解説	遠藤	16
	17	大田市立朝波小学校	大田市富山町	地層学習の指導	遠藤	16
	17	しまね野生鳥獣救護ボランティア	松江市合同庁舎	野鳥の識別についての講話	星野	30
	23	島根県立浜田高等学校	島根県立少年自然の家	月と星の動きの解説	太田	10
	25	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	月と星の動きの解説	矢田	60
	25	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	大地のつくりの解説	遠藤	60
	26	環境省中国四国地方環境事務所	三瓶山周辺	秋の植物観察の指導	井上	10
	27	島根県高等学校体育連盟登山専門部	三瓶山自然館	三瓶の自然についての講話	安藤	200
	30	雲南市立掛合小学校	雲南市立掛合小学校他	地層についての講話と地層見学	遠藤	26
11	4	邑南町出羽公民館	志津岩屋弥山	秋の自然観察会の指導	松原	23
	7	島根県立大学	島根県立大学	しまね文化論での講話	中村	100
	14	大田市立北三瓶中学校	大田市立北三瓶中学校	天体観察会用の教員研修	太田	2
	15	島根県高等学校文化連盟自然科学専門部	国立三瓶青少年交流の家	研究発表会の審査	遠藤	82
	16	島根県高等学校文化連盟自然科学専門部	国立三瓶青少年交流の家	自然科学部の体験活動の指導	井上 竹内 皆木 太田 矢田 安藤 遠藤	82
	22	大田市立北三瓶中学校	大田市立北三瓶中学校	放射線学習の指導	矢田	5
	23	環境省中国四国地方環境事務所	隠岐郡西ノ島町国賀浜園地	天体観察会の指導	太田	30
	29	島根大学	島根大学	地域博物館についての講話	中村	100
12	6	大田市校長会	福光石石切場	福光石と石切場の特徴についての解説	中村	20
	16	浜田市杵束公民館	浜田市杵束公民館	キキョウの保護についての指導	井上	10
	27	大田市教育委員会山村留学センター	三瓶山北の原	アンモナイトについての講話	遠藤	30
1	13	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	冬の自然散策の指導	井上	25
	15	石見銀山ガイドの会	大田市民センター	大久保間夫のコウモリについての講話	安藤	40
	16	大田市立五十猛小学校	大田市三瓶町志学	地層観察の指導	遠藤	15
	18	子どもエコクラブ上津探検隊	上津コミュニティセンター	家に住み着く生きものについての講話	皆木	50
	22	なぎさ公園小学校	国立三瓶青少年交流の家	冬の自然観察の指導	井上 星野 皆木 矢田	70
	22	なぎさ公園小学校	国立三瓶青少年交流の家	ほ乳類についての講話	安藤	70

	25	公益財団法人日本自然保護協会	大阪市立自然史博物館他	NACS-J自然観察指導員全国大会でのコーディネーター	星野	30
	29	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	保育者養成事業での指導	井上	25
2	5	奥出雲町立高尾小学校	奥出雲町立高尾小学校	外来生物についての講話	星野	5
	7	美郷町立大和中学校	美郷町立大和中学校	放射線学習の指導	矢田	11
	7	島根県立邇摩高等学校	島根県立邇摩高等学校	宇宙･地質についての講義	太田 遠藤	80
	9	大田市教育委員会	大田市民センター	石見銀山学講座での講話	井上	50
	19	大田市立北三瓶中学校	大田市立北三瓶中学校	火山学習の講話	遠藤	7
	23	出雲･雲南地域広域連携生態系ネットワーク	出雲科学館	出雲･雲南にくらす水鳥についての講話	星野	41
	26	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリに関する学習	星野	50
合　計				80件		3,173

□講師派遣実施状況(環境保全活動事業)((9)講師派遣(p.58)関係)

月	日	事業名	場　　所	内　　容	講師	人数
5	10	島根県エコリーダー研修	隠岐合同庁舎	職場や家庭でできる省エネでエコな生活	葭矢	7
	15	〃	浜田合同庁舎	〃	〃	38
	17	〃	島根県庁講堂	〃	〃	122
6	7	広島県うちエコ診断キックオフ研修会	広島県環境保健協会	職場や家庭でできる省エネでエコな生活	葭矢 伊藤	40
10	7	環境アドバイザー派遣	社会保険診療報酬支払基金島根支部	地球温暖化対策について	野崎	20
11	20	総合学習の時間出前授業	浜田市立原井小学校	海ゴミの話	葭矢	20
12	1	環境アドバイザー派遣	大田市民会館	これからの時代の「本当の豊かさ」	〃	50
合　計				7件		297

５．評議員会・理事会等

（１）評議員会

①第13回評議員会（令和元年度定時評議員会）

・開 催 日：令和元年6月20日（木）
・開催場所：大田市民会館　第1会議室
・出 席 数：評議員5名、監事1名
・議　　題：報告事項　事業概況について
　　第1号議案　平成30年度事業報告及び決算報告の件
　　第2号議案　任期満了に伴う理事及び監事選任の件
　　第3号議案　任期満了に伴う評議員選任の件
　　第4号議案　評議員改選に伴う評議員会議長選定の件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

（２）理 事 会

①第22回理事会（令和元年度第1回定時理事会）

・開 催 日：令和元年5月23日（木）
・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
・出 席 数：理事5名、監事1名
・議　　題：報告事項　理事長及び常務理事の職務執行状況
　　第1号議案　平成30年度事業報告及び決算報告の件
　　第2号議案　第13回評議員会招集の件
　　第3号議案　任期満了に伴う三瓶自然館運営委員選任の件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

②第23回理事会（臨時理事会）

・開 催 日：令和元年6月20日（木）
・開催場所：大田市民会館　第1会議室
・出 席 数：理事5名、監事2名
・議　　題：第1号議案　役員改選に伴う理事長及び常務理事選定の件
・結　　果：原案どおり承認

③第24回理事会（令和元年度第2回定時理事会）

・開 催 日：令和2年3月26日（木）
・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
・出 席 数：理事5名、監事2名
・議　　題：報告事項　理事長及び常務理事の職務執行状況
　　第1号議案　令和元年度予算補正の件
　　第2号議案　令和2年度事業計画及び予算の件
　　第3号議案　規程改正の件（給与規程、就業規程）
・結　　果：全号とも原案どおり承認

（３）三瓶自然館運営委員会

本委員会は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設を運営するにあたり、島根県の自然系博物館としてのあり方や、広く県民に親しまれ利用される方策について協議するための、外部委員による会である。

①第９回運営委員会

・開 催 日：令和元年9月20日(金)
・開催場所：島根県立三瓶自然館
・出 席 数：運営委員及び財団事務局、島根県自然環境課　計21名
・概　　要：三瓶自然館の運営状況と課題について意見交換を行った。第71回全国植樹祭及び三瓶自然館ビジターセンター機能強化整備の状況を踏まえ、学校団体を中心とした利用促進の方策、地域との連携強化について意見を交換した。

公益財団法人しまね自然と環境財団
Shimane Nature and Environment Foundation